

設置の趣旨等を記載した書類
(目次)

1	設置の趣旨及び必要性	P. 2
2	学部・学科等の特色	P. 9
3	学部・学科等の名称及び学位の名称	P. 11
4	教育課程の編成の考え方及び特色	P. 13
5	教員組織の編成の考え方及び特色	P. 21
6	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P. 28
7	施設、設備等の整備計画	P. 42
8	入学者選抜の概要	P. 43
9	取得可能な資格	P. 50
10	実習の具体的計画	P. 51
11	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	P. 53
12	昼夜開講制を実施する場合の具体的計画	P. 53
13	編入学定員を設定する場合の具体的計画	P. 53
14	2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	P. 53
15	社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合の具体的計画	P. 54
16	多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	P. 54
17	通信教育を実施する場合の具体的計画	P. 54
18	管理運営	P. 54
19	自己点検・評価	P. 54
20	情報の公表	P. 54
21	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P. 55
22	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P. 55

理学部

1 設置の趣旨及び必要性

ア 学部等設置の理由及び必要性

自然の奥底に潜む真理を追求し、普遍化・体系化する学問が理学-自然科学-である。理学は、有史以来、何千年にわたって人類の発展を支えてきた。そしてこの理学の基盤の上に、現代の科学技術は成り立っている。そうした長期的視点とは別に、現代の科学技術は非常に速いスピードで発展している。インターネット、人工知能、バイオテクノロジーなどの登場は我々の生活、社会構造をも大きく変えつつある。巨大地震・巨大台風などの自然災害の予測と防災、地球温暖化防止、生物多様性保存など、人類の英知を結集して取り組まなければならない課題は山積している。そして、それらの基盤にも理学があることを忘れてはならない。理学無くして科学技術の進歩は無く、我々の文明社会の持続的で健全な発展は望めない。

新時代の理学部には二つの要素が求められる。一つは、真理を探求し人類の知の最前線を切り拓き、長期的かつ普遍的に人類を支えて来た自然科学を次世代に向けて継承することである。これが理学部・理学研究科の核であり、この部分は短期的な社会情勢の変化に左右されるものではない。もう一つは、真理の探求の結果得られた成果を、社会に向けて、発展させ展開することである。これは、速いスピードで変化する科学技術に対応し、成果を社会に発信・還元することを含む。本学部は、これらの二つの要素を兼ね備えたものを目指す。

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」は、21世紀を「知識基盤社会」の時代と位置づけ、「人々の知的活動・創造力が最大の資源である我が国にとって、優れた人材の育成と科学技術の振興は不可欠」と提言している。国際競争が激化するこれからの社会において、科学技術の実力は国力を左右すると言っても過言ではない。この答申を踏まえ、本学部は大阪市立大学理学部と大阪府立大学生命環境科学域理学類を統合し、数学、物理学、化学、生物学、地球学、生物化学の6学科を擁する、大阪における総合的理学教育の一大拠点を形成する。そして、本学部は我が国最大の公立大学となり研究大学を目指す本学の理系の教育・研究の中核を担う。また、世界第一線の研究成果を出し人類の知の最前線を切り拓くとともに、その研究活動を学部教育に還元し、次世代の我が国を担う優れた人材の育成・輩出を行うことを通じて、大阪の発展にも貢献することを責務とする。本学が、理系、文系、医療系の幅広い学問体系を擁する総合大学として世界最高レベルのプレゼンスを示すためには、このような役割を担う本学部は是非とも必要である。

なお、「学生の確保の見通し等を記載した書類」のとおり、本学部においては、長期的かつ安定的に学生を確保することができる。

イ 人材養成の方針、及び、ディプロマポリシー

本学部は、人文・社会科学から自然科学に至るまでの幅広い学問を学習し、数学、物理学、化学、生物学、地球学、生物化学などの理学における専門的知識を修得するとともに、

主体的な探究心を育み、それに基づく洞察力、問題解決能力と論理的思考力を有し、グローバルな視点から物事を考える高い素養と創造力を身につけ、次世代の社会を担う人材の育成を目指す。この教育目的に照らして、次のような能力を身につけたものに学位を授与する。

1. 数学、物理学、化学、生物学、地球学、生物化学などの自然科学から、人文・社会科学に至るまで幅広く豊かな教養を修得し、グローバルな視点から物事を考える高い素養と能力を身につけている。
2. 理学を学ぶ上で必要となる数学、自然科学の各分野、及び情報技術などの基礎的知識を修得し、論理的思考力を身につけている。
3. 理学を学ぶ上で必要な情報を収集し、量的・質的に分析及び解析し、適切に判断できる能力を備えている。
4. 理学各領域の専門的知識を修得し、さまざまな専門分野における問題解決能力、及び発展させる能力を身につけている。
5. 論理的な記述力、及び口頭発表、討論の能力を身につけ、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を備えている。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野

自然科学の全分野をカバーする。具体的には、数学、物理学、化学、生物学、地球学、生物化学である。

数学科

ア 学科設置の理由及び必要性

数学は、全ての科学の基礎であり共通の言葉である。また、なにものにも縛られず、純粹に人間の知的欲求、美意識から生まれた不朽の価値を有する文化である。このように基礎的かつ普遍的である数学は、科学技術の急速な発展や情報社会の高度化を支えながら、今後広がりや深みを増して益々重要になっていくであろう。本学科はこの社会の要請に応えるべく、数学のさらなる広がりや深化を目指して教育研究を行う。自由な学問的雰囲気の中、知ることへの憧れ、考えることの楽しさ、問題解決の喜びを大切にして、物事の本質を見極め、自由で独創的な発想ができ、自らが理解したことを正確にわかりやすく表現できる人材を育成する。

イ 人材養成の方針、及び、ディプロマポリシー

基礎的な数学の知識、論理力とともに、数学の最先端に連なる学力を身につけ、伸びやかな発想と論理的思考力で、さまざまな数理的問題に対処できる、次世代の社会を担う人材の育成を目指す。この教育目的に照らし、次のような能力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 数学を含む自然科学から、人文・社会科学に至るまで幅広く豊かな教養を修得し、グローバルな視点から物事を考える高い見識と能力を身につけている。
2. 数学、自然科学の各分野、及び情報技術などの基礎的知識を修得し、論理的思考力を身につけている。
3. 数学を学ぶ上で必要な情報を収集し、量的・質的に分析及び解析し、適切に判断できる能力を備えている。
4. 数学の専門的知識を修得し、さまざまな専門分野における問題解決能力、及び発展させる能力を身につけている。
5. 論理的な記述力、及び口頭発表、討論の能力を身につけ、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を備えている。
6. 数学の専門知識と技術を利用して、さまざまな制約条件の下での適切な解決法を見出し、主体的かつ計画的に実施する研究遂行能力を身につけ、それらを応用する力及び創造する力を修得している。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野

数学の全分野を網羅する。具体的には、数理論理学、代数学、幾何学、解析学、確率統計学、応用数学である。

物理学科

ア 学科設置の理由及び必要性

物理学は、自然現象に対する系統的な観測、実験及び理論的考察を通じて、自然現象の背後に存在する普遍的な法則を追求する学問である。物理学の進展は、自然に対する我々の認識を深く豊かに掘り下げると同時に、産業発展の原動力ともなっている。科学技術の急速な発展・高度化に伴い、基礎研究の重視と新しい発想を求める社会的要請はますます高まっており、基礎的な知識を修得し、緻密な論理的思考力を持つ人材が求められている。本学科では、系統的に組まれたカリキュラムによる物理学の理論・実験の両面からの教育、最先端の研究に、幅広い教養教育を加えて、未解決の問題に論理的思考と柔軟性を持って挑む、創造性豊かな人材を養成し、上記の社会的要請に応える。

イ 人材養成の方針、及び、ディプロマポリシー

基礎研究と科学技術に対する社会的要請に応えるために、物理学の深い知識、論理的思考力とともに幅広い自然科学、科学技術の知識を持つ人材の育成が重要である。本学科では、科学者が負っている社会的責任を理解し、物理学が対象とする森羅万象から知見を得るための理論的手法・実験的手法、得た知見を正確に伝える能力の修養を通じて、広く社会に貢献できる人材、及び大学院博士前期課程でさらなる研究を行える人材を育成する。この教育目的に照らして、次のような能力を身につけた学生に学士の学位を授与する。

1. 自然科学、数学、情報科学、さらには人文・社会科学に至るまでの幅広い教養と外国語能力を習得し、社会人として必要な教養、グローバルな視点から物事を考える高い素養、自主的・総合的な判断力を身につけていること。
2. 現代物理学の理論的手法と実験的手法の両方を修得し、あらゆる現象の理解のための基礎的能力と、論理的思考力を身につけていること。
3. 専門的な科目の履修を通して、物理学をさまざまな分野へ応用する能力、それらの分野をさらに発展させる能力を身につけていること。
4. 自由な課題の実験・演習を通して、自らテーマの設定を行うことにより創造力や主体的に考える素養と能力を身につけていること。
5. 得られた知見を正確に伝えるための、論理的な記述力、口頭発表・討論の能力を身につけ、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を備えていること。
6. 科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、科学者が負っている社会的責任について理解していること。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野

物理学の全分野を網羅する。具体的には、数理物理学、素粒子物理学、原子核物理学、宇宙物理学、物性物理学である。

化学科

ア 学科設置の理由及び必要性

化学は、原子・分子の観点から物質の本質を明らかにし、新しい物質・分子を創製する学問である。新しい分子を作り出し、未知の機能を探り出すことで、分子の潜在的可能性を開拓する創造的探究によって化学は進歩してきた。先人のたゆまぬ努力によって蓄積されてきた化学の知識と技術は、現代社会に多くの豊かさをもたらし、今や、私たちの生活に必要不可欠なものとなっている。化学の知識と技術を継承し、かつ、最先端を切り開く素質を備えた化学人材が、本国のみならず世界的に求められている。

本学科では、高度な知識を身につけ、豊かな社会の構築と社会問題の解決に立ち向かう創造力豊かな化学人材を育成する。体系的な化学教育を提供し、幅広い化学の専門知識を教授することによって、高度な化学人材の育成に対する社会からの要請に応える。

イ 人材養成の方針、及び、ディプロマポリシー

多様性を認めるグローバルな社会において、複雑な要求（課題）に対応できる総合的人間力を有し、自然科学全般にわたる幅広い素養、化学の専門知識と技能並びにそれを英語で論理的に発信する能力を身につけ、創造的な化学の領域を切り開くことが

できる人材を養成する。この教育方針に照らし、次の能力を身につけたものに学士（理学）の学位を授与する。

1. 化学、数学、物理学、生物学、地球学、生物化学などの自然科学全般にわたる幅広い素養を修得している。
2. 専門的な科目の履修を通して、化学の基礎を養う。その知識と技術を、境界領域を含む科学の発展に生かす実践力を身につけている。
3. 英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語論文として発信する能力の鍛錬を通して、コミュニケーションツールとしての英語能力とその土台となる国語力とコミュニケーション基礎能力を修得している。
4. 理論と実践の両面から、論理的な議論を行うことができ、議論を通じて問題を解決する提案力を身につけている。
5. 化学者としての社会的責任を自覚し、化学の知識を人間社会の発展に生かすための実践的化学力をもって、社会に貢献することができる力を身につけている。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野

物理化学、無機化学、及び、有機化学とその境界領域を含む化学分野。

生物学科

ア 学科設置の理由及び必要性

地球上の生物はたった一つの祖先を起源とし、進化を繰り返すことで多様化してきた。そして現在、動物、植物、微生物などの多様な生物がお互いに関わり合い、生態系を作り出している。生物学は、これらの生物を分子・細胞から生態系に至る幅広い階層で解析し、生物の進化・多様性の本質及び生命現象の普遍性を探求する学問である。急速に発展する現代社会では、生物にまつわる種々の問題が存在する。それらの問題を正しく理解し、解決できる人材が、今まさに求められている。本学科では、体系的に組まれたカリキュラムにより、生物学に関する幅広い専門知識と柔軟な思考力及び実験技術を修得し、高い創造性を磨き、それによりさまざまな問題を自発的に考えて解決することができる人材の育成を行う。

イ 人材養成の方針、及び、ディプロマポリシー

生物学における専門的知識、生物学に関するさまざまな実験技術、自身が持つ知見を正確に伝える能力の修養を通じて身につけた主体的な探究心と、高い洞察力、論理的思考力と問題解決能力を有し、グローバルな視点から物事を考える高い素養と創造力を身につけた、次世代の社会を担う人材の育成を目指す。この教育目的に照らして、次のような能力を身につけたものに学士の学位を授与する。

1. 数学、物理学、化学、生物学、地球学、生物化学などの自然科学から、人文・社会科学に至るまで幅広く豊かな教養を修得し、グローバルな視点から物事を考える高い素養と能力を身につけている。

2. 生物学を学ぶ上で必要となる数学、自然科学の各分野、及び情報技術などの基礎的知識を修得し、論理的思考力を身につけている。
3. 生物学を学ぶ上で必要な情報を収集し、量的・質的に分析及び解析し、適切に判断できる能力を備えている。
4. 生物学の各領域の専門的知識を修得し、さまざまな専門分野における問題解決能力、及び発展させる能力を身につけている。
5. 論理的な記述力、及び口頭発表、討論の能力を身につけ、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を備えている。
6. 生物学の専門知識と技術を利用して、さまざまな制約条件の下での適切な問題解決法を見出し、主体的かつ計画的に実施する研究遂行能力を身につけ、それらを応用する力及び創造する力を修得している。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野

生物学の全分野を網羅する。具体的には、微生物学、生物物理学、細胞生物学、発生生物学、生理学、生態学、分類学、進化生物学である。

地球学科

ア 学科設置の理由及び必要性

地球学は、過去から現在に至る地球の実態を学際的に認識し、その未来を予測するための知識と技術を構築するための学問である。地球の真の姿を把握するためには、地球を構成する物質の物理・化学作用によって生起する現象の法則性を明らかにするとともに、さまざまな作用が相互に影響し、変遷を重ねてきた複雑なシステムとしての地球の歴史を追究する必要がある。これらは、人類の活動と生存に密接に結びついている現在の地球環境を理解するための基礎知識として重要な役割を果たす。さらに、科学技術と一般社会が密接に結びついた現在においては、地球環境の理解のみでなく、その成果を応用させ、社会に発信・還元することが求められている。

本学科では、地球の形成と進化を現在の地球の環境とその変遷史から解析し、その成果をもとに、地球環境問題の解決や自然災害の予測と対策などの社会的要求に応えることのできる人材の育成を教育目標とする。

イ 人材養成の方針、及び、ディプロマポリシー

上記のような人材育成のためには、幅広い自然科学及び科学技術の知識とこれらを地球学に展開できる能力、またグローバルな視点に基づき多面的に思考できる能力の育成が重要である。本学科では、地球の環境や進化を多面的にまた時系列的に捉えるための理論的手法・実験的手法、野外での調査技術、得た知見を正確に伝える能力の修養を通じて、さまざまな専門分野における問題解決能力を身につけ、広く社会に貢献できる人材、及び大学院進学により更なる研究を志す人材を育成する。

この方針に照らして、所定の修得要件を満たすことにより、下記の全ての能力を身につけた学生に、学士(理学)の学位を授与する。

1. 数学、物理学、化学、生物学、地球学、生物化学などの自然科学から、人文・社会科学に至るまで幅広く豊かな教養を修得し、グローバルな視点から物事を考えることができる。
2. 地球学を学ぶ上で必要となる数学、自然科学の各分野、及び情報技術などの基礎的知識を修得し、論理的に思考することができる。
3. 地球学を学ぶ上で必要な情報を収集し、量的・質的に分析及び解析し、適切に判断することができる。
4. 地球学の専門的知識を修得し、さまざまな専門分野における問題解決能力を身につけ、それらの分野をさらに発展させることができる。
5. 論理的な記述力、及び口頭発表、討論の能力を身につけ、国際的にコミュニケーションすることができる。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野

地球環境学(第四紀自然学、地球物理学、地球情報学、自然災害科学)及び地球進化学(地球物質学、岩石学、地球史学)である。

生物化学科

ア 学科設置の理由及び必要性

ヒトを含む多くの生物種のゲノム遺伝情報が解読され、生物学の研究は飛躍的に進展した。しかし、ゲノムの遺伝情報が解読されるに至っても、ゲノムを構成する遺伝子の発現調節機構、タンパク質をはじめとする生体分子やその集合体の構造と機能については、未解明の部分が多い。さらに、これらの構成因子が高度に組織化されて細胞が形成され、多種多様な細胞が相互のコミュニケーションを介して生体システムを構成するメカニズムは、ほとんど解明されていない。したがって、生命活動を担う生体分子やその集合体の構造、機能、相互作用などを主な研究対象とし、化学、生化学、分子生物学、細胞生物化学、バイオテクノロジー、ケミカルバイオロジーなどを基礎とした解析により、生体の秩序が維持されるしくみ、生体分子が細胞や生体を形作るしくみ、それらが周囲の環境に応答するしくみの分子論的解明が非常に重要である。これらの研究を担う人材の育成を目指す学科として、本学科の設置が是非とも必要である。

また、21世紀の日本では、国民の3人に1人が65歳以上となる高齢化社会を迎える。高齢化に伴う病気の罹患を低減し、健全な社会生活を維持していくためには、病気の発症メカニズムの解明、予防方法の確立、創薬などにつながる戦略的な基礎研究が極めて重要である。生命機能の分子論的解明を目指す研究をさらに発展させ、生体システムの破綻によって引き起こされる疾病の克服につながる研究を推進する人材の養成を行うことで、高齢化社会の諸問題の解決に貢献するためにも、本学科の設置が必要である。

イ 人材養成の方針、及び、ディプロマポリシー

さまざまな生体分子やその集合体が高度に組織化されて、多種多様な細胞が形成される。さらに、これらの細胞が相互のコミュニケーションを介して生体システムを構成している。また、生体システムには、外部環境の変化に適応する能力が備えられている。本学科では、これらのメカニズムを分子論的に理解するために必要な化学、生化学、分子生物学、細胞生物化学、バイオテクノロジー、ケミカルバイオロジーなどの専門的な知識の修得を目指す。さらに、論理的思考力や幅広い教養を身につけ、専門的な知識を生かして、ヒトのさまざまな疾病の発症メカニズムの解明、疾病の予防方法の確立、創薬などに向けた基礎研究に関連した分野で広く社会に貢献できる人材の育成を行う。また、当該分野で国際的な活躍のできる人材の育成を行う。この教育目的に照らして、次のような能力を身につけたものに学士の学位を授与する。

1. 数学、物理学、化学、生物学、地球学、生物化学などの自然科学から、人文・社会科学に至るまで幅広く豊かな教養を修得し、グローバルな視点から物事を考える高い素養と能力を身につけている。
2. 生物化学を学ぶ上で必要となる数学、自然科学の各分野、及び情報技術などの基礎的知識を修得し、論理的思考力を身につけている。
3. 生物化学を学ぶ上で必要な情報を収集し、量的・質的に分析及び解析し、適切に判断できる能力を備えている。
4. 生物化学領域の専門的知識を修得し、さまざまな専門分野における問題解決能力、及び発展させる能力を身につけている。
5. 論理的な記述力、及び口頭発表、討論の能力を身につけ、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を備えている。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野

生命活動を担う生体分子やその集合体の構造、機能、相互作用などを主な研究対象とし、化学、生化学、分子生物学、細胞生物化学、バイオテクノロジー、ケミカルバイオロジーなどを基礎とした解析により、生体の秩序が維持されるしくみ、生体分子が細胞や生体を形作るしくみ、それらが周囲の環境に応答するしくみの分子論的解明を目指す学問分野を対象とする。さらに、ヒトのさまざまな疾病の発症メカニズムの解明、疾病の予防方法の確立、創薬などに向けた基礎研究を含む学問分野も対象とする。

2 学部・学科等の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」では、各大学は「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を行うことが求められている。我が国最大の公立大学となる本学において、本学部は、「世界的研究・教育拠点」を目指し、6学科構成により自然科学の全分野をカバーすることで、本学の理系の研究・教育の中核を担う。

数学科

本学科は大阪府立大学生命環境科学域理学類数理科学課程、大阪市立大学理学部数学科の特色を受け継ぎ、代数学、幾何学、解析学、応用数学など幅広い数学の基礎的分野の教育研究を行う。

物理学科

本学科は大阪府立大学生命環境科学域理学類物理科学課程、大阪市立大学理学部物理学科の特色を受け継ぎ、物理学の広い分野を、実験・観測・理論という全ての手法でカバーするよう教員を配置しており、物理学の幅広い基礎的分野の教育研究を行う。

化学科

化学の学理追及を基本理念とする大阪市立大学理学部化学科と、科学の領域に波及効果を与える分子科学の発展を目指す大阪府立大学生命環境科学域理学類分子科学課程に蓄積された教育研究資源を集結することで、幅広い化学教育を実施することを特色とする。化学物質は急速な勢いで年々増え続けている。これに伴って、化学がカバーする領域は、既存の物理化学、無機化学、有機化学の化学領域の枠を超え、境界領域にまで広く拡充しつつある。物理化学、無機化学、有機化学に専門性を有する教員を配置し、バランスの取れた教育を行う。理論と実践の両面から自在に分子を設計・合成して新たな分子機能を創成し、新たな反応を開拓できる多角的な思考力を備えた化学系人材を養成する。

生物学科

本学科は、大阪市立大学理学部生物学科、大阪府立大学理学類生物科学科の特色を受け継ぎ、動物、植物、微生物などの生物を研究対象とし、分子・細胞(ミクロ)から生態(マクロ)に至る幅広い階層で解析し、生物の進化・多様性の本質及び生命現象の普遍性を探究する。さらに、学際的な教育体制により、生物学をさまざまな角度から学ぶ。

地球学科

本学科は、大阪市立大学理学部地球学科と大阪府立大学生命環境科学域理学類物理科学課程の地球学分野とを再編統合し、新たに自然災害科学分野を新設するものである。本学科の前身である大阪市立大学理学部地球学科は、1950年に大阪市立大学理工学部地学科として創設され、1959年に理学部地学科、1993年に理学部地球学科へと再編成されたが、学科創設以来一貫して地球科学の教育・研究を行ってきた。

本学科は、これまでの地球科学分野の特色を受け継いだ上で、増設された自然災害科学分野を含めた地球学の広い分野を、理論・実験・調査という全ての手法で網羅するよう教員を配置し、地球学の基礎から応用までの幅広い分野の教育研究を行うことにより社会の要請に応える。

生物化学科

本学科は大阪府立大学生命環境科学域理学類生物科学課程の特色を受け継ぎ、生体分子やその集合体に関与する多彩な生命現象(生体の秩序が維持されるしくみ、生体分子が細胞や生体を形作るしくみ、それらが周囲の環境に応答するしくみなど)のメカニズムを分子論的に解明する能力の修得を目指す教育・研究を行う。それに加え、ヒトのさまざまな疾病の発症メカニズムの解明、疾病の予防方法の確立、創薬などに向けた基礎研究を推進し、それを担う人材の養成を進める。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

ア 学部・学科等の名称及び当該名称とする理由

今日、学問分野における「理学」に分類されるのは、一般的に、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、天文学である。つまり、理学とは数学や自然の原理を追求する諸学問分野である。本学部は、真理を探究し人類の知の最前線を切り拓き、長期的かつ普遍的に人類を支えて来た自然科学を次世代に向けて継承することと、真理の探究の結果得られた成果を、社会に向けて、発展させ展開することをめざすことから、学部名称は「理学部」とする。本学部は、数学科、物理学科、化学科、生物学科、地球学科、生物化学科の6学科から構成されており、受験生にも理解されやすい。

数学科

本学科においては、代数学、幾何学、解析学、応用数学など幅広い数学の基礎的分野の教育研究を行う。したがって、学科名称は数学科とする。

物理学科

本学科は、数理物理学や素粒子物理学、原子核物理学、宇宙物理学、物性物理学分野の最先端の研究を行い、自然現象に対する系統的な観測、実験及び理論的考察を通じて、自然現象の背後に存在する普遍的な法則を追求する。科学技術の急速な発展・高度化に伴い、基礎研究の重視と新しい発想を求める社会的要請に応えるべく、物理学の理論・実験の両面からの教育、最先端の研究に、幅広い教養教育を加えて、未解決の問題に論理的思考と柔軟性を持って挑む、創造性豊かな人材の育成を目的とした教育・研究プログラムを提供する。よって、学科名称は物理学科とする。

化学科

分子構造の視点から自然の摂理を理解し、化学反応を駆使して新しい素材や技術を創出することができる化学は、未来社会の発展に貢献する基幹学問である。本学科は、優れた化学人材の育成を目的として、化学の3つの基幹分野である有機化学・無機化学・物理化学を教育研究することから、学科名称は化学科とする。

生物学科

本学科においては、動物、植物、微生物などの生物を分子・細胞から生態系に至る幅広い階層で解析し、生物の進化・多様性の本質及び生命現象の普遍性を、体系的に組み合わせたカリキュラムにより学び、高い創造性を磨き、それによりさまざまな問題を自発的に考えて解決することができる人材の育成を行う。さらに、得られた成果を、社会に向けて、発展させ展開することをめざす。よって、学科名称は、生物学科とする。

地球学科

本学科は、地球の形成と進化を現在の地球の環境とその変遷史から解析し、その成果をもとに、地球環境問題の解決や自然災害の予測と対策などの社会的要求に応えることのできる人材の育成を教育目標とし、地球を構成する物質の物理・化学作用によって生起する現象の法則性を明らかにするとともに、さまざまな作用が相互に影響し、変遷を重ねてきた複雑なシステムとしての地球の歴史を追究するため、総合的かつ分野横断的な課題の発見、調査分析、解決策の提案に至るまでの一連の能力養成を目的とした教育・研究プログラムを提供する。よって、学科名称は地球学科とする。

生物化学科

本学科においては、生命活動を担う生体分子やその集合体の構造、機能、相互作用などを主な研究対象とし、生化学、分子生物学、細胞生物化学、バイオテクノロジー、ケミカルバイオロジーなどの化学を基礎とした解析を駆使して、生体の秩序が維持されるしくみ、生体分子が細胞や生体を形作るしくみ、生体が周囲の環境に応答するしくみ等の分子論的解明を目指す。さらに、化学的なアプローチにより、病気の発症メカニズムの解明や創薬につながる基礎研究を進める。以上のように、生物学と化学の学際領域における研究と人材育成を目指すことから、学科名称は、生物化学科とする。

イ 学位の名称及び当該名称とする理由

本学部を構成する6学科の学位は学士(理学)とする。伝統的な「理学」を学位の名称とすることが最善である

ウ 学部・学科等及び学位の英訳名称

本学部、学科、学位の英語名称については、国際的に通用しやすいように、以下のとおりとする。

理学部	School of Science
数学科	Department of Mathematics
物理学科	Department of Physics
化学科	Department of Chemistry
生物学科	Department of Biology
地球学科	Department of Geosciences
生物化学科	Department of Biological Chemistry
学士(理学)	Bachelor of Science

4 教育課程の編成の考え方及び特色

ア 教育課程の編制方針(カリキュラムポリシー)

本学部では、人材養成の方針に従い、下記のカリキュラムを提供する。

1. 学部4年間で一応の完結性をもたせつつ大学院までを視野に入れた、基礎的内容から専門的内容へと段階的に進行する一貫した教育課程を編成する。
2. 幅広く豊かな教養を身につけるために、人文社会科学系科目を含む総合教養科目、及び、健康・スポーツ科学科目を置く。大学入学後、主体的かつ計画的に学ぶ能力を身につけるための初年次教育科目を、また、情報の収集方法やその技術を身につけるための情報リテラシー科目を置く。国際的に通用するコミュニケーション基礎能力養成のため、外国語科目を配置し必修とする。
3. 論理的思考力を身につけるため、数学、自然科学の各分野については、自らの専門領域にとらわれず、基礎科学から応用科学までの幅広い講義、演習及び実験科目を1年次から置く。
4. 知識の修得に合わせて段階的に各学年・学期に設定された演習科目、実験科目を通じて、理学を学ぶ上で必要な情報を収集し、それらを量的・質的に分析及び解析し、適切に判断できる能力を養う。
5. 各学科で必要な専門科目の講義、演習、実験科目を配当し、各学術領域における知識と技術を身につけ、専門分野における問題解決能力、及び発展させる能力を養う。
6. 卒業研究、演習では本学部における最先端の研究テーマを設定して、基礎的な研究遂行能力や成果をとりまとめる能力、論理的な記述力、口頭発表・討論の能力を育成する。系統的な学習・研究能力を担保するため、卒業研究履修要件を設ける。

各科目の学修成果は、定期試験、授業中の小テストや発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明記する。

イ 教育課程の概要及び特色

本学部は、自然科学としての真理探究を行うに耐えうる基礎知識と素養を持つ学生を育てる。学部4年間で完結性をもたせつつ大学院進学までを視野に入れた、基礎的内容から専門的内容へと段階的に進行する教育課程を編成する。主に1、2年次では国際基幹教育機構において、総合教養科目、基礎教育科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目も含めた幅広い知識・能力を習得する。3、4年次では、各学科の専門科目により、専門的な自然科学を学び、4年次に行う卒業研究を通じて、研究を体験するとともにそれを発信する能力を身につける。

本学部における科目の設定単位数については、大学設置基準に示されている時間の範囲内で定める。また、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせ・割合に応じて、先に設定した時間に基づき単位数を定める。

数学科

ア 教育課程の編制方針(カリキュラムポリシー)

現代数学の基礎概念を修得し、さまざまな数理的問題に対処できる論理的な能力を身につけるため、専門科目(講義・演習)が基礎から先端まで体系化されたカリキュラムを提供する。

1. 学部4年間で一応の完結性をもたせつつ大学院までを視野に入れた、基礎的内容から専門的内容へと段階的に進行する一貫した教育課程を編成する。
2. 自然科学一般や人間や社会などへの興味を深め、学び方そのものを自分自身でつかむということは大切な経験であることから、初年次教育科目・総合教養科目(キャリア教育科目を含む)を課す。また、情報の収集方法やその技術を身につけるための情報リテラシー科目を課す。
3. 収集した情報の分析及び解析し、適切な判断ができるようになるため初年次で初年次教育科目を課す。
4. 国際化の傾向が強くなっている現在、語学力の習得は必須である。語学力を基に外国文化への関心と理解を深めるために、外国語科目を必修とする。
5. 論理的思考力を身につけるため、数学にとどまらず、基礎科学から応用科学までの幅広い講義・演習科目を1年次から課す。
6. 数学は、とりわけ「積み上げ式」の性格の強い学問である。1年次に専門科目(数学要論 A、B、数学基礎演習 1、2)を積み上げの出発点として提供する。
7. 2年次後半からは、自らの主体的な探求心に基づいて選んだ専門分野について、基礎から先端に至るまで学べるよう選択科目を配置する。
8. 4年次には卒業研究により、自らが課題を発見し、問題を解決し、得られた成果を表現する能力を養う。

イ 教育課程の概要及び特色

数学の基礎的知識を修得させ、論理力を涵養するため、講義と演習及びゼミナールによる基礎から応用までの体系化された教育課程を編成し、専門科目 80 単位、基幹教育科目 53 単位の取得を課す。

1年次では、基礎的な数学の科目に加え、論理的思考力、発表による表現力を養うため十分な時間の演習科目を集中的に配置する。また、英語による理解力・表現力など、大学での学びの基礎となる力を養うための導入科目(初年次教育科目、外国語科目)を配置する。さらに、2年次まで込めて、人文社会科学系、情報科学系、語学、健康・スポーツ科学科目を含む基幹教育科目と、物理、化学、生物、地球の基礎教育科目を学ぶ。これにより、豊かな人間性、社会性、語学力、コミュニケーション能力、グローバルな視点を養う。

2年次から3年次にかけて、代数学、幾何学、解析学を講義と演習をペアにして十分な時間をかけて習得し、応用数学も含めたより専門性の高い数学へと自ら深めて行けることを目指す。

さらに、4年次では卒業研究を配置し、ゼミナールによる指導教員との議論を通じて、自らの自由な発想のもとに主体的に学び、問題解決の喜びを味わい、自らが理解したことを正確にわかりやすく表現できる能力を養う。

本学科における科目の設定単位数については、大学設置基準に示されている時間の範囲内で定める。また、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせ・割合に応じて、先に設定した時間に基づき単位数を定める。

物理学科

ア 教育課程の編制方針(カリキュラムポリシー)

本学科では、物理学の基礎知識の修得、理論的手法・実験的手法の修得及び論理的思考力の養成に重点をおいて教育する。3年次までは、将来の専門分野にとらわれず、物理学の基礎と根幹となる科目を中心に教育を行う。

1. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、基礎教育科目、総合教養科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、さらに現代物理学の基礎となる専門科目を置く。
2. 基礎教育科目の一部に力学・電磁気学などの物理学の基礎となる科目を配置し、統計力学や量子力学といった物理学の根幹を成す科目、より専門的かつ先端的な科目を専門科目として配置する。基礎から根幹、先端へと進む過程で、理論的手法・実験的手法の基礎的能力、論理的思考力を養う。
3. 演習科目を数多く配置して理解を助け、さまざまな専門分野へ応用・発展させる能力を養う。
4. 自由な課題の実験・演習、及び4年次の卒業研究と演習を通じて、創造力や主体的に

考える素養と能力、論理的な記述力、口頭発表・討論の能力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を養う。

5. 4年次の卒業研究と演習を通じて、科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、科学者が負っている社会的責任についても理解する。

イ 教育課程の概要及び特色

物理学の基礎的知識と論理的思考力を修得させるため、また理論・実験両方の手法を修得するため、基礎から先端まで体系化された教育課程を編成する。本学科における科目の設定単位数は、大学設置基準に示されている時間の範囲内で定める。また、講義、演習、実験、実習のうち二つ以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせ・割合に応じて、先に設定した時間に基づき単位数を定める。

1、2年次においては、人文社会科学系、情報科学系、語学、健康・スポーツ科学科目を含む基幹教育科目と、数学、物理、化学、生物、地球の基礎教育科目を学ぶ。これにより、豊かな人間性、社会性、語学力、コミュニケーション能力、グローバルな視点を養う。また、論理的思考力、発表における表現力、英語による理解力・表現力など、大学での学びの基礎となる力を養うための導入科目（初年次教育科目、外国語科目）を配置する。

2年次から4年次にかけては、講義・演習・実験からなる専門科目を、基礎から発展へと順に配置し、その過程で対象から知見を得るための理論的手法・実験的手法の基礎的能力を養う。特に、根幹となる科目には講義と演習を組み合わせで配置し、理解を助け、深めることを目指す。さらに、演習・実験・卒業研究においては少人数教育を実施し、きめ細かい指導を行う。

加えて、4年次に行う卒業研究と発表を通じて、既修の知識を統合し活用する能力、及びそれを通じて得た知見を正確に伝える能力を養う。

化学科

ア 教育課程の編制方針(カリキュラムポリシー)

人材育成の理念にそって、化学の知識、技能、及び創造的な思考力の3つを涵養するための教育課程を編成・実施する。

1. 全学及び本学科が定める履修規程にしたがって、語学、人文系科目、健康社会、情報科学系の基幹教育科目を学ぶことで、豊かな人間性、社会性、学問の多様性、国際性と語学力を養う。
2. 基礎教育科目を履修することにより化学の基礎となる学力を養う。
3. 1、2、3年次において、化学の基幹となる専門科目である、物理化学、無機化学、有機化学を体系的に学ぶ。
4. 3年次において専門講義と演習科目を学ぶ。化学実験を通じて、化学卒業研究を行うために必要とされる実践的技術を身につける。

5. 化学境界領域への視野を広げること、並びに、専門性の高い研究に対応するための応用力を培うために先端研究探索科目を提供する。
6. 4 年次の卒業研究において、少人数のゼミ、セミナー、研究活動を行うことで、より専門性の高い化学研究を実践するとともに、統合的な見地から研究に必要とされる、情報収集力、プレゼンテーション力、創造的思考力、理系作文力、及び学術論文を読解するための英語力を身につける。卒業研究発表と卒業論文の作成を通じて、研究成果とその意義を正しく相手に伝え、議論するためのコミュニケーション力と研究内容を整理し、文書としてまとめる理系作文技術を身につける。
7. 安全教育に関するセミナーを受講することで、化学物質の安全にかかるルール及び化学実験を安全に実施するための知識を身につけるとともに、化学者が果たすべき社会的責務を理解する。

イ 教育課程の概要及び特色

1、2 年次においては、人文社会科学系、情報科学系、語学、健康・スポーツ科学科目を含む基幹教育科目と、数学、物理、化学、生物、地球の基礎教育科目を学ぶ。これにより、豊かな人間性、社会性、語学力、コミュニケーション能力、グローバルな視点を養う。化学系人材に必要とされる実践力を養うために、物理、化学、生物、地球の基礎実験科目と化学に関する概論的な講義を学ぶ。講義と実験を有機的に組み合わせた科目編成により、学生の勉学意欲の向上を図る。

3 年次においては、より専門性の高い講義・演習科目を修学し、化学への理解を深めるとともに、実験科目を通じて、実験を行うための基礎的技術を身につける。実験・実習科目では複数の教員を配置し、安全面への配慮を十分に行いつつ、きめ細かい指導を行う。先端研究探索において、より専門的な研究を行うための化学基礎力と境界分野への視野を養う。

4 年次には、各研究室において複数の教員による指導のもと、化学研究に従事し、研究の進め方、まとめ方、プレゼンテーションの方法などを総合的に修得させる。これより高度な化学研究を実践するための素養を身に着ける。

本学科における科目の設定単位数については大学設置基準に示されている時間の範囲内で定める。また、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせ・割合に応じて、先に設定した時間に基づき単位数を定める。

生物学科

ア 教育課程の編制方針(カリキュラムポリシー)

本学科では、人材育成の方針に従い、下記のカリキュラムを提供する。

1. 学部 4 年間で完結性を持たせつつ、大学院教育までを視野に入れた、基礎的内容から専門的内容へと段階的に進行する一貫した教育課程を編成する。

2. 幅広く豊かな教養を身につけるために、人文社会科学系科目を含む総合教養科目、及び、健康・スポーツ科学科目を置く。大学入学後、主体的かつ計画的に学ぶ能力を身につけるための初年次教育科目を、また、情報の収集方法やその技術を身につけるための情報リテラシー科目を置く。国際的に通用するコミュニケーション基礎能力養成のため、外国語科目を配置し、必修とする。
3. 論理的思考力を身につけるため、数学、自然科学の各分野については、自らの専門領域の枠を超えた、基礎科学から応用科学までの幅広い講義、演習及び実験科目を1年次から置く。
4. 知識の修得に合わせて段階的に各学年・学期に設定された演習科目、実験科目を通じて、生物学を学ぶ上で必要な情報を収集し、それらを量的・質的に分析及び解析し、適切に判断できる能力を養う。
5. 本学科で必要な専門科目の講義、演習、実験科目を配当し、各学術領域における知識と技術を身につけ、専門分野における問題解決能力、及び発展させる能力を養う。
6. 生物学卒業研究、生物学卒業演習では生物学における最先端の研究テーマを設定して、基礎的な研究遂行能力や成果をとりまとめる能力、論理的な記述力、口頭発表・討論の能力を育成する。体系的な学習・研究能力を担保するため、卒業研究履修要件を設ける。

イ 教育課程の概要及び特色

本学科は、自然科学としての真理探究の実施に耐え得る基礎知識と素養を持つ学生を育てる。学部4年間で完結性を持たせつつ大学院進学までを視野に入れた、基礎的内容から専門的内容へと段階的に進行する教育課程を編成する。

主に 1、2年次には国際基幹教育機構において、総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目及び基礎教育科目を履修し、幅広い知識・能力を習得する。また、本学科の専門科目を段階的に配置することで、学年が上がるにつれて高度で広範な生物学の知識が身に付くように科目を配置する。

3年次には、より専門性の高い講義科目を履修し、生物学への理解をさらに深めるとともに、専門生物学実験を通じて、実験を行うための基礎的技術をきめ細かい少人数個別指導により身につける。

4年次には生物学卒業研究を通じて、研究を体験するとともに、生物学卒業演習によって、得られた結果を発信する能力を身につける。

本学科における科目の設定単位数については、大学設置基準に示されている時間の範囲内で定める。また、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせ・割合に応じて、先に設定した時間に基づき単位数を定める。

地球学科

ア 教育課程の編制方針(カリキュラムポリシー)

本学科では、学位授与方針のもとに、次の7つを目標として教育課程を編成・実施する。

1. 学部4年間で一応の完結性をもたせつつ大学院までを視野に入れた、基礎的内容から専門的内容へと段階的に進行する一貫した教育課程を編成する。
2. 幅広く豊かな教養を身につけるために、人文社会科学系科目を含む総合教養科目、及び、健康・スポーツ科学科目を置く。大学入学後、主体的かつ計画的に学ぶ能力を身につけるための初年次教育科目を、また、情報の収集方法やその技術を身につけるための情報リテラシー科目を置く。国際的に通用するコミュニケーション基礎能力養成のため、外国語科目を配置し必修とする。
3. 論理的思考力を身につけるため、数学、自然科学の各分野については、自らの専門領域にとらわれず、基礎科学から応用科学までの幅広い講義、演習及び実験科目を1年次から置く。
4. 知識の修得に合わせて段階的に各学年・学期に設定された演習科目、実験・実習科目を通じて、理学を学ぶ上で必要な情報を収集し、それらを量的・質的に分析及び解析し、適切に判断できる能力を養う。
5. 地球学に必要な専門科目の講義、演習、実験・実習科目を配当し、各学術領域における知識と技術を身につけ、専門分野における問題解決能力、及び発展させる能力を養う。
6. 野外実習やその基礎となる科目により、地球学の基礎的知識・技術を野外調査に活用する能力を身につける。
7. 卒業研究、ゼミナール及び卒業演習では地球学における最先端の研究テーマを設定して、基礎的な研究遂行能力や成果をとりまとめる能力、論理的な記述力、口頭発表・討論の能力を育成する。系統的な学習・研究能力を担保するため、卒業研究履修要件を設ける。

イ 教育課程の概要及び特色

1・2年次には、人文社会科学系科目を含む総合教養科目、健康・スポーツ科学科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目の学習により、主体的な学習能力及び豊かな教養、多面的な思考力を身につける。外国語科目の学習により外国語の読解力やコミュニケーション能力、グローバルな視点から行動する能力を修得する。幅広い領域にわたる自然科学の基礎的学問分野を体系的に学習し、それらを地球学分野へ展開する能力を養う。

専門科目では、1・2年次において、地形・地質投影法、測量及び測地学、野外実習、地質調査法などの実習を通じて、地球学の基礎的知識や技術を修得する。鉱物や岩石を識別・分類し、その成因を解析する方法、地圏・生物圏の歴史的変遷の探求法、地盤の力学特性の測定・評価法、地球情報のコンピュータ処理法の基礎を修得する。さらに、地球環境と人間・社会との接点に立って、地圏の開発と防災や環境変化の予測・評価を行える基礎的知識・技術を深める。

3年次においては、より専門的な知識や研究手法の修得を目指して、きめ細かい少人数個別指導による生専門分野ごとの専門科目を設置する。

4年次の卒業研究では、学術的課題や社会的要求を認識する能力、問題解決に向けて計画を立案する能力、立案した計画を遂行する能力、結果を考察・発表するための論理的な思考力・記述力やコミュニケーション能力など、自立した研究者・技術者としての問題解決能力と創造力を修得する。

なお、本学科における科目の設定単位数については、大学設置基準に示されている時間の範囲内で定める。また、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせ・割合に応じて、先に設定した時間に基づき単位数を定める。

生物化学科

ア 教育課程の編制方針(カリキュラムポリシー)

生体分子やその集合体が関与する多彩な生命現象のメカニズムを分子論的に解明する能力を養うこと、並びに、ヒトのさまざまな疾病の発症メカニズムの解明、疾病の予防方法の確立、創薬などに向けた基礎研究に関連した分野で、広く社会に貢献できる人材を育成することを目指し、以下のカリキュラムを提供する。

1. 学部4年間で一応の完結性をもたせつつ大学院までを視野に入れた、基礎的内容から専門的内容へと段階的に進行する一貫した教育課程を編成する。
2. 幅広く豊かな教養を身につけるために、人文社会科学系科目を含む総合教養科目、及び、健康・スポーツ科学科目を置く。大学入学後、主体的かつ計画的に学ぶ能力を身につけるための初年次教育科目を、また、情報の収集方法やその技術を身につけるための情報リテラシー科目を置く。国際的に通用するコミュニケーション基礎能力養成のため、外国語科目を配置し必修とする。
3. 論理的思考力を身につけるため、数学、自然科学の各分野については、自らの専門領域にとらわれず、基礎科学から応用科学までの幅広い講義、演習及び実験科目を1年次から置く。
4. 知識の修得に合わせて段階的に各学年・学期に設定された演習科目、実験科目を通じて、生物化学を学ぶ上で必要な情報を収集し、それらを量的・質的に分析及び解析し、適切に判断できる能力を養う。
5. 生物化学を理解するために必要な専門科目の講義、演習、実験科目を配当し、生物化学領域における知識と技術を身につけ、専門分野における問題解決能力、及び発展させる能力を養う。
6. 卒業研究、演習では生物化学領域における最先端の研究テーマを設定して、基礎的な研究遂行能力や成果をとりまとめる能力、論理的な記述力、口頭発表・討論の能力を育成する。系統的な学習・研究能力を担保するため、卒業研究履修要件を設ける。

イ 教育課程の概要及び特色

生物化学の基礎的知識や実験手法の修得に加え、論理的思考力などの養成に重点を置いた教育を行う。学士課程 4 年間で完結性をもたせつつ、大学院も視野に入れ、学士課程初年次から最終年次までを通して、講義、実験、演習が段階的に進行する一貫したカリキュラムを編成する。

1 年次には、幅広い領域にわたる自然科学及び数学などの基礎的な科目を設置する。それに加えて、論理的思考力、発表による表現力、英語の理解力・表現力など、大学での学びの基礎となる能力を養うための総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、さらに、健康・スポーツ科学科目を設置する。

2 年次から 3 年次にかけては、生化学、細胞生物化学、分子生物学、物理化学、有機化学などの基幹科目に加え、生体分子やその集合体の構造と機能、動植物の環境シグナルの受容と応答、ヒト疾病の発症メカニズムなどに関する学科専門科目を設置する。

また、2 年次後期から 3 年次前期にかけて設置される生物化学実験により、生物化学分野での汎用性の高い実験手法の修得を目指す。

3 年次後期においては、より専門的な知識や研究手法の修得を目指して、きめ細かい少人数個別指導による生物化学実験 3 を設置する。

引き続き 4 年次における生物化学卒業研究では、それぞれの学生が研究テーマに基づいて研究を進め、その成果を発表するというプロセスを通じて、専門的な研究に参加するとともに、具体的な課題の解決手法を修得することを目指す。

本学科における科目の設定単位数については、大学設置基準に示されている時間の範囲内で定める。また、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせ・割合に応じて、先に設定した時間に基づき単位数を定める。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

数学科

ア 教員組織編成の考え方

本学科の教育課程を担う教員は、本学科の専任教員、学内の兼任教員、そして非常勤の兼任教員である。必修科目や選択科目の多くは学科の専任の教授と准教授が担当し、周辺的な科目を兼任教員と兼任教員が担当する。本学科の専任教員は全員、博士号の学位を持つ数学の研究者である。学士課程においては、既出の本学部及び本学科の設置趣旨や特色で述べたことを踏まえた編成をする。即ち、本学科の学士教育として十分な数の専門科目を開講するとともに、各分野において十分な研究教育能力のある 35 名の専任教員を配置し、少人数教育によるきめ細かい研究指導を行える体制とする。

イ 教員組織編成の特色

本学科は、数理論理学、代数学、幾何学、解析学、確率統計学、応用数学という数学の広い専門領域をカバーする教員を配置する。学士課程における専任教員の専門分野別教員数は、数理論理学 1 名、代数学 10 名、幾何学 6 名、解析学 13 名、確率統計学 5 名 (国際基幹教育機構担当 1 名含む)そして応用数学 1 名となっており、実社会に貢献できる統計学及び応用数学を専門とする専門職業人・研究者の養成に十分な人員も配置する。

また、2024 年度以前は杉本と中百舌鳥の2校地、2025 年度からは杉本と森之宮の2校地で教育を実施するが、可能な限り同じ教員が同一日に2校地で授業をすることがないように時間割を組み、やむを得ない場合には、移動時間を考慮した時間割を組む。

ウ 専任教員の年齢構成

本学科の完成年度における専任教員の年齢構成は以下のとおりである。

(2025 年 (令和7年) 度完成予定)

職名	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計
教授	0	0	2	6	6	14
准教授	0	6	7	4	4	21
講師	0	0	0	0	0	0
助教	0	0	0	0	0	0
計	0	6	9	10	10	35

大阪公立大学の教員の定年は 65 歳と定められている (公立大学法人大阪教職員就業規則第 28 条) が、専任教員の中に本学科の完成年度を迎えるまでに定年退職する教員はいない。全体に年齢が高くなっているが、今後、計画的な人事補充によってカリキュラムの専門性・体系性を維持していくため、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活性化に支障はない。

物理学科

ア 教員組織編成の考え方

本学科の教育課程を担う教員は、本学科の専任教員及び非常勤の兼任教員である。必修科目や選択科目の多くは学科の専任の教授と准教授が担当し、周辺の科目を兼任教員が担当する。本学科の専任教員は全員、博士号の学位を持つ物理学の研究者である。学士課程においては、設置趣旨や教育課程の編成方針等で述べたように、物理学の基礎的知識・論理的思考力及び理論・実験両方の手法の修得を目的とする、基礎から先端まで体系化されたカリキュラムを提供するべく、十分な数の専門科目を開講するとともに、各分野において十分な研究教育能力のある専任教員を配置し、少人数教育によるきめ細かい研究指導を行える体制とする。

本学科で開講する専門科目（講義科目、演習科目、及び実験科目）のうち、必修科目を中心とした教育上主要と認める科目については、専任の教授または准教授を担当者として配置する。さらに、本学部、及び本学科の設置趣旨、特色並びに教育課程編成の考え方などを踏まえて、物理学分野の中核をなす専門科目（講義科目、演習科目、実験科目）については、教育・研究並びに実務経験において優れた知識、能力、及び実績を有する専任の教授 16 名、准教授 20 名、講師 4 名の合計 40 名を担当者として配置する計画である。本学科は 3 つの講座から構成され、各講座は複数の研究グループから構成される。

(1) 基礎物理学講座(素粒子論、原子核理論など)

(2) 宇宙・高エネルギー物理学講座(重力波実験、素粒子実験など)

(3) 物性物理学講座(光物性物理学、超低温物理学など)

各研究グループには、研究教育を遂行するための准教授以上の教員を必ず配置する。

イ 教員組織編成の特色

本学科は大阪市立大学理学部物理学科と大阪府立大学生命環境科学域理学類物理科学課程の物理学分野の特色を受け継ぎ、物理学の広い分野を、理論・実験・観測という全ての手法で網羅するよう教員を配置しており、物理学に関連する高度な知識と技術に基づいた幅広い分野の研究教育を行う。

また、2024 年度以前は杉本と中百舌鳥の 2 校地、2025 年度からは杉本と森之宮の 2 校地で教育を実施するが、可能な限り同じ教員が同一日に 2 校地で授業をすることがないように時間割を組み、やむを得ない場合には、移動時間を考慮した時間割を組む。

ウ 専任教員の年齢構成

本学科の完成年度における専任教員の年齢構成は以下のとおりである。

(2025 年(令和 7 年)度完成予定)

職名	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計
教授	0	0	1	7	8	16
准教授	0	0	6	12	2	20
講師	0	0	1	3	0	4
助教	0	0	0	0	0	0
計	0	0	8	22	10	40

大阪公立大学の教員の定年は 65 歳と定められている(公立大学法人大阪教職員就業規則第 28 条)が、専任教員の中に本学科の完成年度を迎えるまでに定年退職する教員が 1 名(教授)いる。全体に年齢が高くなっているが、今後さらなる計画的な人事補充によって、カリキュラムの専門性・体系性を維持していくため、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活性化に支障はない。

化学科

ア 教員組織編成の考え方

これまで述べてきた設置の趣旨、特色、教育課程等を踏まえた場合、本学科の教育上主要と認められる科目は、大きく分けて物理化学、無機化学、有機化学である。したがって、これらの授業科目にできる限り偏りなく、専任の教授または准教授を担当者として配置することを基本的な考え方とする。本学科の教育課程を担う教員は、本学科の専任教員（以下、専任教員）と学内の兼任教員、及び非常勤の兼任教員とする。専任教員と兼任教員は全員が博士の学位を持ち、それぞれの教育・研究分野の教育・研究業績において、本学科の教育研究を担うのにふさわしい専任教員を配置・採用する。専任教員は化学を専門とする研究者であり、必修科目や選択必修科目を担当する。必修講義科目（量子化学1、化学反応論1、分析化学1、無機化学1、無機化学2、有機化学1、有機化学2、有機化学3）については専任の教授あるいは准教授が担当する。必修実験科目（化学実験1、化学実験2、先端研究探索、化学卒業研究）については専任の教授あるいは准教授が主導するが、全ての教員が担当する。その他周辺の科目については兼任教員が担当する。

卒業要件単位数として129単位以上の教育課程を編成し、これに見合う十分な数の科目を開講するとともに、38名*の専任教員を配置し、少人数教育によるきめ細かい教育指導を行う。

*完成年次（2026年3月末）における教員数。

イ 教員組織編成の特色

化学の基幹となる物理化学、無機化学、有機化学の3つの学問分野を網羅的に教育するために、各分野に専門性を有する専任教員をほぼ均等に配置する。教育にあたる教員は全員が化学を専門とする学位を有しており、その陣容は、本学科が目指す高い専門性と幅広い化学知識を備えた専門職業人・研究者の養成に十分なものである。

また、2024年度以前は杉本と中百舌鳥の2校地、2025年度からは杉本と森之宮の2校地で教育を実施するが、可能な限り同じ教員が同一日に2校地で授業をすることがないように時間割を組み、やむを得ない場合には、移動時間を考慮した時間割を組む。

ウ 専任教員の年齢構成

本学科の完成年度における専任教員の年齢構成は以下のとおりである。

（2025年（令和7年）度完成予定）

職名	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計
教授	0	0	2	10	5	17
准教授	0	0	3	5	2	10

講師	0	0	7	3	1	11
助教	0	0	0	0	0	0
計	0	0	12	18	8	38

大阪公立大学の教員の定年は 65 歳と定められている(公立大学法人大阪教職員就業規則第 28 条)が、専任教員の中に本学科の完成年度を迎えるまでに定年退職する教員は、准教授で 1 名(2024 年度末退職予定)いる。全体に年齢が高くなっているが、今後、計画的な人事補充によってカリキュラムの専門性・体系性を維持していくため、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活性化に支障はない。

生物学科

ア 教員組織編成の考え方

本学科で開講する専門科目(講義科目、演習科目、及び実験・実習科目)のうち、必修科目を中心とした教育上主要と認める科目については、専任の教授または准教授を担当者として配置する。さらに、本学部、及び本学科の設置趣旨、特色並びに教育課程編成の考え方などを踏まえて、生物学の中核をなす専門科目(講義科目、演習科目、実験・実習科目)については、教育・研究並びに実務経験において優れた知識、能力、及び実績を有する専任の教授 11 名、准教授 10 名、講師 1 名、助教 2 名の合計 24 名を担当者として配置する計画である。

イ 教員組織編成の特色

本学科は、微生物学、生物物理学、細胞生物学、発生生物学、生理学、生態学、分類学、進化生物学という生物学の広い専門領域をカバーする教員を配置する。この教員組織により、生物学の主要分野はほぼ全て網羅されることになり、バランスのとれた教育を円滑に行える組織となる。所属する教員はいずれも、担当する授業科目の実施に関して、高度な専門性に基づく十分な研究業績と能力を有する。

また、2024 年度以前は杉本と中百舌鳥の 2 校地、2025 年度からは杉本と森之宮の 2 校地で教育を実施するが、可能な限り同じ教員が同一日に 2 校地で授業をすることがないように時間割を組み、やむを得ない場合には、移動時間を考慮した時間割を組む。

ウ 専任教員の年齢構成

本学科の完成年度における専任教員の年齢構成は以下のとおりである。

(2025 年(令和 7 年)度完成予定)

職名	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計
教授	0	0	1	6	4	11

准教授	0	0	4	4	2	10
講師	0	0	0	1	0	1
助教	0	0	0	2	0	2
計	0	0	5	13	6	24

大阪公立大学の教員の定年は 65 歳と定められている(公立大学法人大阪教職員就業規則第 28 条)が、専任教員の中に本学科の完成年度を迎えるまでに定年退職する教員が 1 名(准教授)、また任期が終了する教員が 1 名(助教)いる。全体に年齢が高くなっているが、今後計画的な人事補充によってカリキュラムの専門性・体系性を維持していくため、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活性化に支障はない。

地球学科

ア 教員組織編成の考え方

本学科においては、本学部及び本学科の教育目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを実現するべく編成した、卒業要件単位数 70 単位以上(専門科目)の教育課程に見合う十分な数の科目の開講、及び少人数教育によるきめ細かい研究指導が可能な体制とするために、地球学の各分野において十分な研究教育能力を有する 13 名の専任教員を配置した。本学科の教育課程を担う教員は、本学科の専任教員、学内の兼任教員、そして非常勤の兼任教員である。必修科目や選択科目の多くは学科の専任の教授と准教授が担当し、周辺の科目を兼任教員と兼任教員が担当する。十分な数の専門科目を開講するための専任教員数を配置する。本学科の専任教員は全員、博士号の学位を持つ地球学の研究者である。

本学科は 2 つの講座から構成され、各講座は 3 つまたは 4 つの研究グループから構成される。

- (1) 地球環境学講座(第四紀自然学、地球物理学、地球情報学、自然災害科学)
- (2) 地球進化学講座(地球物質学、岩石学、地球史学)

各研究グループには教授 1～2 名と准教授 1 名または 2 名を配置し、少人数に対するきめ細かい研究指導を行える体制とする。

イ 教員組織編成の特色

本学科は大阪市立大学理学部地球学科と大阪府立大学生命環境科学域理学類物理科学課程の地球科学分野の特色を受け継いだ上で、増設された自然災害科学分野を含めた地球学の広い分野を、理論・実験・調査という全ての手法で網羅するよう教員を配置しており、地球学に関連する高度な知識と技術に基づいた幅広い分野の教育研究を行う。

また、2024 年度以前は杉本と中百舌鳥の 2 校地、2025 年度からは杉本と森之宮の 2 校地で教育を実施するが、可能な限り同じ教員が同一日に 2 校地で授業をすることがないように時間割を組み、やむを得ない場合には、移動時間を考慮した時間割を組む。

ウ 専任教員の年齢構成

本学科の完成年度における専任教員の年齢構成は以下のとおりである。

(2025 年(令和7年)度完成予定)

職名	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計
教授	0	0	0	3	4	7
准教授	0	0	4	2	0	6
講師	0	0	0	0	0	0
助教	0	0	0	0	0	0
計	0	0	4	5	3	13

大阪公立大学の教員の定年は 65 歳と定められている(公立大学法人大阪教職員就業規則第 28 条)が、専任教員の中に本学科の完成年度を迎えるまでに定年退職する教員は、教授 1 名、准教授 1 名の計 2 名(両者とも 2023 年度末退職予定)おり、2023 年度中に人事を行い、カリキュラムの専門性・体系性を維持していく。全体に年齢が高くなっているが、今後、計画的な人事補充を行い、カリキュラムの専門性・体系性を維持していくため、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活性化に支障はない。

生物化学科

ア 教員組織編成の考え方

本学科においては、本学部及び本学科の教育目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを実現するべく、卒業要件単位数 131 単位以上の教育課程を編成し、これに見合う十分な数の科目を開講するとともに、生物化学の各分野において十分な研究教育能力のある 12 名の専任教員を配置し、少人数教育によるきめ細かい研究指導を行える体制とする。

本学科の教育課程を担う教員は、本学科の専任教員と非常勤の兼任教員である。本学部及び本学科の設置趣旨、特色、教育課程を踏まえ、生物化学分野の中核をなす必修科目や主要な選択科目は主として本学科の教授または准教授が担当する。一方、周辺的な科目を本学科の専任教員(教授、准教授、講師、助教)と非常勤の兼任教員が担当する。本学科の専任教員は全員、博士号の学位を持つ生物化学の研究者である。

イ 教員組織編成の特色

本学科は、構造生物学、生命化学、生体高分子化学、細胞機能制御化学、細胞組織工学、分子生物学、細胞生物化学、分子細胞遺伝学、放射線生物学、植物生理化学という生物化学の広い専門領域をカバーする教員を配置する。専任教員の専門分野別教員数は、構造生物学 2 名、生命化学 1 名、生体高分子化学 1 名、細胞機能制御化学 1 名、細胞組織工学 1 名、分子生物学 1 名、細胞生物化学 2 名、分子細胞遺伝学 1 名、放射線生物学 1 名、

植物生理化学 1 名となっており、生物化学を専門とする研究者や技術者の養成に十分な人員を配置する。

また、2024 年度以前は杉本と中百舌鳥の2校地、2025 年度からは森之宮と中百舌鳥との2校地で教育を実施するが、可能な限り同じ教員が同一日に2校地で授業をすることがないように時間割を組み、やむを得ない場合には、移動時間を考慮した時間割を組む。

ウ 専任教員の年齢構成

本学科の完成年度における専任教員の年齢構成は以下のとおりである。

(2025 年(令和7年)度完成予定)

職名	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計
教授	0	0	0	3	3	6
准教授	0	0	1	2	1	4
講師	0	0	1	0	0	1
助教	0	0	0	1	0	1
計	0	0	2	6	4	12

大阪公立大学の教員の定年は 65 歳と定められている(公立大学法人大阪教職員就業規則第 28 条)。本学科の専任教員は全体的に年齢が高くなっているが、完成年度を迎えるまでに定年退職する専任教員(教授 1 名)の後任を含め、今後の計画的な人事補充によって、カリキュラムの専門性・体系性を維持していくため、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活性化に支障はない。

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

ア 教育方法等

イ 履修指導方法

ウ 卒業要件

エ 履修モデル

各学科参照

オ 多様なメディアの活用

該当なし

カ 履修科目の上限設定

学生が履修登録できる授業科目は、年間 50 単位未満、前期 25 単位以下、後期 25 単位以下とする。ただし、自由科目、卒業要件外の教職・資格科目、他の科目の授業時間外学修を妨げない期間に開講される科目(集中講義、インターンシップ科目など)を対象外とする。ま

た、成績優秀者については、次学期の履修登録可能な単位数の上限を緩和することができる。「成績優秀者」の定義や引き上げ単位数については、別途定める。

キ 他大学における授業科目の履修等

本学が学術交流協定を締結した協定校、あるいは本学が認定した大学等に留学した者は、30 単位を超えない範囲で、本学で修得した単位と認定することがある。

数学科

ア 教育方法等

授業科目は基幹教育科目、専門科目、卒業研究科目に分かれる。

基幹教育科目では「微積分1A、2」、「線形代数1、2A」が必修科目である。

専門科目は主に本学科の専任教員が授業を行うが、場合によっては、学内の兼任教員や非常勤の兼任教員が行う場合もある。専門科目の多くには、対応する演習科目を設定して学生の理解の定着を図る。4年次の「卒業研究 A、B」は卒業研究のための科目であり、必修である。指導教員が主宰するゼミナールに参加・発表する。各科目の予習・復習を単位認定基準どおりに学生にさせるため、履修科目の年間登録上限を 50 単位未満(半期で 25 単位を超えないものとする)とする。

学生定員を 40 名としているので、講義科目と卒業研究を除く演習科目には使用教室の学生収容人数から判断して、1 クラス対応で適切な学生数となっている。「卒業研究 A、B」に関しては教育効果を高めるため、各教員に最大 3 名までの配属とし、講義の 2.5 倍の時間をかけて研究をすることを標準とするため、5 単位の設定とする。

イ 履修指導方法

1年次

外国語科目、総合教養科目とともに 1 年次より基礎教育科目の履修指導を適切に行う。中でも必修科目である「微積分1A、2」、「線形代数1、2A」、専門科目である「数学要論 A、B」、「数学基礎演習 1、2」は卒業までの 4 年間の数学の基礎であるので、落ちこぼれが出ないように懇切丁寧に履修指導を行う。

2、3年次

2年次配当の「代数学1」、「位相数学1」、「解析学1」などの重要科目は演習もつけ、学生自らが主体的に学べるようにする。2年次後期からの科目は全て選択科目とし、学生が代数、幾何、解析、確率統計、応用数学などの専門性を高められるようにする。

4年次

3年次終了時に卒業研究の指導教員を決め、4 月に入ってから、適当なテキストをもとに週 1 回ゼミナールを行う。2月には 1 年間のゼミナールの総決算として卒業研究発表会を行い、専

門的な内容の理解力、プレゼンテーション能力を評価する。合格すれば必修である卒業研究の単位を与える。

ウ 卒業要件

学生の全人格的な知識の養成の観点に基づき基幹教育科目から 53 単位、数学の専門的能力の養成の観点に基づき、専門科目から 80 単位の合計 133 単位以上を修得し、必修科目である「数学卒業研究 A、B」を修得すること。卒業研究はゼミナール形式で実施し、予習復習も含めて通常の講義の 2.5 倍の時間を学生がかかることを想定しており、半期で5単位は妥当な値である。

本学科では、学士課程の卒業要件として次の事項を定める。

大分類	中分類	小分類	単位数	
基幹教育科目	総合教養科目		選択必修 10 単位	他 10 単 位 を 選 択 必 修
	初年次教育科目		必修 2 単位	
	情報リテラシー科目		必修 2 単位	
	外国語科目	英語	必修 6 単位	
		初修外国語	必修 2 単位	
	健康・スポーツ科学 科目	講義	必修 2 単位	
		実習	必修 1 単位	
	小計		35 単位	
	基礎教育科目	必修科目	8 単位	
		選択科目	10 単位	
小計		18 単位		
基幹教育科目合計		53 単位		
専門科目		必修科目	34 単位	
		選択科目	46 単位	
	専門科目合計		80 単位	
合計			133 単位	

エ 履修モデル

※資料1「履修モデル」参照

物理学科

ア 教育方法等

物理学の基礎的知識と論理的思考力を修得させるため、また理論・実験両方の手法を修得するため、基礎から先端まで体系化された教育課程を編成する。

1、2年次では、幅広い領域にわたる自然科学及び数学などの基礎的な科目を集中的に学ぶ。また、論理的思考力、発表における表現力、英語による理解力・表現力など、大学での学びの基礎となる力を導入科目(初年次教育科目、外国語科目)において養う。

2年次から4年次にかけては、講義・演習・実験からなる専門科目を、基礎から発展へと順に配置し、その過程で対象から知見を得るための理論的手法・実験的手法の基礎的能力を養う。特に、根幹となる科目には講義と演習を組み合わせ配置し、理解を助け、深めることを目指す。さらに、演習においては学生約 38 人に教員 1 名、実験においては学生約4人に教員 1 名、卒業研究においては学生約2人に教員 1 名を配置して少人数教育を実施し、きめ細かい指導を行う。

加えて、4年次に行う卒業研究と発表を通じて、既修の知識を統合し活用する能力、及びそれを通じて得た知見を正確に伝える能力を養う。

基礎教育科目の必修科目は以下のとおりである。

「微積分 1 A」、「微積分 2」、「線形代数 1」、「線形代数 2 A」、「常微分方程式」、「複素解析」、「基礎力学 A 1」、「基礎力学 A 2」、「基礎電磁気学 A 1」、「基礎電磁気学 A 2」、「基礎熱力学」、「基礎量子力学 A」、「基礎物理学実験 1 A」、「基礎物理学実験 2 A」、「基礎物理学実験 2 B」

専門教育科目の必修科目は以下のとおりである。

「物理学演習 1」、「物理学演習 2」、「力学 1」、「力学 1 演習」、「現代物理学」、「量子力学 1」、「量子力学 1 演習」、「統計力学 1」、「統計力学 1 演習」、「量子力学 2」、「量子力学 2 演習」、「統計力学 2」、「統計力学 2 演習」、「専門物理学実験 A」、「専門物理学実験 B」、「物理学卒業演習 A」、「物理学卒業演習 B」、「物理学卒業研究 A」、「物理学卒業研究 B」

専門教育科目の選択科目は以下のとおりである。

「現代物理学への招待」、「力学 2」、「物理数学 1」、「電磁気学とその演習 1」、「量子力学基礎演習」、「電磁気学とその演習 2」、「物理数学 2」、「相対論」、「宇宙物理学 1」、「物性物理学への招待」、「計算物理」、「素粒子・原子核物理学 1」、「物性物理学 1」、「物理実験学 A」、「物理実験学 B」、「量子力学 3」、「量子力学 3 演習」、「統計解析」、「宇宙物理学 2」、「物性物理学 2」、「素粒子・原子核物理学 2」、「物性物理学 3」

卒業要件には、基礎教育科目 39 単位以上(2 年次までで提供される物理学以外の選択基礎教育科目 4 単位を含む)、専門科目の必修科目 42 単位、選択科目 A(選択必修科目)から 16 単位以上修得すること、専門科目合計で 66 単位以上を修得することが含まれる。

卒業論文に必要な時間数は 270 時間程度を想定していることから、卒業研究には 6 単位を与えることとする。

イ 履修指導方法

本学科では、研究教育指導体制として次の事項を定める。

- ・入学時に、学生アドバイザー(学年担任)を定め、3年次までの履修指導を行う。
- ・卒業研究指導のため、学生ごとに指導教員を定める。
- ・学生は、本学部教授会において教育上有益と認められるときは、国内の他の大学または、研究所等において指導を受けることができる。

ウ 卒業要件

本学科では、学士課程の卒業要件として次の事項を定める。

大分類	中分類	小分類	単位数	
基幹教育科目	総合教養科目		選択必修 10 単位	他 10 単 位 を 選 択 必 修
	初年次教育科目		必修 2 単位	
	情報リテラシー科目		必修 2 単位	
	外国語科目	英語	必修 6 単位	
		初修外国語	必修 2 単位	
	健康・スポーツ科学 科目	講義	必修 2 単位	
		実習	必修 1 単位	
	小計		35 単位	
	基礎教育科目	必修科目	35 単位	
		選択科目※	4 単位	
小計		39 単位		
基幹教育科目合計		74 単位		
専門科目		必修科目	42 単位	
		選択必修科目	16 単位	
		選択科目	8 単位	
	専門科目合計		66 単位	
合計			140 単位	

※ 2 年次までで提供される物理学以外の選択基礎教育科目

エ 履修モデル

※資料 1「履修モデル」参照

化学科

ア 教育方法等

ディプロマポリシーに掲げた能力を修得するために、少人数教育によるきめ細かい指導のもと、講義、演習、実験などの基礎教育科目及び本学科専門科目の履修と化学卒業研究による最先端の研究の実施を体系的に編成した教育を行う。

基礎教育講義科目及び実験科目を1、2年次に配置し、これらを必修とする。

本学科専門科目では物理化学（量子化学1、化学反応論1）、無機化学（分析化学1、無機化学1、無機化学2）、有機化学分野（有機化学1、有機化学2、有機化学3）の8つの科目を必修とする。実験・実習科目を3年次に配置し、これらを必修とする。化学分野は85名と設定し、きめ細かい教育を行うことで、十分な学修効果が得られる。

各科目の予習・復習を単位認定基準どおりに学生にさせるため、履修科目の年間登録上限を50単位未満（半期で25単位を超えないものとする）とする。

指導教員の少人数教育によるきめ細かい研究指導のもと、必修科目である化学卒業研究の履修により課題に関連した調査手法や実験技術を修得するとともに、研究を構想し、研究計画を立案する能力を身につける。さらに卒業研究論文の作成や卒業研究発表を通じて、論理的思考力、文章や口頭発表による表現能力・コミュニケーション能力を修得する。これらの研究指導を通じて、研究者・技術者に必要な研究倫理性を身につける。

イ 履修指導方法

必修科目や選択科目の多くは学科の専任教授と専任准教授が担当する。演習と実験科目は複数名で担当する。入学後のオリエンテーションにより、卒業要件や修学にかかるきめ細やかな指導を行う。学年担任を置き個別の相談や指導にあたる。本学科専門科目においては、修学目標を明確に示し、オフィスアワーを設けるなど、学生が相談しやすい環境を整える。1、2年次においては修学状況に応じた履修指導を行う。3年次においては、研究室配属、就職、大学院進学など、学生の進路・興味・適性に応じた修学指導を行う。実験科目においては、複数の教員を配置して、安全に研究・実験を行う環境を提供する。4年次には化学卒業研究を各研究室にて修学させる。研究室を基本とする複数指導体制とすることで、質の高い化学教育を提供する。

1 年次前期

入学後のオリエンテーションにより、卒業要件や修学にかかるきめ細かい指導を行う。総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目を含む基幹教育科目を修学する。化学を学ぶ土台となる基礎教育科目（必修）として、基礎有機化学Aと基礎物理化学Aを修学させる。

1 年次後期

1 年次前期に引き続き、基幹教育科目を修学するとともに、化学を専門的に学ぶ土台となる、基礎教育科目（必修）として、基礎有機化学B、基礎物理化学Bを修学させるとともに、基礎的な化学知識の実践に向けた基礎教育科目（必修）として基礎化学実験を修学させる。

2 年次前期

1 年次に引き続き、基幹教育科目を修学するとともに、化学を専門的に学ぶ土台となる、基礎教育科目（必修）として、基礎無機・分析化学 A を修学させる。本学科専門科目（必修）として、量子化学 1、化学反応論 1、有機化学 1 を修学させる。

2 年次後期

2 年次前期に引き続き、基幹教育科目を修学する。化学を専門的に学ぶ土台となる、基礎教育科目（必修）として、基礎無機・分析化学 B を修学させる。本学科専門科目（必修）として、分析化学 1、無機化学 1、有機化学 2 を、また、本学科専門科目（選択）として分子分光学 1、化学反応論 2 を修学させる。

3 年次前期

本学科専門科目（必修）として、無機化学 1、有機化学 3 を修学させる。化学知識の実践に向けた本学科専門科目（必修）として化学実験 1 を修学させることで化学物質の安全性評価、取り扱いに関する基礎的な技術、並びにさまざまな分析機器と実験器具の取り扱いにかかる基礎技術を修得させる。履修相談を踏まえ、本学科専門科目（選択）の中から、分子分光学 2、化学反応論 3、分析化学 2、無機化学 3、機器分析法、有機化学演習 1 のいずれかを修学させる。

3 年次後期

化学知識の実践に向けた本学科専門科目（必修）として化学実験 2 を修学させる。あわせて、化学の多様性と境界領域への理解を涵養するための本学科専門科目（必修）として、先端研究探索を修得させる。履修相談を踏まえ、本学科専門科目（選択）のうち、講義科目から量子化学 2、無機化学 4、先端無機化学、有機化学 4 のいずれかを、演習科目から物理化学演習、無機化学演習、有機化学演習 2 のいずれかを修学させる。

4 年次前期

化学卒業研究を修学させることで化学の研究力を身につける。指導教員を中心とした複数の教員の指導の下、卒業研究に向けた研究計画を策定させる。ゼミナール、輪読会、雑誌会を通じて研究の実践に必要な専門知識を得るとともに、研究の進捗状況や研究背景を報告会で発表させる。研究を進める上で必要な専門知識やコミュニケーション力を身につけさせるために、適宜助言を与える。また、化学倫理教育として、e-Learning の受講など、大学に定められた倫理教育プログラムのいずれかに該当するものを受講させるとともに、化学物質取り扱いのための講習の受講を義務付ける。研究計画の策定や報告会での発表を含めた総合的な評価により、卒業研究単位を認定す

る。卒業論文に必要な時間数は270時間程度を想定していることから、卒業研究Aには5単位を与えることとする。

4 年次後期

前期に引き続き、化学卒業研究を修学させる。前期の研究成果や進捗状況を踏まえ、卒業研究発表に向けたより具体的かつ実効的な研究計画を立案させる。ゼミナール、輪読会、雑誌会、研究の進捗状況発表会を実施し、複数の教員による、より専門的な見地から研究指導を行う。年末から新年にかけ、卒業研究発表に向けたプレゼンテーション資料の作成を指導する。卒業研究論文作成に向けた、研究のまとめ方、論文作成法を指導する。定められた日までに、卒業研究にかかる研究発表とその内容をまとめた論文を提出させる。それらを含めた総合的な評価により、卒業研究単位を認定する。卒業論文に必要な時間数は270時間程度を想定していることから、卒業研究Bには5単位を与えることとする。

ウ 卒業要件

授業科目は、基幹教育科目（総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目）、専門科目に分けて提供されるが、これらの科目についての卒業に必要な単位数は次のとおりである。

大分類	中分類	小分類	単位数	
基幹教育科目	総合教養科目		選択必修 10 単位	他 10 単 位 を 選 択 必 修
	初年次教育科目		必修 2 単位	
	情報リテラシー科目		必修 2 単位	
	外国語科目	英語	必修 6 単位	
		初修外国語	必修 2 単位	
	健康・スポーツ科学 科目	講義	必修 2 単位	
		実習	必修 1 単位	
	小計		35 単位	
	基礎教育科目	必修科目	14 単位	
		選択科目	14 単位	
小計		28 単位		
基幹教育科目合計		63 単位		
専門科目		必修科目	40 単位	
		選択科目	26 単位	
	専門科目合計		66 単位	
合計			129 単位	

エ 履修モデル

※資料 1「履修モデル」参照

生物学科

ア 教育方法等

ディプロマポリシーに掲げた能力を修得するために、基礎教育科目及び専門科目の履修、実験・演習科目の実践、学位論文作成を体系的に編成した教育を実践する。

基礎教育講義科目及び実験科目を1、2年次に配置し、これらを必修とする。また、生物学に関する強い動機づけを行うため、1年次前期に専門科目としての導入科目「生物学の潮流」を配置し、これを必修とする。

専門科目では、広範な生物学の包括的な修得を目的として「代謝生化学」「細胞生物学」「生理学」「生態学」「生物体系学」の5分野からなる専門教育講義科目を配置し、学生の学問的志向性に応じた履修を可能にするとともに、基礎から発展へと展開するように同科目名でアラビア数字を付した科目を主とすることでその意図を明示する。専門的な生物学の研究に必要な技能を身につける実験・実習科目を3年次に配置し、これらを必修とする。未解明の問題を解決するための生物学卒業研究及び生物学的研究の素養を身につける演習科目を4年次に配置し、これらを必修とする。さらに、生物学卒業演習、生物学卒業研究においては学生約3名に教員1名を配置して少人数教育を実施し、きめ細かい指導を行うことで、十分な学習効果が得られる。

イ 履修指導方法

1年次においては、基礎教育科目で、生物学1、2を実施し、生物学の基礎的な知識を理解させるとともに、数学や他の理科科目も履修させる。専門科目では、導入科目である「生物学の潮流」を通して、これから4年間で学ぶことになる生物学の概要を理解させる。専門科目の上述の5科目のうち、「代謝生化学1」、「細胞生物学1及び2」、「植物生態学1」、「生物体系学1」により、それぞれの分野における基礎を学ばせる。「生物学の潮流」、「代謝生化学1」、「細胞生物学1」、「植物生態学1」は必修科目である。

2年次においては、基礎教育科目で、生物学A、Bにより、生物学の基礎知識をさらに身につけると同時に、専門科目では、上述の5分野をより発展させた形の講義科目の履修を通して、生物学への理解をさらに深める。2年次の専門科目は全て選択科目である。

3年次においては、上記5科目の発展科目に加え、酵素化学、生体分析学等、より発展性の高い講義科目を配置するとともに、専門生物学実験1及び2で、講義で得た知識を応用・発展させて実践的な研究を行う技能を修得させる。3年次の専門科目は、専門生物学実験は必修、その他は選択科目である。

4年次においては、生物学卒業研究により、自らが課題を発見するとともに、その課

題を分析して解決する能力を修得させる。また、生物学卒業演習により得られた研究成果を表現する能力を修得させる。両科目とも必修科目である。

卒業要件には、基礎教育科目 22 単位以上、専門科目合計で 68 単位以上を修得することとする。また、履修科目の登録の上限を年間 50 単位未満（半期で 25 単位を超えない）とする。卒業論文に必要な時間数は 450 時間程度を想定していることから、卒業研究には 10 単位を与えることとする。

ウ 卒業要件

授業科目は、基幹教育科目（総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目）、専門科目に分けて提供されるが、これらの科目についての卒業に必要な単位数は次のとおりである。

大分類	中分類	小分類	単位数	
基幹教育科目	総合教養科目		選択必修 10 単位	他 10 単 位 を 選 択 必 修
	初年次教育科目		必修 2 単位	
	情報リテラシー科目		必修 2 単位	
	外国語科目	英語	必修 6 単位	
		初修外国語	必修 2 単位	
	健康・スポーツ科学 科目	講義	必修 2 単位	
		実習	必修 1 単位	
	小計		35 単位	
	基礎教育科目	必修科目	12 単位	
		選択科目	10 単位	
小計		22 単位		
基幹教育科目合計		57 単位		
専門科目		必修科目	36 単位	
		選択科目	32 単位	
	専門科目合計		68 単位	
合計			125 単位	

エ 履修モデル

※資料 1「履修モデル」参照

地球学科

ア 教育方法等

ディプロマポリシーに掲げた能力を修得するために、基幹教育科目、専門科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習、卒業研究を適切に組み合わせた教育を実践する。

1・2 年次では、基幹教育科目を中心とした履修により、多面的に思考し行動できる能力、基礎的な数理科学の修得とその応用能力を修得する。

2・3 年次では、専門科目の履修により、地球学専門分野の幅広い基礎的知識・技術とその応用能力を修得する。

4 年次には卒業研究により、各教員の研究指導のもと、自立した研究者・技術者としての問題解決能力、創造力や研究倫理を修得する。

専門科目の学生数は 30 名未満と設定し、きめ細かい教育を行うことで、十分な学修効果が期待される。また、履修科目の年間登録上限を 50 単位未満(半期で 25 単位を超えないものとする)とする。

イ 履修指導方法

ディプロマポリシーに掲げた能力を効果的に修得するため、主体的な学びを実践できるように個々の学生に対応した履修指導を行う。また、定期的な面談などにより、履修状況をもとに各学生のディプロマポリシーの達成状況を把握し、学修方法、履修科目などについて指導する。特に専門科目では、地球学全般の理解を深めるとともに、卒業研究に関連する分野の知識と理解を深化させるよう履修指導を行う。

1 年次においては、基幹教育科目を中心に修学する。基礎教育科目において、必修科目である「地球学基礎 A」、「地球学基礎 B」、「地球学実験 A」、「地球学実験 B」を実施し、地球学の基礎的な知識・技能を修得させるとともに、数学や他の理科科目も履修させる。専門科目では、必修の導入科目である「地球学概論 A・B」を通して、これから 4 年間で学ぶことになる地球学の概要を理解させる。必修専門科目の「地質調査法 1」、「測量及び地質調査法 1 実習」、「地球学野外実習 1」、「地形・地質投影法」により、地質調査の基礎を学ばせる。

2 年次においては、基幹教育科目と専門科目を修学する。基礎教育科目では数学や他の理科科目を履修し、専門科目では「地球物質学」、「岩石学」、「地球史学」、「第四紀自然学」、「固体地球物理学」、「地球情報学」、「自然災害科学」の各分野の基礎を学ぶ。

3 年次においては、上記 7 分野の発展科目に加え、必修科目の「地球学演習 A」、「地球学演習 B」により実践的な研究を行う上で重要となる英語能力を向上させる。また、「変動帯テクトニクス」のような発展性の高い講義科目を配置するとともに、必修科目の「地球学卒業演習」において、講義で得た知識を応用・発展させて実践的な研究を行う技能を修得させる。

4 年次においては、「地球学卒業研究 A・B」により、自らが課題を発見するとともに、その課題を分析して解決する能力を修得させる。卒業論文に必要な時間数は 450 時間程度を想定していることから、卒業研究には 10 単位を与えることとする。また、「地球

学ゼミナール A」、「地球学ゼミナール B」により、得られた研究成果を表現する能力を修得させる。これらは全て必修科目である。

ウ 卒業要件

授業科目は、基幹教育科目（総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目）、専門科目に分けて提供されるが、これらの科目についての卒業に必要な単位数は次のとおりである。

大分類	中分類	小分類	単位数	
基幹教育科目	総合教養科目		選択必修 10 単位	他 10 単 位 を 選 択 必 修
	初年次教育科目		必修 2 単位	
	情報リテラシー科目		必修 2 単位	
	外国語科目	英語	必修 6 単位	
		初修外国語	必修 2 単位	
	健康・スポーツ科学 科目	講義	必修 2 単位	
		実習	必修 1 単位	
	小計		35 単位	
	基礎教育科目	必修科目	8 単位	
		選択科目	18 単位	
小計		26 単位		
基幹教育科目合計		61 単位		
専門科目		必修科目	40 単位	
		選択科目 ^(*)	30 単位	
	専門科目合計		70 単位	
合計			131 単位	

(*) 本学部他学科の専門科目を 4 単位まで含めてよい。

エ 履修モデル

※資料 1「履修モデル」参照

生物化学科

ア 教育方法等

基幹教育科目の構成は以下のとおりである。

1 年次において、総合教養科目 (14 単位)、初年次教育科目 (2 単位)、情報リテラシー科目 (2 単位)、外国語科目 (英語 4 単位、初修外国語 2 単位)、健康・スポーツ科学科目 (講義 2 単位、実習 1 単位)に加え、基礎教育科目として、「基礎有機化学 A」、「基礎有機化学 B」、

「生物学1」、「生物学2」、「生物学実験 A」を必修科目として、他 2 科目を選択科目として履修させる。2 年次において、総合教養科目 (6 単位)、外国語科目 (英語 2 単位)に加え、基礎教育科目として、2 科目を選択科目として履修させる。

専門の必修科目の構成は以下のとおりである。

1 年次後期配当の「生物化学概論」では、全専任教員がそれぞれの専門分野の導入部分に関する講義を行う。「生化学 1～3」、「細胞生物化学 1～3」、「分子生物学 1～2」、「病態生物化学」、「ケミカルバイオロジー概論」では、それぞれの専門分野の専任教員が講義を担当する。「生物化学英語」では、生物化学分野の英語の教科書や文献の講読に関する指導を行う。「生物化学実験 1～3」では、生物化学分野の基礎的な実験手法の修得を目指した実習を行う。とくに 3 年次後期には、学生を研究室に配属し、「生物化学実験 3」において、各専任教員の専門分野における研究手法を指導するとともに、「生物化学基礎演習」において、各専任教員の専門分野における研究の背景や最近の動向を指導する。また、2 年次前期、2 年次後期、3 年次前期には、専任教員が担当する専門性の高い内容の選択科目 (講義科目)を 15 科目、さらに 4 年次に非常勤講師による最先端研究を紹介する選択科目「先端生物化学」を 2 科目提供し、このうち 26 単位以上を履修させる。4 年次には、配属された研究室の教員が中心となって、「生物化学卒業研究」において、研究指導を行う。一方、「生物化学卒業演習」において、卒業研究に関連した最新の研究動向などを理解するための文献講読の指導を行う。

「生物化学卒業研究 A」と「生物化学卒業研究 B」並びに「生物化学卒業演習 A」と「生物化学卒業演習 B」においては、研究成果をとりまとめる能力、論理的な記述力、口頭発表・討論の能力の育成も行う。

講義と実習は、1 学年の定員 34 名で 1 クラスとすることを基本とし、研究室ごとの研究指導科目では、教員 1 名が 1 学年 2～3 名の学生を指導する。このような体制で、きめ細かい教育を行うことにより、十分な学修効果が期待できる。

イ 履修指導方法

1 年次前期

入学後のオリエンテーションにより、進級要件、卒業要件、卒業論文作成の詳細などについて説明を行う。

1 年次前期においては、基幹教育科目である「基礎有機化学 A」、「生物学 1」、「生物学実験 A」を必修科目として履修させるとともに、選択科目を履修させる。

1 年次後期

1 年次後期においては、基幹教育科目である「基礎有機化学 B」、「生物学 2」、を必修科目として履修させるとともに、選択科目を履修させる。1 年次後期配当の必修の専門科目 (講義科目)である「生物化学概論」では、全専任教員がそれぞれの専門分野の導入部分に関する講義を行う。

2 年次前期

2 年次前期においては、基幹教育科目の選択科目を履修させる。また、必修の専門科目（講義科目）である「生化学 1」、「細胞生物化学 1」、「分子生物学 1」を履修させるとともに、選択の専門科目（講義科目）である「基礎物理化学」、「基礎有機化学」、「生体分子機能化学」、「代謝生物化学」の中から選択した科目を履修させる。

2 年次後期

2 年次後期においては、基幹教育科目の選択科目を履修させる。また、必修の専門科目（講義科目）である「生化学 2」、「細胞生物化学 2」、「分子生物学 2」を履修させるとともに、選択の専門科目（講義科目）である「生物物理化学」、「生物有機化学」、「バイオテクノロジー概論」、「動物生理化学」、「植物生理化学」の中から選択した科目を履修させる。また、必修の専門科目（実験・実習科目）である「生物化学実験 1」を履修させる。

3 年次前期

3 年次前期においては、必修の専門科目（講義科目）である「生化学 3」、「細胞生物化学 3」、「生物化学英語」を履修させるとともに、選択の専門科目（講義科目）である「計算生物化学」、「生命系機器分析学」、「細胞生理化学」、「放射線生物学」、「構造生物学」、「分子毒理学」の中から選択した科目を履修させる。また、必修の専門科目（実験・実習科目）である「生物化学実験 2」を履修させる。

3 年次後期

3 年次後期においては、必修の専門科目（講義科目）である「病態生物化学」、「ケミカルバイオロジー概論」を履修させる。また、必修の専門科目（実験・実習科目）である「生物化学実験 3」及び必修の専門科目（演習科目）である「生物化学基礎演習」を履修させる。

4 年次前期～後期

4 年次前期～後期においては、必修の専門科目（実験・実習科目）である「生物化学卒業研究 A」と「生物化学卒業研究 B」及び必修の専門科目（演習科目）である「生物化学卒業演習 A」と「生物化学卒業演習 B」を履修させる。卒業論文執筆の指導を進め、2 月中に卒業論文を完成させる。また、2 月または 3 月に実施する卒業論文発表において、卒業論文の研究成果を発表させる。なお、卒業論文作成に必要な時間数は 540 時間程度を想定していることから、卒業研究に関連した科目の履修には合計 12 単位を与えることとする。

ウ 卒業要件

以下に示すように、合計 131 単位以上修得すること。

大分類	中分類	小分類	単位数	
基幹教育科目	総合教養科目		選択必修 10 単位	他 10 単 位 を 選
	初年次教育科目		必修 2 単位	
	情報リテラシー科目		必修 2 単位	
	外国語科目	英語	必修 6 単位	
		初修外国語	必修 2 単位	

	健康・スポーツ科学 科目	講義	必修 2 単位	択 必修
		実習	必修 1 単位	
	小計		35 単位	
	基礎教育科目	必修科目	10 単位	
		選択科目	10 単位	
	小計		20 単位	
	基幹教育科目合計		55 単位	
専門科目		必修科目	50 単位	
		選択科目	26 単位	
	専門科目合計		76 単位	
合計			131 単位	

エ 履修モデル

※資料 1「履修モデル」参照

7 施設、設備等の整備計画

ア 校地・運動場の整備計画

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

イ 校舎等施設の整備計画

〈教育研究に使用する施設、設備等〉

本学部において教育研究を行う施設、設備については、「大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類」に記載のほか、森之宮キャンパス及び杉本キャンパスに新たに建設する新校舎の施設と、大阪市立大学(杉本キャンパス)・大阪府立大学(中百舌鳥キャンパス)の施設・設備等を継承する次の施設、設備等により実施することから、学生、教員に対して十分な教育研究環境を提供するものである。

1) 講義室・演習室・研究室等

本学部では、授業の形態に応じて講義室や演習室等の施設を使用し、専任教員には研究室を割り当て、学部教育を実施する。本学部における施設概要は次のとおりである。

【施設概要】

- ・講義室 47 室
- ・演習室 11 室
- ・研究室 264 室

2) 実験施設・設備等

本学部の教育研究における実験は、182 室ある実験室において実施する。

本学部の各学科における主な実験関連設備は次のとおりである。

【実験関連設備】

◆物理学科

・主な機器・設備等

電波望遠鏡、物理特性測定システム、薄膜評価装置、四楕円鏡型浮遊帯域溶融装置、大型並列計算機、断熱消磁冷凍器、フェムト秒分光装置 など

◆化学科

・主な機器・設備等

核磁気共鳴装置、質量分析装置、電子スピン共鳴装置、単結晶 X 線回折装置、元素分析装置、分光蛍光光度計、紫外可視近赤外分光光度計、赤外分光光度計 など

◆生物学科

・主な機器・設備等

共焦点レーザー顕微鏡、DNA シークエンサー、フローサイトメータ、リアルタイム PCR 装置、大型遠心分離機、超遠心分離機、化学発光検出装置、スキャナータイプ画像解析装置、質量分析装置、透過型電子顕微鏡 など

◆地球学科

・主な機器・設備等

電子線マイクロアナライザー、蛍光 X 線分析装置、X 線回折装置、走査型電子顕微鏡、熱水合成装置、顕微ラマン分光装置、顕微赤外分光装置、熱重量測定装置、高速振動粉碎機、光学顕微鏡 など

◆生物化学科

・主な機器・設備等

蛍光活性化セルソーター、表面プラズモン共鳴測定装置、マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析計、液体クロマトグラフ質量分析計、ペプチド合成機、タンパク質精製用液体クロマトグラフィーシステム、X 線回折装置、共焦点レーザー走査型顕微鏡、リアルタイム PCR 装置、X 線発生装置 など

8 入学者選抜の概要

ア アドミッションポリシー

理学部

〈求める学生像〉 中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」は、21 世紀を「知識基盤社会」の時代と位置づけ、「人々の知的活動・創造力が最大の資源である我が国にとって、優れた人材の育成と科学技術の振興は不可欠」と提言している。国際競争が激化するこれか

らの社会において、科学技術の実力は、国力を左右すると言っても過言ではない。この答申を踏まえて、本学部は総合的理学部とし、研究大学を目指す本学の理系の教育・研究の中核を担う。世界第一線の研究成果を出し人類の知の最前線を切り拓くとともに、その研究活動を学部教育に還元し、次世代の我が国を担う優れた人材の育成・輩出を行うことを目的とする。本学部を卒業し関連領域における研究者や技術者を目指すためには、柔軟な発想と論理的思考にもとづく課題発見能力と問題解決能力が必要である。

したがって、本学部では次のような学生を求めている。

1. 数学や自然現象に対する強い関心と理解があり、勉学意欲に溢れる人
2. 論理的な思考力、自ら学ぶ探究心及び問題解決に向けての実行力を備えている人
3. 国際的視野をもちつつ、地域社会への貢献をめざそうとする人
4. コミュニケーション能力を身につける努力を惜しまない人
5. 健全な倫理観に基づく判断力を備えている人

数学科

〈求める学生像〉 本学部の求める学生像を受けて、本学科では、数学の深い専門知識の修得と、それに基づいた洞察力や論理的思考能力の涵養を目的として教育を行う。世界レベルの数学の研究に接することを通して、洞察力、論理的思考能力、コミュニケーション能力を鍛錬し、問題解決能力を備えた専門職業人、中学校・高等学校の数学教員、及び大学院進学により更なる数学の研究を志す人を養成する。

したがって、本学科では次のような学生を求めている。

1. 数学への好奇心や探究心が旺盛で、勉学意欲に溢れる人
2. 数学を理解するために必要な論理的思考力を向上させようと努力する人
3. 自ら進んで数学を学び、ねばり強く考えて問題解決を図ろうとする人
4. 教員や他の学生との議論を通じて、論理的なコミュニケーションに努める人
5. 数学を通じて社会貢献を目指す人

物理学科

〈求める学生像〉 本学科では、未解決の問題に論理的思考と柔軟性を持って挑む創造性豊かな人材を養成するという社会的要請に応えるために、幅広い教養教育、物理学の理論・実験の両面からの教育に、最先端の研究を組み合わせた系統的なカリキュラムを提供する。

したがって、本学科では次のような学生を求めている。

1. 自然現象への好奇心が旺盛で、勉学意欲に溢れる人
2. 物理学を学ぶための基礎的能力、自然の法則性を解明するために必要な論理的な思考力、問題解決に向けての実行力、さらに自らの知識と考えを表現できる能力を備えている人
3. 国際的視野をもちつつ、物理学に関係する分野で社会に貢献したい人

4. コミュニケーション能力を身につける努力を惜しまない人
5. 健全な倫理観に基づく判断力を備えている人

化学科

〈求める学生像〉 化学は、物質の成り立ちと性質を原子・分子レベルで理解する学問である。化学の知識と技術は、医薬品・化成品、環境にやさしい機能性素材・電池などの私たちの生活と暮らしに役立つ数多くの有用な物質を生み出す、基幹学問として現代社会に必要な不可欠なものとなっている。本学科では、本学部のアドミッションポリシーを踏まえて、化学の原理を理解し、化学を実践するために必要な基礎学力を身につけ、新しい化学を創発するための化学の知識と柔軟な思考力を備えた人材を育成する。

したがって、本学科では次のような学生を求めている。

1. 化学実験や理論を含む化学の幅広い分野に興味をもち、勉学意欲に溢れる人
2. 化学に関する知識を社会におけるさまざまな問題や課題の解決に役立て、社会の発展に貢献したいと考えている人
3. 化学を学び、その活躍の場を地域社会や世界に広げていきたいと考えている人
4. 他の科学分野や広く社会とつながりを持ち、社会の発展のための共生共存の道を探ることができる人
5. 科学倫理を遵守し、研究を実践できる人

生物学科

〈求める学生像〉 本学部のアドミッションポリシーを踏まえて、本学科では、生物学に関する基本原理の理解に必要な基礎学力を備え、柔軟な発想と論理的思考にもとづいて課題を発見し、それを解決する能力を持つ学生を育成する。

したがって、本学科では次のような学生を求めている。

1. 生物及び生命現象に対する強い関心があり、勉学意欲に溢れる人
2. 生物学に関する論理的な思考力、自ら学ぶ探求心及び問題解決に向けての実行力を備えている人
3. 国際的視野を持ちつつ、生物学に関わる専門知識に基づいて地域社会への貢献をめざそうとする人
4. コミュニケーション能力を身につける努力を惜しまない人
5. 健全な倫理観に基づく判断力を備えている人
6. 自らの考えを人に伝える能力を持つ人

地球学科

〈求める学生像〉 幅広い自然科学及び科学技術の知識と、これらを地球の探究に展開できる能力、またグローバルな視点に基づき多面的に思考できる能力が、自然環境や地球環境問題を理解する上で重要である。本学科では、自然環境や地球環境問題を多面的にまた時系列的に捉えるための理論的手法・実験的手法、野外での調査技術、得た知見を正確に伝える能力の修養を通じて、広く社会に貢献できる人材、及び大学院進学により更なる研究を志す人材を育成・輩出することを目的とする。

したがって、本学科では次のような学生を求めている。

1. 地球への好奇心や探究心が旺盛で、勉学意欲に溢れる人
2. 地球の法則性を解明するために必要な論理的な思考力、自ら学ぶ探究心及び問題解決に向けての実行力を備えている人
3. 国際的視野をもちつつ、地球学に関係する分野で社会に貢献したい人
4. コミュニケーション能力を身につける努力を惜しまない人
5. 健全な倫理観に基づく判断力を備えている人

生物化学科

〈求める学生像〉 本学科では、生命現象のメカニズムを分子論的に理解する学問である生物化学の関連領域で活躍する研究者や技術者などの人材の育成を目指す。そして、これらの人材に求められる柔軟な発想にもとづく課題発見能力と問題解決能力を身につけるために必要な講義、演習、実習からなるカリキュラムを提供する。

したがって、本学科では次のような学生を求めている。

1. 生命現象のメカニズムを分子論的に解明することに対して強い関心と理解があり、勉学意欲に溢れる人
2. 生命現象のメカニズムを分子論的に解明することに対して論理的な思考力、自ら学ぶ探究心及び問題解決に向けての実行力を備えている人
3. 国際的視野をもちつつ、地域社会への貢献をめざそうとする人
4. コミュニケーション能力を身につける努力を惜しまない人
5. 健全な倫理観に基づく判断力を備えている人

イ 入学者選抜の方法と体制

【募集人員】 本学部の入学定員は 299 名で、入学者は学校推薦型選抜により 37 名、一般選抜(前期日程)により 204 名、そして、一般選抜(後期日程)により 58 名を選抜する。その他、帰国生徒特別選抜及び私費外国人留学生特別選抜によりそれぞれ若干名を選抜する。各学科の各選抜における募集人員は以下のとおりである。

	数学科	物理学科	化学科	生物学科	地球学科	生物化学科	合計
学校推薦型 選抜	—	7	12	9	4	5	37
一般選抜 (前期日程)	30	52	60	23	16	23	204
一般選抜 (後期日程)	10	17	13	8	4	6	58
帰国生徒 特別選抜	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
私費外国人 留学生 特別選抜	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
合計	40	76	85	40	24	34	299

【実施方法】

学校推薦型選抜

本学部の学校推薦型選抜による募集人員は 37 名である。入学者選抜方法は、大学入学共通テストを課し、小論文または/そして口述試験、出願書類により行う。

大学入学共通テストにより、高等学校における教科・科目を幅広く学習し、本学の基幹教育に十分に対応できる基礎学力(知識・技能、思考力・判断力)を有していることを評価する。小論文または/そして口述試験、出願書類により、論理的思考力・判断力・表現力を評価するとともに、理学の学修・研究に必要な主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有していることを評価する。

大学入学共通テストで用いる科目と個別学力検査等の内容は以下のとおりである。

学科	大学入学共通テスト	個別学力検査等
物理学科	国語、数学、理科、外国語、 地歴・公民	小論文(数学、物理、英語) 口述試験
化学科	国語、数学、理科、外国語	口述試験
生物学科	国語、数学、理科、外国語	口述試験
地球学科	国語、数学、理科、外国語、 地歴・公民	口述試験
生物化学科	国語、数学、理科、外国語、 地歴・公民	口述試験

一般選抜(前期日程)

本学部の一般選抜(前期日程)による募集人員は 204 名である。入学者選抜方法は、大学入学共通テスト、本学が実施する個別学力検査、調査書により行う。

大学入学共通テストにより、高等学校における教科・科目を幅広く学習し、本学の基幹教育に十分に対応できる基礎学力(知識・技能、思考力・判断力)を有していることを評価する。個別学力検査により、理学の学修・研究に必要な数学・理科・英語に関する高い学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力)を有していることを評価する。調査書により、理学の学修・研究に必要な主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有していることを評価する。

大学入学共通テストで用いる科目と個別学力検査の内容は以下のとおりである。

学科	大学入学共通テスト	個別学力検査
全学科	国語、数学、理科、外国語、 地歴・公民	数学、理科、英語

一般選抜(後期日程)

本学部の一般選抜(後期日程)による募集人員は 58 名である。入学者選抜については、大学入学共通テスト、本学が実施する個別学力検査または口述試験、及び出願書類により行う。

【数学科】調査書と大学入学共通テストにより、高等学校における教科・科目を幅広く学習し、本学の基幹教育に十分に対応できる基礎学力(知識・技能、思考力・判断力)を有していることを評価する。大学入学共通テストと個別学力検査により、数学の学修・研究に必要な数学に関する高い学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力)を有していることを評価する。また、調査書により、数学の学修・研究に必要な主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有していることを評価する。

【物理学科】調査書と大学入学共通テストにより、高等学校における教科・科目を幅広く学習し、本学の基幹教育に十分に対応できる基礎学力(知識・技能、思考力・判断力)を有していることを評価する。大学入学共通テストと個別学力検査により、物理学の学修・研究に必要な数学及び物理学に関する高い学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力)を有していることを評価する。また、調査書により、物理学の学修・研究に必要な主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有していることを評価する。

【化学科】調査書と大学入学共通テストにより、高等学校における教科・科目を幅広く学習し、本学の基幹教育に十分に対応できる基礎学力(知識・技能、思考力・判断力)を有していることを評価する。個別学力検査により、化学の学修・研究に必要な英語に関する高い学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力)を有していることを評価する。また、調査書により、化学の学修・研究に必要な主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有していることを評価する。

【生物学科】調査書と大学入学共通テストにより、高等学校における教科・科目を幅広く学習し、本学の基幹教育に十分に対応できる基礎学力(知識・技能、思考力・判断力)を有していることを評価する。大学入学共通テストと個別学力検査により、生物学の学修・研究に必要な生物学に関する高い学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力)を有していることを評価する。また、調査書により、生物学の学修・研究に必要な主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有していることを評価する。

【地球学科】調査書と大学入学共通テストにより、高等学校における教科・科目を幅広く学習し、本学の基幹教育に十分に対応できる基礎学力(知識・技能、思考力・判断力)を有していることを評価する。大学入学共通テストと口述試験により、地球学の学修・研究に必要な高い学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力)を有していることを評価する。また、調査書と口述試験により、地球学の学修・研究に必要な主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有していることを評価する。

【生物化学科】調査書と大学入学共通テストにより、高等学校における教科・科目を幅広く学習し、本学の基幹教育に十分に対応できる基礎学力(知識・技能、思考力・判断力)を有していることを評価する。口述試験により表現力を評価するとともに、調査書と口述試験により、生物化学の学修・研究に必要な主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有していることを評価する。

大学入学共通テストで用いる科目と個別学力検査等の内容は以下のとおりである。

学科	大学入学共通テスト	個別学力検査等
数学科	数学、外国語	数学
物理学科	数学、理科、外国語	数学、理科(物理)
化学科	国語、数学、理科、外国語	英語(ただし、化学の内容を含む)
生物学科	数学、理科、外国語	理科(生物)
地球学科	国語、数学、理科、外国語、 地歴・公民	口述試験
生物化学科	国語、数学、理科、外国語	口述試験

ウ 多様な学生の受入

多様な学生を受け入れるため、本学部では「帰国生徒特別選抜」と「私費外国人留学生特別選抜」を実施する。

帰国生徒特別選抜

外国において教育を受けた日本国籍を有する者または日本国の永住許可を得ている者を本特別選抜により受け入れる。入学者選抜については、大学入学共通テストを免除し、本学が実施する個別学力検査、口述試験、出願書類により行う。個別学力検査により、理学の学修・研究に必要な数学・理科・英語に関する高い学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力)を有していることを評価する。口述試験・出願書類により、理学の学修・研究に必要な主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有していることを評価する。

私費外国人留学生特別選抜

外国において教育を受けた日本国籍を有しない私費外国人留学生を本特別選抜により受け入れる。入学者選抜については、大学入学共通テストを免除し、日本留学試験、本学が実施する個別学力検査、口述試験、出願書類により行う。日本留学試験と個別学力検査により、日本語能力及び理学の学修・研究に必要な数学・理科・英語に関する高い学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力)を有していることを評価する。口述試験・出願書類により、理学の学修・研究に必要な主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有していることを評価する。

なお、経費支弁能力や在籍管理については、入学後留学生アドバイザー教員が定期的に確認する。

9 取得可能な資格

本学部において取得可能な資格は次表のとおりである。

本学部の学生は卒業時に、教育職員免許状の資格を取得することができるが、取得できる免許状の種類及び教科は次表のとおりである。

学科名	資格の名称	資格の種類	資格取得の形態
数学科	中学校教諭 一種免許状(数学)	国家資格	資格取得
	高等学校教諭 一種免許状(数学)		
	測量士補		資格登録可
物理学科	中学校教諭 一種免許状(理科)	国家資格	資格取得
	高等学校教諭 一種免許状(理科)		
化学科	中学校教諭 一種免許状(理科)	国家資格	資格取得
	高等学校教諭 一種免許状(理科)		
	毒物劇物取扱責任者		
	甲種危険物取扱者		受験資格

生物学科	中学校教諭 一種免許状(理科)	国家資格	資格取得
	高等学校教諭 一種免許状(理科)		
地球学科	中学校教諭 一種免許状(理科)	国家資格	資格取得
	高等学校教諭 一種免許状(理科)		
	測量士補		資格登録可
生物化学科	中学校教諭 一種免許状(理科)	国家資格	資格取得
	高等学校教諭 一種免許状(理科)		

10 実習の具体的計画

【教育実習の具体的な計画】

ア 実習の目的

本学部では、主体的な探究心を育み、それに基づく洞察力、問題解決能力と論理的思考力を有し、グローバルな視点から物事を考える高い素養と創造力を身につけた、次世代の社会を担う人材の育成を目指しており、大阪市、大阪府をはじめとする関西圏を中心とした、教育現場の発展に寄与する高度な専門性を有する教員の養成を目的とする。

教職課程の集大成にあたる教育実習では、教育現場である学校に実際に身を置くという経験を通して、教師の使命や具体的な職務内容、教師として必要な資質・能力を改めて認識するとともに、本学部での専門的な学びや教職課程での学びを土台に、学習指導や生徒指導等の教育活動に取り組むことを通して、教師としての指導力・実践力を高め、教職への適性を確かめることを目指す。

イ 実習先の確保の状況

教育実習の実習先として、大阪市教育局、大阪府教育委員会から実習受け入れの承諾を得ている小学校 292 校、中学校 132 校、高等学校 154 校を確保しており、実習先の確保としては十分な状況にある。

※資料 2-1 「教育実習施設一覧」 参照

※資料 2-2 「大阪府教育委員会、大阪市教育局実習受入承諾書」 参照

ウ 実習先との契約内容

大阪市教育委員会、大阪府教育委員会と実習時に順守すべき事項等について事前に協議し、決定する。

エ 実習水準の確保の方策

教職課程の各授業科目の履修、教育実習の事前事後指導、学内で実施する教育実習関係の各種オリエンテーション等を適切に実施することや実習担当の教職員が実習先と密に連絡を取り合うこと等を通じて実習水準を確保する。

オ 実習先との連携体制

実習開始前に、本学の教員及び教職担当の事務担当者を通じて、実習先担当教職員と十分な打ち合わせを行う。また、実習中に随時連絡を取り合える体制を構築する。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学生の健康管理については、本学で全学生対象に年1回実施する定期健康診断を受診させ、学生の健康状況を全学的に把握する。また、学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究賠償責任保険等の保険加入を義務付ける。さらに、感染予防対策として、事前指導時において予防接種等の確認を行う。また、実習前のオリエンテーション等を通じて実習中に知りえた情報に関する守秘義務の厳守やSNSに実習中の事項を投稿等しないことについて指導する。

キ 事前・事後における指導計画

教育実習においては、教育実習事前事後指導の授業内で事前指導、事後指導を行う。事前指導では、教育実践の責任の大きさや奥の深さを認識しつつ実習への総合的な準備をし、実習の一般的な心構えと教育現場の教育活動に必要とされる知識・態度について理解を深める。事後指導では、教育実習の反省や考察を少人数による討論によって行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

教育学を専門とする専任教員に加え、教職課程を設置する全ての各学域・学部、研究科の専任教員が巡回指導を行う。巡回の回数等は実習校と協議し決定する。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

大阪市教育委員会、大阪府教育委員会及び実習校と適切な指導者の配置について、協議する体制を整える。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習における成績評価・単位認定については、実習校からの実習に関する評価を基に、大学の専任教員が総合的な観点から評価し、単位認定を行う。

11 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

該当なし

12 昼夜開講制を実施する場合の具体的計画

該当なし

13 編入学定員を設定する場合の具体的計画

該当なし

14 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

理学の教員の配置は、完成年度まで以下のとおりである。

学科名	2022年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
数学科	杉本・中百舌鳥	杉本・中百舌鳥	杉本・中百舌鳥	杉本
物理学科	杉本・中百舌鳥	杉本・中百舌鳥	杉本・中百舌鳥	杉本
化学科	杉本・中百舌鳥	杉本・中百舌鳥	杉本	杉本
生物学科	杉本・中百舌鳥	杉本・中百舌鳥	杉本・中百舌鳥	杉本・中百舌鳥
地球学科	杉本・中百舌鳥	杉本・中百舌鳥	杉本・中百舌鳥	杉本
生物化学科	中百舌鳥	中百舌鳥	中百舌鳥	中百舌鳥

一方、学生が教育を受けるキャンパスは以下のとおりである。

学科・学年	2022年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
学部 1・2 年次生 [*]	杉本	杉本	杉本	森之宮
生物化学科以外の 3・4 年次生	—	—	杉本	杉本
生物化学科の 3・4 年次生	—	—	中百舌鳥	中百舌鳥

^{*}）生物化学科の 2 年次の学生は、後期に週 2 日中百舌鳥キャンパスで授業を受ける。

以上のとおり、中百舌鳥キャンパスに配置される教員を中心にキャンパス間移動はどの年度でも発生する。もともと本学部の教員は、基幹教育科目及び 1・2 年次に配当する専門科目を教えるために、2025 年度以降も森之宮キャンパスに移動する必要がある。頻繁な移動は教員に負担をかけることになるので、時間割を調整することによって移動は多くて週 1 日以内に収まるようにする。また、杉本キャンパスや森之宮キャンパスには、授業の準備に共同で使える教員控室を準備する。

一方、生物化学科の学生以外の学生は特定の学年に 2 つのキャンパス間を移動することは起こらない。しかし、生物化学科の学生は、2 年次後期に週 2 日間中百舌鳥キャンパスで授業を受ける。2 年生後期の専門科目をこの 2 日間に集めることにより、学生に過度の負担がかからないように工夫する。

なお、学年進行によるキャンパス移動後に単位未修得の授業科目を履修する者や、他キャンパスの授業科目を自由科目として履修希望する者に対しては、基本的には面接により授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とするが、履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が学生の所属するキャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利用した授業実施など、適宜学生の履修に配慮するものとする。

※資料3「理学部 新キャンパス整備に伴う校地(教育実施場所)遷移について」参照

15 社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所(サテライトキャンパス)で実施する場合の具体的計画

該当なし

16 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、平常時の面接による授業の実施を原則とするが、大学設置基準第25条第2項及び本学の学則の規定に基づき、多様なメディアを高度に利用し、同時に双方向に行うことができる遠隔授業を実施できることとすることから、カリキュラムの改善等により、多様なメディアを利用した授業が必要となった場合は、文部科学省の告示の要件等に基づき、実施するものとする。

17 通信教育を実施する場合の具体的計画

該当なし

18 管理運営

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照。

また、上記書類に記載した体制に加えて、学部内に以下の管理運営体制を構築する。

1. 学部長を補佐するため副学部長を置き、学部長に事故があるときは学部長を代行するものとする。
2. 重要事項を審議するために置かれる学部教授会の構成員は教授とし、原則として3カ月に1回開催するものとする。ただし、緊急の案件についてはこの限りでない。審議事項は、教授会規則の定めるところによる。

19 自己点検・評価

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

20 情報の公表

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

21 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するために、理学部・理学研究科合同でFD委員会(仮称)を設置する。FD委員会は以下の業務を行う。

1. 全学が実施するSD・FD研修への理学部・理学研究科教員の積極的な参加を促すとともに、学内外のSD・FD活動に関する情報の周知を行う。
2. 理学研究科主催FD研修会を毎年1回開催する。学内外から授業の内容及び方法の改善に詳しい講師を招き、FD研修を実施する。
3. 授業公開の実施。各教員が授業方法を改善するための契機とするために、授業を公開し同僚より評価を受ける機会を設ける。
4. 学期が終了するごとに、学科・専攻選出の委員を中心に学生の単位取得状況と授業アンケートを分析し、その結果を学科・専攻内で情報を共有する。さらにその結果を元に、授業の改善方法やカリキュラムの改善点等を検討する。
5. その他、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な活動

22 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア 教育課程内の取り組みについて

一般教育では、基幹教育科目の中に総合教養科目「Ⅲ キャリアデザイン科目」として、「現代社会におけるキャリアデザイン」、「キャリアと実践」、「国際活動とキャリア」、「大学でどう学ぶか」、「現代社会と大学」、「市民・学生のための大学評価論」、「世界の大学と学生」、「グローバル経営論」、「社会と会計」、「国際ビジネス」、「学びのデータから見る大学」、「プレゼンテーション技法」の12科目が開講される。学生はこれらの授業を受講することにより、大学卒業後のキャリアを見越した大学での学修が可能となる。これらの科目は、理学部の学生にとっても非常に有益であるので、各種のガイダンスを通じて、履修を奨励する。

また、キャリア形成に必要な能力の1つであるIT能力は、1年生前期に必修科目「情報リテラシー」をスタートとして、いろいろな授業における情報検索・レポート作成などを通して必要な能力を身につける。さらに、「プログラミング入門B」を受講することにより、プログラミングの初歩を身につけることができる。本学部の専門科目でプログラミングの授業を設けてはいないが、数値計算や実験結果の解析にプログラミングの能力は必須で、個々の授業を通して必要なIT能力を身につけさせる。

さらに、キャリア形成に必要な能力の1つであるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力は、種々の演習や卒業研究・演習における発表・討論を通して身につけさせる。

そして、実験や実習を通して「チームで働く力」を身につけさせる。

イ 教育課程外の取り組みについて

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照。なお、本学部には中学校・高等学校の教員免許状の取得を目的として入学してくる学生が多いと予想される。そのような学生に対して教職ガイダンスなどの機会において、中学校・高等学校の教員の採用状況や他の就職先等についての情報提供を行う。

ウ 適切な体制の整備について

学生のキャリア形成のため、それぞれの学科に就職委員を配置し、学部支援室に就職担当事務を配置する。また、全学的な組織としてキャリア支援部門が設置されており、キャリア支援部門、学部支援室、教員が一体となって学生の職業的自立を支援する体制を整備する。

理学部

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 1	履修モデル	P. 2
資料 2-1	教育実習施設一覧	P. 16
資料 2-2	大阪府教育委員会、大阪市教育局実習受入承諾書	P. 29
資料 3	理学部 新キャンパス整備に伴う校地（教育実施場所）遷移について	P. 46
資料 4	カリキュラム・マップ	P. 47

資料1

理学部履修モデル
数学科履修モデル(1)

養成する具体的な人材像	IT関連企業への就職
-------------	------------

履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	初年次教育科目	2	微積分 1 A	2	数学要論A	4
	情報リテラシー科目	2	線形代数 1	2	数学基礎演習 1	2
	University English 1A	1	微積分 2	2	数学要論B	4
	University English 1B	1	線形代数 2 A	2	数学基礎演習 2	2
	University English 2A	1	基礎力学A1	4		
	University English 2B	1	基礎電磁気学A1	4		
	Writing A	1				
	Reading	1				
	ドイツ語入門 1	1				
	ドイツ語入門 2	1				
	健康・スポーツ科学講義	2				
	健康・スポーツ科学実習	1				
	哲学入門	2				
	心理学入門	2				
2年次	University English 3A	1	確率統計	2	代数学 1	2
	University English 3B	1			代数学 1 演習	2
	歴史の中の大阪	2			位相数学 1	2
	生命と進化	2			位相数学 1 演習	2
	哲学と社会	2			解析学 1	2
	クィアスタディーズ	2			解析学 1 演習	2
	美術史	2			情報数学	2
	音楽と生活	2			代数学 2	2
	日本国憲法	2			代数学 2 演習	2
					位相数学 2	2
					位相数学 2 演習	2
					解析学 2	2
					解析学 2 演習	2
					曲線と曲面の幾何学	2
3年次					代数学 3	2
					代数学 3 演習	2
					微分幾何学 1	2
					微分幾何学 1 演習	2
					解析学 3	2
					解析学 3 演習	2
					複素解析 1	2
					情報理論	2
					代数学 4	2
					代数学 4 演習	2
					位相幾何学 1	2
					位相幾何学 1 演習	2
					解析学 4	2
					解析学 4 演習	2
					複素解析 2	2
4年次					数学卒業研究A	5
					数学卒業研究B	5
合計		35		18		80
総計	133					

卒業研究	量子群の表現論および組合せ論に関する研究
------	----------------------

卒業時に習得している能力など	代数学・幾何学・解析学など幅広い数学の知識。 論理的思考力、および、プレゼンテーション能力。
----------------	---

理学部履修モデル
数学科履修モデル(2)

養成する具体的な人材像	中学校・高等学校教諭					
履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	初年次教育科目	2	微積分 1 A	2	数学要論A	4
	情報リテラシー科目	2	線形代数 1	2	数学基礎演習 1	2
	University English 1A	1	微積分 2	2	数学要論B	4
	University English 1B	1	線形代数 2 A	2	数学基礎演習 2	2
	University English 2A	1	基礎力学A1	4	数学科教育法1A	2
	University English 2B	1	基礎電磁気学A1	4	数学科教育法1B	2
	Writing A	1				
	Reading	1				
	ドイツ語入門 1	1				
	ドイツ語入門 2	1				
	健康・スポーツ科学講義	2				
	健康・スポーツ科学実習	1				
	哲学入門	2				
	心理学入門	2				
2 年次	University English 3A	1	確率統計	2	代数学 1	2
	University English 3B	1			代数学 1 演習	2
	歴史の中の大阪	2			位相数学 1	2
	生命と進化	2			位相数学 1 演習	2
	哲学と社会	2			解析学 1	2
	クィアスタディーズ	2			解析学 1 演習	2
	美術史	2			情報数学	2
	音楽と生活	2			代数学 2	2
	日本国憲法	2			代数学 2 演習	2
					位相数学 2	2
					位相数学 2 演習	2
					解析学 2	2
					解析学 2 演習	2
					曲線と曲面の幾何学	2
					数学科教育法2A	2
					数学科教育法2B	2
3 年次					代数学 3	2
					代数学 3 演習	2
					微分幾何学 1	2
					微分幾何学 1 演習	2
					解析学 3	2
					解析学 3 演習	2
					複素解析 1	2
					情報理論	2
					代数学 4	2
					代数学 4 演習	2
					位相幾何学 1	2
					位相幾何学 1 演習	2
					解析学 4	2
					解析学 4 演習	2
					数理論理学	2
4 年次					数学卒業研究A	5
					数学卒業研究B	5
合計		35		18		88
総計	141					

卒業研究	非可換環に関する研究
卒業時に習得している能力など	代数学・幾何学・解析学など幅広い数学の知識。 論理的思考力、および、プレゼンテーション能力。

資料1

理学部履修モデル
数学科履修モデル(3)

養成する具体的な人材像	銀行・保険会社への就職
-------------	-------------

履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	初年次教育科目	2	微積分 1 A	2	数学要論A	4
	情報リテラシー科目	2	線形代数 1	2	数学基礎演習 1	2
	University English 1A	1	微積分 2	2	数学要論B	4
	University English 1B	1	線形代数 2 A	2	数学基礎演習 2	2
	University English 2A	1	基礎力学A1	4		
	University English 2B	1	基礎電磁気学A1	4		
	Writing A	1				
	Reading	1				
	ドイツ語入門 1	1				
	ドイツ語入門 2	1				
	健康・スポーツ科学講義	2				
	健康・スポーツ科学実習	1				
	哲学入門	2				
	心理学入門	2				
2年次	University English 3A	1	確率統計	2	代数学 1	2
	University English 3B	1			代数学 1 演習	2
	歴史の中の大阪	2			位相数学 1	2
	生命と進化	2			位相数学 1 演習	2
	哲学と社会	2			解析学 1	2
	クィアスタディーズ	2			解析学 1 演習	2
	美術史	2			情報数学	2
	音楽と生活	2			代数学 2	2
	日本国憲法	2			代数学 2 演習	2
					位相数学 2	2
					位相数学 2 演習	2
					解析学 2	2
					解析学 2 演習	2
3年次					代数学 3	2
					代数学 3 演習	2
					数理統計学 1	2
					数理統計学 2	2
					解析学 3	2
					解析学 3 演習	2
					複素解析 1	2
					情報理論	2
					代数学 4	2
					代数学 4 演習	2
					解析学 4	2
					解析学 4 演習	2
					複素解析 2	2
					符号理論	2
4年次					数学卒業研究A	5
					数学卒業研究B	5
					数理ファイナンス1	2
					数理ファイナンス2	2
合計		35		18		80
総計	133					

卒業研究	株価予測に関する統計学的な研究
------	-----------------

卒業時に習得している能力など	統計学・代数学・幾何学・解析学など幅広い数学の知識。 論理的思考力、および、プレゼンテーション能力。
----------------	---

理学部履修モデル
数学科履修モデル(4)

養成する具体的な人材像	大学院進学
-------------	-------

履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	初年次教育科目	2	微積分 1 A	2	数学要論A	4
	情報リテラシー科目	2	線形代数 1	2	数学基礎演習 1	2
	University English 1A	1	微積分 2	2	数学要論B	4
	University English 1B	1	線形代数 2 A	2	数学基礎演習 2	2
	University English 2A	1	基礎力学A1	4		
	University English 2B	1	基礎電磁気学A1	4		
	Writing A	1				
	Reading	1				
	ドイツ語入門 1	1				
	ドイツ語入門 2	1				
	健康・スポーツ科学講義	2				
	健康・スポーツ科学実習	1				
	哲学入門	2				
	心理学入門	2				
2年次	University English 3A	1	確率統計	2	代数学 1	2
	University English 3B	1			代数学 1 演習	2
	歴史の中の大阪	2			位相数学 1	2
	生命と進化	2			位相数学 1 演習	2
	哲学と社会	2			解析学 1	2
	クィアスタディーズ	2			解析学 1 演習	2
	美術史	2			情報数学	2
	音楽と生活	2			代数学 2	2
	日本国憲法	2			常微分方程式	2
					位相数学 2	2
					曲線と曲面の幾何学	2
					解析学 2	2
					解析学 2 演習	2
3年次					代数学 3	2
					代数学 3 演習	2
					微分幾何学 1	2
					微分幾何学 1 演習	2
					解析学 3	2
					解析学 3 演習	2
					複素解析 1	2
					情報理論	2
					代数学 4	2
					代数学 4 演習	2
					位相幾何学 1	2
					偏微分方程式	2
					解析学 4	2
					解析学 4 演習	2
					複素解析 2	2
					数理論理学	2
4年次					数学卒業研究A	5
					数学卒業研究B	5
合計		35		18		80
総計	133					

卒業研究	偏微分方程式の解の関数解析的研究
------	------------------

卒業時に習得している能力など	解析学・幾何学・代数学など幅広い数学の知識。 論理的思考力、および、プレゼンテーション能力。
----------------	---

理学部履修モデル						
物理学科履修モデル（素粒子・原子核物理学）						
養成する具体的な人材像	高度な専門知識を持ち、専門的職業人または博士前期課程進学を目指し、素粒子・原子核物理学分野を中心に履修する者					
履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	初年次教育科目	2	微積分 1 A	2	物理学演習 1	2
	総合教養科目	10	線形代数 1	2	物理学演習 2	2
	University English 1A	1	基礎力学 A 1	4		
	University English 1B	1	基礎物理学実験 1 A	3		
	University English 2A	1	微積分 2	2		
	University English 2B	1	線形代数 2 A	2		
	ドイツ語入門 1	1	基礎力学 A 2	2		
	ドイツ語入門 2	1	基礎電磁気学 A 1	4		
	情報リテラシー科目	2				
	健康・スポーツ科学 実習	1				
	健康・スポーツ科学 講義	2				
	2年次	総合教養科目	10	常微分方程式	2	力学 1
University English 3A		1	基礎電磁気学 A 2	2	力学 1 演習	2
University English 3B		1	基礎力学 A 2	2	力学 2	2
			基礎物理学実験 2 A	2	物理数学 1	2
			基礎物理化学 A	2	電磁気学とその演習 1	2
			複素解析	2	量子力学基礎演習	2
			基礎量子力学 A	2	現代物理学	2
			基礎物理学実験 2 B	2		
			地球学入門	2		
3年次					電磁気学とその演習 2	2
					物理数学 2	2
					量子力学 1	2
					量子力学 1 演習	2
					統計力学 1	2
					統計力学 1 演習	2
					相対論	2
					宇宙物理学 1	2
					専門物理学実験 A	3
					量子力学 2	2
					量子力学 2 演習	2
					統計力学 2	2
					統計力学 2 演習	2
					専門物理学実験 B	3
					素粒子・原子核物理学 1	2
4年次					量子力学 3	2
					量子力学 3 演習	2
					素粒子・原子核物理学 2	2
					物理学卒業演習 A	2
					物理学卒業演習 B	2
					物理学卒業研究 A	3
					物理学卒業研究 B	3
合計		35		39		66
総計	140					
卒業研究	EPICSを用いた分散制御システムの構築					
卒業時に習得している能力など	幅広い教養とグローバルな視点から物事を考える高い素養、創造力や主体的に考える力、論理的な思考力・記述力、口頭発表・討論の能力、国際的に通用するコミュニケーション基礎力、素粒子・原子核物理学分野の専門的な知識と、それを応用して発展させる能力を有し、広く社会に貢献できる能力					

理学部履修モデル 物理学科履修モデル（宇宙物理学）						
養成する具体的な人材像	高度な専門知識を持ち、専門的職業人または博士前期課程進学を目指し、 宇宙物理学分野を中心に履修する者					
履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	初年次教育科目	2	微積分 1 A	2	物理学演習 1	2
	総合教養科目	10	線形代数 1	2	物理学演習 2	2
	University English 1A	1	基礎力学 A 1	4		
	University English 1B	1	基礎物理学実験 1 A	3		
	University English 2A	1	微積分 2	2		
	University English 2B	1	線形代数 2 A	2		
	ドイツ語入門 1	1	基礎力学 A 2	2		
	ドイツ語入門 2	1	基礎電磁気学 A 1	4		
	情報リテラシー科目	2				
	健康・スポーツ科学 実習	1				
	健康・スポーツ科学 講義	2				
2年次	総合教養科目	10	常微分方程式	2	力学 1	2
	University English 3A	1	基礎電磁気学 A 2	2	力学 1 演習	2
	University English 3B	1	基礎力学 A 2	2	力学 2	2
			基礎物理学実験 2 A	2	物理数学 1	2
			基礎物理化学 A	2	電磁気学とその演習 1	2
			複素解析	2	量子力学基礎演習	2
			基礎量子力学 A	2	現代物理学	2
			基礎物理学実験 2 B	2		
			地球学入門	2		
3年次					電磁気学とその演習 2	2
					物理数学 2	2
					量子力学 1	2
					量子力学 1 演習	2
					統計力学 1	2
					統計力学 1 演習	2
					相対論	2
					宇宙物理学 1	2
					専門物理学実験 A	3
					量子力学 2	2
					量子力学 2 演習	2
					統計力学 2	2
					統計力学 2 演習	2
					専門物理学実験 B	3
					素粒子・原子核物理学 1	2
4年次					量子力学 3	2
					量子力学 3 演習	2
					宇宙物理学 2	2
					物理学卒業演習 A	2
					物理学卒業演習 B	2
					物理学卒業研究 A	3
					物理学卒業研究 B	3
合計		35		39		66
総計	140					
卒業研究	重力波検出器の試験観測データにおける雑音ガウス性評価					
卒業時に習得している能力など	幅広い教養とグローバルな視点から物事を考える高い素養、創造力や主体的に考える力、論理的な思考力・記述力、口頭発表・討論の能力、国際的に通用するコミュニケーション基礎力、宇宙物理学分野の専門的な知識と、それを応用して発展させる能力を有し、広く社会に貢献できる能力					

理学部履修モデル 物理学科履修モデル（物性物理学）						
養成する具体的な人材像	高度な専門知識を持ち、専門的職業人または博士前期課程進学を目指し、物性物理学分野を中心に履修する者					
履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	初年次教育科目	2	微積分 1 A	2	物理学演習 1	2
	総合教養科目	10	線形代数 1	2	物理学演習 2	2
	University English 1A	1	基礎力学 A 1	4		
	University English 1B	1	基礎物理学実験 1 A	3		
	University English 2A	1	微積分 2	2		
	University English 2B	1	線形代数 2 A	2		
	ドイツ語入門 1	1	基礎力学 A 2	2		
	ドイツ語入門 2	1	基礎電磁気学 A 1	4		
	情報リテラシー科目	2				
	健康・スポーツ科学 実習	1				
	健康・スポーツ科学 講義	2				
2年次	総合教養科目	10	常微分方程式	2	力学 1	2
	University English 3A	1	基礎電磁気学 A 2	2	力学 1 演習	2
	University English 3B	1	基礎力学 A 2	2	力学 2	2
			基礎物理学実験 2 A	2	物理数学 1	2
			基礎物理化学 A	2	電磁気学とその演習 1	2
			複素解析	2	量子力学基礎演習	2
			基礎量子力学 A	2	現代物理学	2
			基礎物理学実験 2 B	2		
			地球学入門	2		
3年次					電磁気学とその演習 2	2
					物理数学 2	2
					量子力学 1	2
					量子力学 1 演習	2
					統計力学 1	2
					統計力学 1 演習	2
					専門物理学実験 A	3
					物性物理学への招待	2
					物理実験学 A	2
					量子力学 2	2
					量子力学 2 演習	2
					統計力学 2	2
					統計力学 2 演習	2
					専門物理学実験 B	3
					物性物理学 1	2
					物理実験学 B	2
	4年次					物性物理学 2
					物性物理学 3	2
					物理学卒業演習 A	2
					物理学卒業演習 B	2
					物理学卒業研究 A	3
					物理学卒業研究 B	3
合計		35		39		66
総計	140					
卒業研究	複素固有値問題を用いた半無限原子鎖に結合した2準位不純物原子の吸収スペクトルの解析					
卒業時に習得している能力など	幅広い教養とグローバルな視点から物事を考える高い素養、創造力や主体的に考える力、論理的な思考力・記述力、口頭発表・討論の能力、国際的に通用するコミュニケーション基礎力、物性物理学分野の専門的な知識と、それを応用して発展させる能力を有し、広く社会に貢献できる能力					

理学部履修モデル
化学科履修モデル

養成する具体的な人材像	化学に関する普遍的な化学の知識と汎用的な技能を身につけた、 創造的な化学の領域を切り開くことができる人材を養成する
-------------	--

履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	University English 1A	1	基礎有機化学 A	2		
	University English 1B	1	基礎有機化学 B	2		
	University English 2A	1	基礎物理化学 A	2		
	University English 2B	1	基礎物理化学 B	2		
	ドイツ語入門 1	1				
	総合教養科目	2	基礎教育科目（選択）	2		
	総合教養科目	2	基礎教育科目（選択）	2		
	総合教養科目	2	基礎教育科目（選択）	2		
	総合教養科目	2	基礎教育科目（選択）	2		
	総合教養科目	2	基礎教育科目（選択）	2		
	基幹教育科目	2				
	初年次教育科目	2				
	情報リテラシー科目	2				
	健康・スポーツ科学(実習)	1				
	健康・スポーツ科学(講義)	2				
			基礎教育科目（選択）	2		
2 年次	University English 3A	1	基礎無機・分析化学 A	2	量子化学 1	2
	University English 3B	1	基礎無機・分析化学 B	2	化学反応論 1	2
	ドイツ語入門 2	1	基礎化学実験	2	分析化学 1	2
					無機化学 1	2
	基幹教育科目	2	基礎教育科目（選択）	2	無機化学 2	2
	基幹教育科目	2	基礎教育科目（選択）	2	有機化学 1	2
	基幹教育科目	2			有機化学 2	2
	基幹教育科目	2				
					分子分光学 1	2
3 年次					化学反応論 2	2
					有機化学 3	2
					先端研究探索	2
					化学実験 1	6
					化学実験 2	6
					分子分光学 2	2
					化学反応論 3	2
					量子化学 2	2
					分析化学 2	2
					無機化学 3	2
					無機化学 4	2
					先端無機化学	2
					無機化学演習	2
					機器分析法	2
					有機化学 4	2
					有機化学演習 1	2
4 年次						
					化学卒業研究A	5
					化学卒業研究B	5
合計		35		30		66
総計	131					

卒業研究	化学に関する最先端の研究
------	--------------

卒業時に習得している能力など	化学・数学・物理学・生物学・地球学などの自然科学全般にわたる幅広い素養を修得する。 特に、化学の専門知識を深め、その周辺領域へ応用し発展させる能力を身に着けている。
----------------	---

理学部履修モデル 生物学科履修モデル（ミクロ）						
養成する具体的な人材像	細胞や個体の構造および機能に関する科目を中心に履修を行い、 自然科学や科学技術の知識および深い論理的思考力を持つ人材を養成する					
履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	University English 1A	1	生物学1	2	生物学の潮流	2
	University English 1B	1	生物学2	2	細胞生物学1	2
	University English 2A	1	微積分1A	2	細胞生物学2	2
	University English 2B	1	入門物理学1	2	代謝生化学1	2
	ドイツ語入門 1	1	生物学実験A	2	植物生態学1	2
	ドイツ語入門 2	1	生物学実験B	2	生物体系学1	2
	総合教養科目	2				
	総合教養科目	2				
	総合教養科目	2				
	総合教養科目	2				
	総合教養科目	2				
	初年次教育科目	2				
	情報リテラシー科目	2				
	健康・スポーツ科学(実習)	1				
	健康・スポーツ科学(講義)	2				
2年次	University English 3A	1	生物学A	2	代謝生化学2	2
	University English 3B	1	生物学B	2	細胞生物学3	2
	総合教養科目	2	地球学入門	2	動物生理学1	2
	総合教養科目	2	確率統計	2	動物生理学2	2
	総合教養科目	2	入門化学	2	植物生理学1	2
	総合教養科目	2			動物生態学1	2
	総合教養科目	2			動物生態学2	2
					植物生態学2	2
					生物体系学2	2
					生物体系学3	2
3年次					生体分析学	2
					植物生理学2	2
					細胞生物学4	2
					発生生物学	2
					酵素化学	2
					専門生物学実験1	8
					専門生物学実験2	8
4年次					生物学卒業演習A	1
					生物学卒業演習B	1
					生物学卒業研究A	5
					生物学卒業研究B	5
合計		35		22		70
総計	127					
卒業研究	分裂酵母の有性生殖に関わる新しい遺伝子の同定					
卒業時に習得している能力など	論理的思考力、生物学のうち特に細胞、個体の構造と機能に関するさまざまな知識および実験手法、 自らの持つ知見を正確に伝える能力					

理学部履修モデル 生物学科履修モデル（マクロ）						
養成する具体的な 人材像	生態や進化、フィールド調査に関する科目を中心に履修を行い、 自然科学や科学技術の知識および深い論理的思考力を持つ人材を養成する					
履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	University English 1A	1	生物学1	2	生物学の潮流	2
	University English 1B	1	生物学2	2	細胞生物学1	2
	University English 2A	1	線形代数1	2	細胞生物学2	2
	University English 2B	1	入門物理学1	2	代謝生化学1	2
	ドイツ語入門 1	1	生物学実験A	2	植物生態学1	2
	ドイツ語入門 2	1	生物学実験B	2	生物体系学1	2
	総合教養科目	2				
	総合教養科目	2				
	総合教養科目	2				
	総合教養科目	2				
	総合教養科目	2				
	初年次教育科目	2				
	情報リテラシー科目	2				
	健康・スポーツ科学(実習)	1				
	健康・スポーツ科学(講義)	2				
2年次	University English 3A	1	生物学A	2	代謝生化学2	2
	University English 3B	1	生物学B	2	細胞生物学3	2
	総合教養科目	2	地球学入門	2	動物生理学1	2
	総合教養科目	2	確率統計	2	動物生理学2	2
	総合教養科目	2	入門化学	2	植物生理学1	2
	総合教養科目	2			動物生態学1	2
	総合教養科目	2			動物生態学2	2
					植物生態学2	2
					生物体系学2	2
					生物体系学3	2
					野外実習	1
3年次					生物体系学4	2
					生物体系学5	2
					機能生態学	2
					数理生態学	2
					専門生物学実験1	8
					専門生物学実験2	8
					臨海実習	1
4年次					生物学卒業演習A	1
					生物学卒業演習B	1
					生物学卒業研究A	5
					生物学卒業研究B	5
合計		35		22		70
総計	127					
卒業研究	森林生態系の物質生産と物質循環に関する研究					
卒業時に習得してい る能力など	論理的思考力、生物学のうち特に生物個体間の関わり、 進化・多様性に関するさまざまな知識および実験手法、自らの持つ知見を正確に伝える能力					

理学部履修モデル
地球学科履修モデル(地球進化学)

養成する具体的な人材像	大学院進学や官公庁・民間企業への人材
-------------	--------------------

履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	University English 1A	1	地球学基礎A（前期）	2	地球学概論A（前期）	2
	University English 1B	1	地球学実験A（前期）	2	地質調査法 1（通年）	2
	ドイツ語入門 1	1	数学基礎教育科目(選択／前期)	2	測量及び地質調査法 1 実習(通年)	2
	ドイツ語入門 2	1	地球学基礎B（後期）	2	地球学野外実習 1（通年）	2
	総合教養科目 1（前期）	2	地球学実験B（後期）	2	地球学概論B（後期）	2
	初年次教育科目（前期）	2	数学基礎教育科目(選択／後期)	2	地形・地質投影法（後期）	2
	情報リテラシー科目(前期)	2	自然科学基礎教育科目(選択／前期)	2		
	その他科目 1（前期）	2	自然科学基礎教育実験科目(選択／後期)	2		
	University English 2A	1	自然科学基礎教育科目(選択／後期)	2		
	University English 2B	1				
	総合教養科目 2（後期）	2				
	健康・スポーツ科学講義(後期)	2				
	健康・スポーツ科学実習(後期)	1				
2 年次	University English 3A	1	自然科学基礎教育科目(選択／前期)	2	地質調査法 2（通年）	2
	University English 3B	1	自然科学基礎教育科目(選択／前期)	2	測量及び地質調査法 2 実習(通年)	2
	総合教養科目 3（後期）	2	自然科学基礎教育科目(選択／後期)	2	地球学野外実習 2（通年）	2
	総合教養科目 4（後期）	2	自然科学基礎教育実験科目(選択／後期)	2	地球物質学 1（前期）	2
	総合教養科目 5（後期）	2			地球物質学 1 実習（前期）	1
	その他科目 2（前期）	2			岩石学 1（前期）	2
	その他科目 3（前期）	2			岩石学 1 実習（前期）	1
	その他科目 4（前期）	2			堆積・層序学（前期）	2
	その他科目 5（後期）	2			堆積・層序学実習（前期）	1
					地球情報学 1（前期）	2
					古生物科学（後期）	2
					古生物科学実習（後期）	1
					固体地球物理学 1（後期）	2
					固体地球物理学 1 実習(後期)	1
					自然災害科学 1（後期）	2
					自然災害科学 1 実習(後期)	1
3 年次					測量及び測地学（前期）	2
					地球学演習A（前期）	2
					地球史学（前期）	2
					自然災害科学 2（前期）	2
					地球学演習B（後期）	2
					地球学卒業演習（後期）	2
					地球物質学 2（後期）	2
					岩石学 2（後期）	2
					変動帯テクトニクス(後期)	2
4 年次					地球学卒業研究A（前期）	5
					地球学ゼミナールA(前期)	2
					地球学卒業研究B（後期）	5
					地球学ゼミナールB(後期)	2
合計		35		26		70
総計	131					

卒業研究	(例) ノルウェー北部 Eidsfjord 剪断帯に発達するマイロナイトの変形機構
------	---

卒業時に習得している能力など	地球進化学に関する基本的知見と高い調査・解析能力
----------------	--------------------------

理学部履修モデル
地球学科履修モデル(地球環境学)

養成する具体的な人材像	大学院進学や官公庁・民間企業への人材
-------------	--------------------

履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	University English 1A	1	地球学基礎A（前期）	2	地球学概論A（前期）	2
	University English 1B	1	地球学実験A（前期）	2	地質調査法 1（通年）	2
	ドイツ語入門 1	1	数学基礎教育科目(選択／前期)	2	測量及び地質調査法 1 実習(通年)	2
	ドイツ語入門 2	1	地球学基礎B（後期）	2	地球学野外実習 1（通年）	2
	総合教養科目 1（前期）	2	地球学実験B（後期）	2	地球学概論B（後期）	2
	初年次教育科目（前期）	2	数学基礎教育科目(選択／後期)	2	地形・地質投影法（後期）	2
	情報リテラシー科目(前期)	2	自然科学基礎教育科目(選択／前期)	2		
	その他科目 1（前期）	2	自然科学基礎教育実験科目(選択／後期)	2		
	University English 2A	1	自然科学基礎教育科目(選択／後期)	2		
	University English 2B	1				
	総合教養科目 2（後期）	2				
	健康・スポーツ科学講義(後期)	2				
	健康・スポーツ科学実習(後期)	1				
2 年次	University English 3A	1	自然科学基礎教育科目(選択／前期)	2	地質調査法 2（通年）	2
	University English 3B	1	自然科学基礎教育科目(選択／前期)	2	測量及び地質調査法 2 実習(通年)	2
	総合教養科目 3（後期）	2	自然科学基礎教育科目(選択／後期)	2	地球学野外実習 2（通年）	2
	総合教養科目 4（後期）	2	自然科学基礎教育実験科目(選択／後期)	2	地球物質学 1（前期）	2
	総合教養科目 5（後期）	2			岩石学 1（前期）	2
	その他科目 2（前期）	2			岩石学 1 実習（前期）	1
	その他科目 3（前期）	2			堆積・層序学（前期）	2
	その他科目 4（前期）	2			堆積・層序学実習（前期）	1
	その他科目 5（後期）	2			地球情報学 1（前期）	2
					地球情報学 1 実習（前期）	1
					古生物科学（後期）	2
					古生物科学実習（後期）	1
					固体地球物理学 1（後期）	2
					固体地球物理学 1 実習(後期)	1
					自然災害科学 1（後期）	2
					自然災害科学 1 実習(後期)	1
3 年次					測量及び測地学（前期）	2
					地球学演習A（前期）	2
					固体地球物理学 2（前期）	2
					自然災害科学 2（前期）	2
					地球史学（前期）	2
					地球学演習B（後期）	2
					地球学卒業演習（後期）	2
					地球情報学 2（後期）	2
					変動帯テクトニクス(後期)	2
4 年次					地球学卒業研究A（前期）	5
					地球学ゼミナールA(前期)	2
					地球学卒業研究B（後期）	5
					地球学ゼミナールB(後期)	2
合計		35		26		70
総計	131					

卒業研究	（例）大阪府泉南地域における堆積物中のアスベストの同定と含有量トレンド
------	-------------------------------------

卒業時に習得している能力など	地球環境学に関する基本的知見と高い調査・解析能力
----------------	--------------------------

理学部履修モデル
生物化学科履修モデル(1)

養成する具体的な人材像	大学、研究機関、企業等における先端科学研究に関連した分野において、広く社会の発展に貢献できる人材
-------------	--

履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	生物化学への招待	2	微積分1A	2	生物化学概論	2
	総合教養科目	2	微積分2	2		
	総合教養科目	2	基礎有機化学A	2		
	総合教養科目	2	基礎有機化学B	2		
	総合教養科目	2	基礎化学実験	2		
	総合教養科目	2	生物学1	2		
	総合教養科目	2	生物学2	2		
	初年次教育科目	2	生物学実験A	2		
	情報リテラシー科目	2				
	University English 1A	1				
	University English 1B	1				
	University English 2A	1				
	University English 2B	1				
	ドイツ語入門 1	1				
	ドイツ語入門 2	1				
	健康・スポーツ科学(講義)	2	生物学2	2		
	健康・スポーツ科学(実習)	1				
2年次	総合教養科目	2	基礎無機・分析化学A	2	生化学1	2
	総合教養科目	2	基礎無機・分析化学B	2	生化学2	2
	総合教養科目	2			細胞生物化学1	2
	University English 3A	1			細胞生物化学2	2
	University English 3B	1			分子生物学1	2
					分子生物学2	2
					基礎物理化学	2
					基礎有機化学	2
					生体分子機能化学	2
					代謝生物化学	2
					生物物理化学	2
					生物有機化学	2
					バイオテクノロジー概論	2
					動物生理化学	2
					生物化学実験1	4
3年次					生化学3	2
					細胞生物化学3	2
					生物化学英語	2
					病態生理化学	2
					ケミカルバイオロジー概論	2
					計算生物化学	2
					細胞生理化学	2
					構造生物学	2
					分子毒性学	2
					生物化学実験2	4
					生物化学実験3	5
					生物化学基礎演習	1
4年次					先端生物化学A	1
					先端生物化学C	1
					生物化学卒業演習A	1
					生物化学卒業演習B	1
					生物化学卒業研究A	5
					生物化学卒業研究B	5
合計		35		22		76
総計	133					

卒業研究	新規糖代謝シグナル伝達経路の解明
------	------------------

卒業時に習得している能力など	数学、物理学、化学、生物学、地球学、生物化学などの自然科学から人文・社会科学に至る幅広い教養。 生物化学領域の専門的知識。グローバルな視点から物事を考える能力。 問題を解決するとともに発展させる能力。国際的に通用する基礎的コミュニケーション能力。
----------------	---

理学部履修モデル
生物化学科履修モデル(2)

養成する具体的な人材像	理科を担当する中学校・高等学校教員
-------------	-------------------

履修年次	基幹教育科目				専門科目	
	総合教養科目など	単位	基礎教育科目	単位	専門科目	単位
1年次	生物化学への招待	2	基礎力学C	2	生物化学概論	2
	総合教養科目	2	基礎電磁気学C	2		
	総合教養科目	2	基礎有機化学A	2		
	総合教養科目	2	基礎有機化学B	2		
	総合教養科目	2	基礎化学実験	2		
	総合教養科目	2	生物学1	2		
	総合教養科目	2	生物学2	2		
	初年次教育科目	2	生物学実験A	2		
	情報リテラシー科目	2				
	University English 1A	1				
	University English 1B	1				
	University English 2A	1				
	University English 2B	1				
	ドイツ語入門 1	1				
	ドイツ語入門 2	1				
	健康・スポーツ科学(講義)	2	生物学2	2		
	健康・スポーツ科学(実習)	1				
2年次	総合教養科目	2	地球学入門	2	生化学1	2
	総合教養科目	2	プログラミング入門B	2	生化学2	2
	総合教養科目	2			細胞生物化学1	2
	University English 3A	1			細胞生物化学2	2
	University English 3B	1			分子生物学1	2
					分子生物学2	2
					基礎物理化学	2
					基礎有機化学	2
					生体分子機能化学	2
					代謝生物化学	2
					生物物理化学	2
					生物有機化学	2
					バイオテクノロジー概論	2
					植物生理化学	2
					生物化学実験1	4
3年次					生化学3	2
					細胞生物化学3	2
					生物化学英語	2
					病態生理化学	2
					ケミカルバイオロジー概論	2
					生命系機器分析学	2
					放射線生物学	2
					構造生物学	2
					分子毒性学	2
					生物化学実験2	4
					生物化学実験3	5
					生物化学基礎演習	1
4年次					先端生物化学A	1
					先端生物化学C	1
					生物化学卒業演習A	1
					生物化学卒業演習B	1
					生物化学卒業研究A	5
					生物化学卒業研究B	5
合計		35		22		76
総計	133					

卒業研究	受容体タンパク質と生理活性ペプチドの相互作用解析
------	--------------------------

卒業時に習得している能力など	数学、物理学、化学、生物学、地球学、生物化学などの自然科学から人文・社会科学に至る幅広い教養。 生物化学領域の専門的知識。国際的に通用する基礎的コミュニケーション能力。
----------------	---

大阪府立中学校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪府立富田林中学校	富田林市谷川町4-30	2名

大阪府立高校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪府立芥川高等学校	高槻市浦堂1-12-1	2名
2	大阪府立旭高等学校	大阪市旭区高殿5-6-41	2名
3	大阪府立芦間高等学校	守口市外島町1-43	2名
4	大阪府立阿武野高等学校	高槻市氷室町3-38-1	2名
5	大阪府立阿倍野高等学校	大阪市阿倍野区阪南町1-30-34	2名
6	大阪府立生野高等学校	松原市新堂1-552	2名
7	大阪府立池田高等学校	池田市旭丘2-2-1	2名
8	大阪府立大正白稜高等学校	大阪市大正区泉尾3-19-50	2名
9	大阪府立和泉高等学校	岸和田市土生町1-2-1	2名
10	大阪府立泉大津高等学校	泉大津市北豊中町1-1-1	2名
11	大阪府立和泉総合高等学校	和泉市富秋町1-14-4	2名
12	大阪府立泉島取高等学校	阪南市緑ヶ丘1-1-10	2名
13	大阪府立市岡高等学校	大阪市港区市岡元町2-12-12	2名
14	大阪府立茨木高等学校	茨木市新庄町12-1	2名
15	大阪府立茨木工科高等学校	茨木市春日5-6-41	2名
16	大阪府立茨木西高等学校	茨木市紫明園10-68	2名
17	大阪府立今宮高等学校	大阪市浪速区戎本町2-7-39	2名
18	大阪府立今宮工科高等学校	大阪市西成区出城1-1-6	2名
19	大阪府立園芸高等学校	池田市八王寺2-5-1	2名
20	大阪府立大冠高等学校	高槻市大塚町4-50-1	2名
21	大阪府教育センター附属高等学校	大阪市住吉区荻田4-1-72	2名
22	大阪府立大塚高等学校	松原市西大塚2-1005	2名
23	大阪府立大手前高等学校	大阪市中央区大手前2-1-11	2名
24	大阪府立鳳高等学校	堺市西区原田150	2名
25	大阪府立貝塚高等学校	貝塚市畠中1-1-1	2名
26	大阪府立貝塚南高等学校	貝塚市橋本620	2名
27	大阪府立懐風館高等学校	羽曳野市大黒776	2名
28	大阪府立春日丘高等学校	茨木市春日2-1-2	2名
29	大阪府立交野高等学校	交野市寺南野10-1	2名
30	大阪府立門真なみはや高等学校	門真市島頭4-9-1	2名
31	大阪府立門真西高等学校	門真市柳田町29-1	2名
32	大阪府立金岡高等学校	堺市北区金岡町2651	2名
33	大阪府立河南高等学校	富田林市錦ヶ丘町1-15	2名
34	大阪府立かわち野高等学校	東大阪市新庄4-11-95	2名
35	大阪府立岸和田高等学校	岸和田市岸城町10-1	2名
36	大阪府立北かわち畠が丘高等学校	寝屋川市寝屋北町1-1	2名
37	大阪府立北千里高等学校	吹田市藤白台5-6-1	2名
38	大阪府立北野高等学校	大阪市淀川区新北野2-5-13	2名
39	大阪府立淀川清流高等学校	大阪市東淀川区豊里2-11-35	2名
40	大阪府立柴島高等学校	大阪市東淀川区柴島1-7-106	2名
41	大阪府立久米田高等学校	岸和田市額原町1100	2名
42	大阪府立高津高等学校	大阪市天王寺区餌差町10-47	2名
43	大阪府立港南造形高等学校	大阪市住之江区南港東2-5-72	2名
44	大阪府立香里丘高等学校	枚方市東中振2-18-1	2名
45	大阪府立金剛高等学校	富田林市藤沢台2-1-1	2名
46	大阪府立堺上高等学校	堺市西区上61	2名
47	大阪府立堺工科高等学校	堺市堺区大仙中町12-1	2名
48	大阪府立堺西高等学校	堺市南区桃山台4-16	2名
49	大阪府立堺東高等学校	堺市南区晴美台1-1-2	2名
50	大阪府立桜塚高等学校	豊中市中桜塚4-1-1	2名
51	大阪府立佐野高等学校	泉佐野市市場東2-398	2名
52	大阪府立佐野工科高等学校	泉佐野市高松東1-3-50	2名
53	大阪府立狭山高等学校	大阪狭山市半田4-1510	2名
54	大阪府立四條畷高等学校	四條畷市雁屋北町1-1	2名
55	大阪府立信太高等学校	和泉市葛の葉町3-6-8	2名
56	大阪府立渋谷高等学校	池田市畑4-1-1	2名
57	大阪府立島本高等学校	三島郡島本町桜井台15-1	2名
58	大阪府立清水谷高等学校	大阪市天王寺区清水谷町2-44	2名
59	大阪府立城東工科高等学校	東大阪市西鴻池町2-5-33	2名
60	大阪府立吹田高等学校	吹田市原町4-24-14	2名
61	大阪府立吹田東高等学校	吹田市青葉丘南16-1	2名
62	大阪府立住吉高等学校	大阪市阿倍野区北畠2-4-1	2名

63	大阪府立成城高等学校	大阪市城東区諏訪3-11-41	2名
64	大阪府立成美高等学校	堺市南区城山台4-1-1	2名
65	大阪府立摂津高等学校	摂津市学園町1-5-1	2名
66	大阪府立泉北高等学校	堺市南区若松台3-2-2	2名
67	大阪府立泉陽高等学校	堺市堺区車之町3-2-1	2名
68	大阪府立千里高等学校	吹田市高野台2-17-1	2名
69	大阪府立千里青雲高等学校	豊中市新千里南町1-5-1	2名
70	大阪府立高石高等学校	高石市千代田6-12-1	2名
71	大阪府立高槻北高等学校	高槻市別所本町36-3	2名
72	大阪府立槻の木高等学校	高槻市城内町2-13	2名
73	大阪府立豊島高等学校	豊中市北緑丘3-2-1	2名
74	大阪府立天王寺高等学校	大阪市阿倍野区三明町2-4-23	2名
75	大阪府立刀根山高等学校	豊中市刀根山6-9-1	2名
76	大阪府立登美丘高等学校	堺市東区西野51	2名
77	大阪府立豊中高等学校	豊中市上野西2-5-12	2名
78	大阪府立富田林高等学校	富田林市谷川町4-30	2名
79	大阪府立長尾高等学校	枚方市長尾家具町5-1-1	2名
80	大阪府立長野高等学校	河内長野市原町2-1-1	2名
81	大阪府立長吉高等学校	大阪市平野区長吉長原西3-11-33	2名
82	大阪府立西成高等学校	大阪市西成区津守1-13-10	2名
83	大阪府立西寝屋川高等学校	寝屋川市葛原2-19-1	2名
84	大阪府立西野田工科高等学校	大阪市福島区大開2-17-62	2名
85	大阪府立寝屋川高等学校	寝屋川市本町15-64	2名
86	大阪府立農芸高等学校	堺市美原区北余部595-1	2名
87	大阪府立野崎高等学校	大東市寺川1-2-1	2名
88	大阪府立豊中高等学校能勢分校	豊能郡能勢町上田尻580	2名
89	大阪府立伯太高等学校	和泉市伯太町2-4-11	2名
90	大阪府立花園高等学校	東大阪市花園東町3-1-25	2名
91	大阪府立阪南高等学校	大阪市住吉区庭井2-18-81	2名
92	大阪府立東住吉高等学校	大阪市平野区平野西2-3-77	2名
93	大阪府立東住吉総合高等学校	大阪市平野区喜連西2-11-66	2名
94	大阪府立東百舌鳥高等学校	堺市中区土塔町2377-5	2名
95	大阪府立東淀川高等学校	大阪市淀川区宮原4-4-5	2名
96	大阪府立日根野高等学校	泉佐野市日根野2372-1	2名
97	大阪府立枚岡樟風高等学校	東大阪市鷹殿町18-1	2名
98	大阪府立枚方高等学校	枚方市大垣内町3-16-1	2名
99	大阪府立枚方津田高等学校	枚方市津田北町2-50-1	2名
100	大阪府立枚方なぎさ高等学校	枚方市磯島元町20-1	2名
101	大阪府立平野高等学校	大阪市平野区長吉川辺4-2-11	2名
102	大阪府立福井高等学校	茨木市西福井3-33-11	2名
103	大阪府立福泉高等学校	堺市西区太平寺323	2名
104	大阪府立藤井寺高等学校	藤井寺市津堂3-516	2名
105	大阪府立藤井寺工科高等学校	藤井寺市御舟町10-1	2名
106	大阪府立布施高等学校	東大阪市下小阪3-14-21	2名
107	大阪府立布施北高等学校	東大阪市荒本西1-2-72	2名
108	大阪府立布施工科高等学校	東大阪市宝持3-7-5	2名
109	大阪府立北摂つばさ高等学校	茨木市玉島台2-15	2名
110	大阪府立牧野高等学校	枚方市南船橋1-11-1	2名
111	大阪府立茨田高等学校	大阪市鶴見区安田1-5-49	2名
112	大阪府立松原高等学校	松原市三宅東3-4-1	2名
113	大阪府立三国丘高等学校	堺市堺区南三国ヶ丘町2-2-36	2名
114	大阪府立岬高等学校	泉南郡岬町淡輪3246	2名
115	大阪府立三島高等学校	高槻市今城町27-1	2名
116	大阪府立みどり清朋高等学校	東大阪市池島町6-3-9	2名
117	大阪府立港高等学校	大阪市港区波除2-3-1	2名
118	大阪府立箕面高等学校	箕面市牧落4-8-66	2名
119	大阪府立箕面東高等学校	箕面市粟生外院5-4-63	2名
120	大阪府立美原高等学校	堺市美原区平尾234-1	2名
121	大阪府立守口東高等学校	守口市八雲中町2-1-32	2名
122	大阪府立八尾高等学校	八尾市高町1-74	2名
123	大阪府立八尾北高等学校	八尾市萱振町7-42	2名
124	大阪府立八尾翠翔高等学校	八尾市神宮寺3-107	2名
125	大阪府立山田高等学校	吹田市山田東3-28-1	2名
126	大阪府立山本高等学校	八尾市山本町北1-1-44	2名

資料2-1

127	大阪府立夕陽丘高等学校	大阪市天王寺区北山町10-10	2名
128	大阪府立淀川工科高等学校	大阪市旭区太子橋3-1-32	2名
129	大阪府立緑風冠高等学校	大東市深野4-12-1	2名
130	大阪府立りんくう翔南高等学校	泉南市樽井2-35-54	2名
131	大阪府立勝山高等学校	大阪市生野区巽東3-10-75	2名
132	大阪府立わかば高等学校	大阪市生野区巽東3-10-75	2名
133	大阪府立桃谷高等学校	大阪市生野区勝山南3-1-4	2名
134	大阪府立柏原東高等学校	柏原市高井田1015	2名
135	大阪府立長野北高等学校	河内長野市木戸東町3-1	2名

大阪市立小学校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	滝川小学校	大阪市北区天満1-24-15	1名
2	堀川小学校	大阪市北区東天満2-10-7	1名
3	西天満小学校	大阪市北区西天満3-12-21	1名
4	菅北小学校	大阪市北区菅栄町9-5	1名
5	豊崎東小学校	大阪市北区長柄中2-3-30	1名
6	豊崎本庄小学校	大阪市北区本庄西2-1-16	1名
7	中津小学校	大阪市北区中津3-34-18	1名
8	大淀小学校	大阪市北区大淀中4-10-33	1名
9	豊仁小学校	大阪市北区長柄西2-6-20	1名
10	豊崎小学校	大阪市北区豊崎4-5-9	1名
11	扇町小学校	大阪市北区扇町2-7-24	1名
12	弘済小学校	吹田市古江台6-2-2	1名
13	弘済小学校分校	高槻市奈佐原956	1名
14	桜宮小学校	大阪市都島区東野田町1-10-19	1名
15	中野小学校	大阪市都島区中野町3-10-5	1名
16	高倉小学校	大阪市都島区高倉町3-3-10	1名
17	淀川小学校	大阪市都島区毛馬町3-5-39	1名
18	都島小学校	大阪市都島区都島本通3-10-3	1名
19	内代小学校	大阪市都島区内代町3-4-6	1名
20	東都島小学校	大阪市都島区都島本通4-24-20	1名
21	大東小学校	大阪市都島区毛馬町2-11-111	1名
22	友渕小学校	大阪市都島区友渕町1-3-123	1名
23	友渕小学校分校	大阪市都島区友渕町1-3-187	1名
24	福島小学校	大阪市福島区福島4-5-6	1名
25	玉川小学校	大阪市福島区玉川2-13-16	1名
26	野田小学校	大阪市福島区野田5-13-22	1名
27	吉野小学校	大阪市福島区吉野3-10-5	1名
28	大開小学校	大阪市福島区大開2-10-28	1名
29	鷺洲小学校	大阪市福島区鷺洲5-6-8	1名
30	海老江東小学校	大阪市福島区海老江1-6-19	1名
31	海老江西小学校	大阪市福島区海老江8-1-10	1名
32	上福島小学校	大阪市福島区福島7-4-33	1名
33	西九条小学校	大阪市此花区西九条4-3-41	1名
34	四貫島小学校	大阪市此花区四貫島2-16-29	1名
35	島屋小学校	大阪市此花区島屋2-9-36	1名
36	伝法小学校	大阪市此花区伝法3-13-10	1名
37	梅香小学校	大阪市此花区梅香3-17-29	1名
38	高見小学校	大阪市此花区高見1-3-35	1名
39	西島小学校	大阪市此花区西島2-5-12	1名
40	春日出小学校	大阪市此花区春日出中1-13-23	1名
41	玉造小学校	大阪市中央区玉造2-3-43	1名
42	南大江小学校	大阪市中央区農人橋1-3-3	1名
43	中大江小学校	大阪市中央区糸屋町2-3-14	1名
44	高津小学校	大阪市中央区高津3-4-21	1名
45	南小学校	大阪市中央区東心斎橋1-14-29	1名
46	開平小学校	大阪市中央区今橋1-5-7	1名
47	中央小学校	大阪市中央区瓦屋町2-8-4	1名
48	西船場小学校	大阪市西区江戸堀1-21-28	1名
49	日吉小学校	大阪市西区南堀江4-9-19	1名
50	九条南小学校	大阪市西区九条南2-13-17	1名
51	九条東小学校	大阪市西区九条2-6-2	1名
52	九条北小学校	大阪市西区九条南4-7-38	1名
53	本田小学校	大阪市西区川口1-5-19	1名
54	堀江小学校	大阪市西区北堀江3-2-16	1名
55	明治小学校	大阪市西区阿波座2-3-35	1名
56	明治小学校(分校)	大阪市西区立売堀4-10-18	1名
57	市岡小学校	大阪市港区市岡3-2-24	1名
58	磯路小学校	大阪市港区磯路3-7-7	1名
59	三先小学校	大阪市港区三先2-6-32	1名

60	田中小学校	大阪市港区田中2-10-34	1名
61	八幡屋小学校	大阪市港区八幡屋3-3-5	1名
62	波除小学校	大阪市港区波除3-6-8	1名
63	築港小学校	大阪市港区築港1-10-38	1名
64	南市岡小学校	大阪市港区南市岡2-6-35	1名
65	港晴小学校	大阪市港区港晴1-3-12	1名
66	弁天小学校	大阪市港区弁天2-9-35	1名
67	池島小学校	大阪市港区池島2-5-47	1名
68	三軒家西小学校	大阪市大正区三軒家西1-20-26	1名
69	泉尾東小学校	大阪市大正区千島1-16-16	1名
70	中泉尾小学校	大阪市大正区泉尾3-23-34	1名
71	北恩加島小学校	大阪市大正区泉尾5-17-31	1名
72	南恩加島小学校	大阪市大正区南恩加島3-6-11	1名
73	鶴町小学校	大阪市大正区鶴町2-6-24	1名
74	泉尾北小学校	大阪市大正区泉尾2-21-24	1名
75	平尾小学校	大阪市大正区平尾2-21-28	1名
76	三軒家東小学校	大阪市大正区三軒家東2-12-59	1名
77	小林小学校	大阪市大正区小林東2-4-45	1名
78	真田山小学校	大阪市天王寺区玉造本町14-41	1名
79	味原小学校	大阪市天王寺区味原町8-19	1名
80	桃陽小学校	大阪市天王寺区堂ヶ芝1-2-23	1名
81	五条小学校	大阪市天王寺区小宮町9-28	1名
82	聖和小学校	大阪市天王寺区寺田町1-6-37	1名
83	大江小学校	大阪市天王寺区四天王寺1-9-18	1名
84	生魂小学校	大阪市天王寺区上汐4-1-25	1名
85	天王寺小学校	大阪市天王寺区大道1-4-49	1名
86	栄小学校	大阪市浪速区浪速東1-1-61	1名
87	難波元町小学校	大阪市浪速区元町1-5-30	1名
88	大国小学校	大阪市浪速区大国1-9-3	1名
89	浪速小学校	大阪市浪速区日本橋西1-7-6	1名
90	敷津小学校	大阪市浪速区敷津東3-9-32	1名
91	塩草立葉小学校	大阪市浪速区塩草1-4-31	1名
92	柏里小学校	大阪市西淀川区柏里2-13-33	1名
93	野里小学校	大阪市西淀川区野里2-21-13	1名
94	姫里小学校	大阪市西淀川区姫里2-8-24	1名
95	姫島小学校	大阪市西淀川区姫島1-10-4	1名
96	福小学校	大阪市西淀川区福町2-5-23	1名
97	大和田小学校	大阪市西淀川区大和田4-3-24	1名
98	川北小学校	大阪市西淀川区中島1-11-20	1名
99	佃小学校	大阪市西淀川区佃1-21-12	1名
100	香簑小学校	大阪市西淀川区御幣島6-5-25	1名
101	歌島小学校	大阪市西淀川区歌島2-5-18	1名
102	出来島小学校	大阪市西淀川区出来島2-2-24	1名
103	佃西小学校	大阪市西淀川区佃2-15-30	1名
104	御幣島小学校	大阪市西淀川区御幣島3-5-5	1名
105	神津小学校	大阪市淀川区十三元今里2-3-12	1名
106	田川小学校	大阪市淀川区田川2-9-37	1名
107	加島小学校	大阪市淀川区加島1-60-28	1名
108	三津屋小学校	大阪市淀川区三津屋中1-4-14	1名
109	新高小学校	大阪市淀川区新高1-15-53	1名
110	野中小学校	大阪市淀川区野中北1-11-26	1名
111	十三小学校	大阪市淀川区十三東4-3-6	1名
112	木川小学校	大阪市淀川区木川東3-7-32	1名
113	三国小学校	大阪市淀川区三国本町3-9-18	1名
114	北中島小学校	大阪市淀川区宮原5-3-4	1名
115	西中島小学校	大阪市淀川区西中島7-14-25	1名
116	塚本小学校	大阪市淀川区塚本3-5-6	1名
117	木川南小学校	大阪市淀川区木川東1-2-36	1名
118	東三国小学校	大阪市淀川区東三国6-3-24	1名
119	西三国小学校	大阪市淀川区西三国1-21-28	1名
120	新東三国小学校	大阪市淀川区東三国3-9-10	1名

121	宮原小学校	大阪市淀川区三国本町1-16-44	1名
122	東淡路小学校	大阪市東淀川区東淡路3-3-32	1名
123	西淡路小学校	大阪市東淀川区西淡路5-5-32	1名
124	菅原小学校	大阪市東淀川区菅原6-3-25	1名
125	新庄小学校	大阪市東淀川区上新庄2-20-5	1名
126	大隅東小学校	大阪市東淀川区瑞光5-8-19	1名
127	豊里小学校	大阪市東淀川区豊里5-14-60	1名
128	啓発小学校	大阪市東淀川区東中島4-8-38	1名
129	小松小学校	大阪市東淀川区小松3-18-15	1名
130	下新庄小学校	大阪市東淀川区下新庄5-2-9	1名
131	井高野小学校	大阪市東淀川区井高野1-28-17	1名
132	大桐小学校	大阪市東淀川区大桐4-1-15	1名
133	豊新小学校	大阪市東淀川区豊新4-17-26	1名
134	東井高野小学校	大阪市東淀川区井高野2-8-28	1名
135	大隅西小学校	大阪市東淀川区大隅2-3-18	1名
136	豊里南小学校	大阪市東淀川区豊里5-12-41	1名
137	大道南小学校	大阪市東淀川区大道南1-23-6	1名
138	東小橋小学校	大阪市東成区東小橋3-10-37	1名
139	大成小学校	大阪市東成区大今里西3-2-62	1名
140	中道小学校	大阪市東成区玉津1-7-39	1名
141	北中道小学校	大阪市東成区中道2-9-20	1名
142	中本小学校	大阪市東成区中本4-2-32	1名
143	東中本小学校	大阪市東成区東中本2-9-3	1名
144	今里小学校	大阪市東成区大今里1-35-29	1名
145	片江小学校	大阪市東成区大今里南2-13-2	1名
146	神路小学校	大阪市東成区大今里4-6-19	1名
147	深江小学校	大阪市東成区深江南1-4-6	1名
148	宝栄小学校	大阪市東成区神路1-15-48	1名
149	北鶴橋小学校	大阪市生野区鶴橋3-4-50	1名
150	御幸森小学校	大阪市生野区桃谷5-5-37	1名
151	鶴橋小学校	大阪市生野区桃谷2-20-32	1名
152	東桃谷小学校	大阪市生野区勝山北3-7-21	1名
153	勝山小学校	大阪市生野区勝山南1-3-5	1名
154	林寺小学校	大阪市生野区林寺2-14-3	1名
155	生野小学校	大阪市生野区舍利寺3-1-39	1名
156	中川小学校	大阪市生野区中川3-4-3	1名
157	東中川小学校	大阪市生野区新今里7-14-37	1名
158	小路小学校	大阪市生野区小路2-24-40	1名
159	東小路小学校	大阪市生野区小路東3-8-15	1名
160	田島小学校	大阪市生野区田島3-7-38	1名
161	舍利寺小学校	大阪市生野区勝山南4-15-25	1名
162	生野南小学校	大阪市生野区林寺6-6-7	1名
163	巽小学校	大阪市生野区巽中3-12-5	1名
164	北巽小学校	大阪市生野区巽北1-30-29	1名
165	西生野小学校	大阪市生野区生野西3-5-7	1名
166	巽南小学校	大阪市生野区巽南2-10-7	1名
167	巽東小学校	大阪市生野区巽東3-8-13	1名
168	清水小学校	大阪市旭区清水5-1-12	1名
169	古市小学校	大阪市旭区森小路2-10-35	1名
170	大宮小学校	大阪市旭区大宮4-9-16	1名
171	高殿小学校	大阪市旭区高殿6-9-10	1名
172	大宮西小学校	大阪市旭区中宮1-8-14	1名
173	生江小学校	大阪市旭区生江1-10-21	1名
174	城北小学校	大阪市旭区赤川3-13-47	1名
175	新森小路小学校	大阪市旭区新森6-3-13	1名
176	太子橋小学校	大阪市旭区太子橋1-12-15	1名
177	高殿南小学校	大阪市旭区高殿3-10-30	1名
178	榎並小学校	大阪市城東区野江4-1-28	1名
179	関目小学校	大阪市城東区関目6-5-5	1名
180	鯉江小学校	大阪市城東区今福西3-9-27	1名
181	今福小学校	大阪市城東区今福南2-1-53	1名

182	聖賢小学校	大阪市城東区新喜多2-4-35	1名
183	嶋野小学校	大阪市城東区嶋野西4-11-48	1名
184	中浜小学校	大阪市城東区中浜2-12-35	1名
185	城東小学校	大阪市城東区嶋野東3-16-41	1名
186	諏訪小学校	大阪市城東区永田2-15-5	1名
187	成育小学校	大阪市城東区成育1-5-19	1名
188	すみれ小学校	大阪市城東区古市2-6-38	1名
189	東中浜小学校	大阪市城東区東中浜5-4-5	1名
190	放出小学校	大阪市城東区放出西2-2-18	1名
191	関目東小学校	大阪市城東区関目4-12-15	1名
192	森之宮小学校	大阪市城東区森之宮1-6-64	1名
193	鯉江東小学校	大阪市城東区今福東1-3-26	1名
194	榎本小学校	大阪市鶴見区今津北1-5-35	1名
195	茨田南小学校	大阪市鶴見区諸口1-3-71	1名
196	茨田北小学校	大阪市鶴見区浜3-8-66	1名
197	鶴見小学校	大阪市鶴見区鶴見4-14-10	1名
198	今津小学校	大阪市鶴見区今津中4-1-48	1名
199	茨田東小学校	大阪市鶴見区茨田大宮3-7-61	1名
200	茨田西小学校	大阪市鶴見区横堤5-13-61	1名
201	横堤小学校	大阪市鶴見区横堤1-11-83	1名
202	みどり小学校	大阪市鶴見区緑2-4-45	1名
203	鶴見南小学校	大阪市鶴見区鶴見2-17-22	1名
204	茨田小学校	大阪市鶴見区安田2-1-8	1名
205	焼野小学校	大阪市鶴見区焼野1-3-44	1名
206	高松小学校	大阪市阿倍野区天王寺町北3-17-19	1名
207	常盤小学校	大阪市阿倍野区松崎町3-11-12	1名
208	常盤小学校分校	大阪市阿倍野区松崎町3-2-9	1名
209	金塚小学校	大阪市阿倍野区旭町3-4-46	1名
210	丸山小学校	大阪市阿倍野区丸山通1-4-43	1名
211	晴明丘小学校	大阪市阿倍野区晴明通10-34	1名
212	阿倍野小学校	大阪市阿倍野区阪南町2-17-21	1名
213	阪南小学校	大阪市阿倍野区阪南町5-7-40	1名
214	長池小学校	大阪市阿倍野区長池町20-26	1名
215	苗代小学校	大阪市阿倍野区阪南町1-26-30	1名
216	晴明丘南小学校	大阪市阿倍野区帝塚山1-23-8	1名
217	粉浜小学校	大阪市住之江区粉浜2-6-6	1名
218	安立小学校	大阪市住之江区住之江1-4-29	1名
219	敷津浦小学校	大阪市住之江区北島2-9-22	1名
220	加賀屋小学校	大阪市住之江区北加賀屋2-5-26	1名
221	住吉川小学校	大阪市住之江区西加賀屋4-1-4	1名
222	北粉浜小学校	大阪市住之江区粉浜1-5-48	1名
223	住之江小学校	大阪市住之江区御崎4-6-43	1名
224	平林小学校	大阪市住之江区平林南2-6-48	1名
225	加賀屋東小学校	大阪市住之江区東加賀屋1-6-25	1名
226	新北島小学校	大阪市住之江区新北島6-2-56	1名
227	南港光小学校	大阪市住之江区南港中4-4-22	1名
228	南港桜小学校	大阪市住之江区南港中5-2-48	1名
229	南港みなみ小学校	大阪市住之江区南港中3-5-14	1名
230	清江小学校	大阪市住之江区御崎5-7-18	1名
231	東粉浜小学校	大阪市住吉区東粉浜2-3-26	1名
232	住吉小学校	大阪市住吉区帝塚山西4-1-35	1名
233	長居小学校	大阪市住吉区長居東3-3-40	1名
234	依羅小学校	大阪市住吉区我孫子4-11-48	1名
235	墨江小学校	大阪市住吉区墨江2-3-46	1名
236	遠里小野小学校	大阪市住吉区遠里小野6-6-27	1名
237	清水丘小学校	大阪市住吉区清水丘2-9-41	1名
238	南住吉小学校	大阪市住吉区南住吉3-5-1	1名
239	大領小学校	大阪市住吉区大領3-3-5	1名
240	苅田小学校	大阪市住吉区苅田3-5-34	1名
241	山之内小学校	大阪市住吉区山之内2-17-39	1名
242	苅田南小学校	大阪市住吉区苅田10-1-35	1名

243	苅田北小学校	大阪市住吉区苅田1-11-39	1名
244	大空小学校	大阪市住吉区我孫子西1-6-12	1名
245	桑津小学校	大阪市東住吉区桑津5-13-13	1名
246	北田辺小学校	大阪市東住吉区北田辺3-11-14	1名
247	田辺小学校	大阪市東住吉区田辺2-3-34	1名
248	東田辺小学校	大阪市東住吉区東田辺2-14-6	1名
249	南田辺小学校	大阪市東住吉区南田辺4-3-4	1名
250	南百済小学校	大阪市東住吉区湯里1-15-40	1名
251	育和小学校	大阪市東住吉区杭全4-10-12	1名
252	鷹合小学校	大阪市東住吉区鷹合3-12-38	1名
253	今川小学校	大阪市東住吉区今川4-24-4	1名
254	矢田小学校	大阪市東住吉区矢田3-4-27	1名
255	矢田東小学校	大阪市東住吉区住道矢田2-7-43	1名
256	矢田西小学校	大阪市東住吉区公園南矢田2-15-43	1名
257	矢田北小学校	大阪市東住吉区照ヶ丘矢田2-1-55	1名
258	湯里小学校	大阪市東住吉区湯里6-8-3	1名
259	長谷川小学校	柏原市円明町3-15	1名
260	喜連小学校	大阪市平野区喜連7-6-4	1名
261	平野西小学校	大阪市平野区背戸口4-1-31	1名
262	平野小学校	大阪市平野区平野宮町1-9-29	1名
263	長吉小学校	大阪市平野区長吉長原2-6-55	1名
264	瓜破小学校	大阪市平野区瓜破5-3-11	1名
265	加美小学校	大阪市平野区加美正覚寺3-13-35	1名
266	加美南部小学校	大阪市平野区加美南1-9-17	1名
267	平野南小学校	大阪市平野区平野南2-3-8	1名
268	長吉東小学校	大阪市平野区長吉出戸8-8-41	1名
269	喜連西小学校	大阪市平野区喜連西3-17-61	1名
270	長吉南小学校	大阪市平野区長吉六反3-2-17	1名
271	瓜破北小学校	大阪市平野区瓜破1-8-33	1名
272	長原小学校	大阪市平野区長吉長原東3-10-9	1名
273	喜連東小学校	大阪市平野区喜連東2-2-17	1名
274	瓜破東小学校	大阪市平野区瓜破東2-5-78	1名
275	加美北小学校	大阪市平野区加美北7-4-10	1名
276	長吉出戸小学校	大阪市平野区長吉出戸3-1-43	1名
277	瓜破西小学校	大阪市平野区瓜破西2-1-43	1名
278	喜連北小学校	大阪市平野区喜連1-7-4	1名
279	加美東小学校	大阪市平野区加美東5-9-25	1名
280	川辺小学校	大阪市平野区長吉川辺1-4-9	1名
281	新平野西小学校	大阪市平野区背戸口1-5-22	1名
282	天下茶屋小学校	大阪市西成区聖天下1-11-35	1名
283	岸里小学校	大阪市西成区千本中1-8-22	1名
284	玉出小学校	大阪市西成区玉出中2-13-48	1名
285	千本小学校	大阪市西成区千本中2-8-8	1名
286	橘小学校	大阪市西成区橘2-1-29	1名
287	梅南津守小学校	大阪市西成区梅南3-2-25	1名
288	松之宮小学校	大阪市西成区旭3-5-39	1名
289	長橋小学校	大阪市西成区長橋2-3-21	1名
290	北津守小学校	大阪市西成区北津守3-3-40	1名
291	南津守小学校	大阪市西成区南津守6-1-14	1名
292	新今宮小学校	大阪市西成区花園北1-8-32	1名

大阪市立中学校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	天満中学校	大阪市北区神山町12-9	2名
2	北稜中学校	大阪市北区天満橋1-1-58	2名
3	大淀中学校	大阪市北区大淀中2-1-11	2名
4	豊崎中学校	大阪市北区本庄東3-4-8	2名
5	新豊崎中学校	大阪市北区長柄東2-2-30	2名
6	弘済中学校	吹田市古江台6-2-2	2名
7	弘済中学校分校	高槻市奈佐原956	2名
8	高倉中学校	大阪市都島区御幸町1-1-10	2名
9	桜宮中学校	大阪市都島区東野田町5-16-10	2名
10	都島中学校	大阪市都島区中野町3-9-33	2名
11	淀川中学校	大阪市都島区毛馬町3-5-12	2名
12	友渕中学校	大阪市都島区友渕町1-5-151	2名
13	八阪中学校	大阪市福島区鷺洲6-1-13	2名
14	下福島中学校	大阪市福島区玉川1-4-11	2名
15	野田中学校	大阪市福島区吉野5-9-4	2名
16	春日出中学校	大阪市此花区春日出南1-2-8	2名
17	梅香中学校	大阪市此花区春日出北3-12-24	2名
18	此花中学校	大阪市此花区高見2-14-31	2名
19	咲くやこの花中学校	大阪市此花区西九条6-1-44	2名
20	東中学校	大阪市中央区大手前4-1-5	2名
21	南中学校	大阪市中央区島之内1-10-23	2名
22	上町中学校	大阪市中央区上本町西3-2-30	2名
23	西中学校	大阪市西区千代崎3-1-43	2名
24	花乃井中学校	大阪市西区江戸堀2-8-29	2名
25	堀江中学校	大阪市西区南堀江3-5-7	2名
26	市岡中学校	大阪市港区磯路1-5-21	2名
27	港中学校	大阪市港区池島1-5-35	2名
28	港南中学校	大阪市港区三先1-5-28	2名
29	市岡東中学校	大阪市港区市岡元町3-2-18	2名
30	築港中学校	大阪市港区築港1-2-41	2名
31	大正東中学校	大阪市大正区三軒家東4-4-30	2名
32	大正中央中学校	大阪市大正区小林東3-23-5	2名
33	大正西中学校	大阪市大正区南恩加島6-14-37	2名
34	大正北中学校	大阪市大正区北村3-1-1	2名
35	天王寺中学校	大阪市天王寺区北河堀町6-20	2名
36	夕陽丘中学校	大阪市天王寺区小宮町6-28	2名
37	高津中学校	大阪市天王寺区城南寺町1-31	2名
38	難波中学校	大阪市浪速区塩草1-1-59	2名
39	日本橋中学校	大阪市浪速区日本橋西1-7-6	2名
40	木津中学校	大阪市浪速区戎本町1-3-46	2名
41	淀中学校	大阪市西淀川区大和田6-13-6	2名
42	西淀中学校	大阪市西淀川区姫島6-10-5	2名
43	歌島中学校	大阪市西淀川区歌島2-11-9	2名
44	佃中学校	大阪市西淀川区佃2-15-93	2名
45	十三中学校	大阪市淀川区十三東5-1-27	2名
46	新北野中学校	大阪市淀川区新北野2-13-37	2名
47	三国中学校	大阪市淀川区西三国2-5-24	2名
48	美津島中学校	大阪市淀川区加島1-54-41	2名
49	東三国中学校	大阪市淀川区東三国6-3-68	2名
50	宮原中学校	大阪市淀川区西宮原3-3-2	2名
51	淡路中学校	大阪市東淀川区西淡路4-25-53	2名
52	柴島中学校	大阪市東淀川区柴島2-8-36	2名
53	瑞光中学校	大阪市東淀川区瑞光4-9-37	2名
54	中島中学校	大阪市東淀川区東中島4-8-38	2名
55	東淀中学校	大阪市東淀川区豊里6-25-19	2名
56	井高野中学校	大阪市東淀川区井高野2-8-13	2名
57	新東淀中学校	大阪市東淀川区豊里1-10-32	2名

58	大桐中学校	大阪市東淀川区大桐4-5-8	2名
59	東陽中学校	大阪市東成区深江北2-5-7	2名
60	本庄中学校	大阪市東成区東中本3-14-2	2名
61	玉津中学校	大阪市東成区玉津1-12-36	2名
62	相生中学校	大阪市東成区神路2-8-16	2名
63	大池中学校	大阪市生野区中川6-3-6	2名
64	桃谷中学校	大阪市生野区勝山北3-13-44	2名
65	生野中学校	大阪市生野区生野西3-5-40	2名
66	東生野中学校	大阪市生野区新今里7-9-25	2名
67	田島中学校	大阪市生野区田島5-23-7	2名
68	巽中学校	大阪市生野区巽中3-17-20	2名
69	新生野中学校	大阪市生野区巽東3-3-12	2名
70	新巽中学校	大阪市生野区巽南4-2-53	2名
71	旭陽中学校	大阪市旭区高殿5-9-31	2名
72	大宮中学校	大阪市旭区中宮4-7-11	2名
73	旭東中学校	大阪市旭区新森6-7-25	2名
74	今市中学校	大阪市旭区大宮5-13-40	2名
75	放出中学校	大阪市城東区放出西3-12-10	2名
76	蒲生中学校	大阪市城東区中央3-9-24	2名
77	城陽中学校	大阪市城東区嶋野西3-3-64	2名
78	董中学校	大阪市城東区古市1-18-4	2名
79	城東中学校	大阪市城東区永田3-3-58	2名
80	鯉江中学校	大阪市城東区今福西4-7-20	2名
81	茨田中学校	大阪市鶴見区諸口3-4-44	2名
82	緑中学校	大阪市鶴見区鶴見6-6-11	2名
83	茨田北中学校	大阪市鶴見区茨田大宮1-1-31	2名
84	今津中学校	大阪市鶴見区今津中1-3-55	2名
85	横堤中学校	大阪市鶴見区横堤1-11-27	2名
86	昭和中学校	大阪市阿倍野区桃ヶ池町2-3-17	2名
87	文の里中学校	大阪市阿倍野区美章園1-5-52	2名
88	阪南中学校	大阪市阿倍野区北畠1-16-24	2名
89	松虫中学校	大阪市阿倍野区松虫通3-4-45	2名
90	阿倍野中学校	大阪市阿倍野区昭和町3-2-4	2名
91	住吉第一中学校	大阪市住之江区粉浜西1-5-11	2名
92	加賀屋中学校	大阪市住之江区西加賀屋2-9-20	2名
93	住之江中学校	大阪市住之江区御崎8-1-6	2名
94	新北島中学校	大阪市住之江区新北島8-2-46	2名
95	南港北中学校	大阪市住之江区南港中4-3-39	2名
96	南港南中学校	大阪市住之江区南港中3-5-14	2名
97	真住中学校	大阪市住之江区御崎2-2-32	2名
98	水都国際中学校	大阪市住之江区南港中3-7-13	2名
99	三稜中学校	大阪市住吉区千駄1-5-22	2名
100	我孫子中学校	大阪市住吉区我孫子東1-4-32	2名
101	住吉中学校	大阪市住吉区帝塚山西3-5-6	2名
102	大和川中学校	大阪市住吉区遠里小野2-11-4	2名
103	東我孫子中学校	大阪市住吉区苅田1-16-2	2名
104	墨江丘中学校	大阪市住吉区墨江4-15-34	2名
105	大領中学校	大阪市住吉区大領4-3-25	2名
106	我孫子南中学校	大阪市住吉区浅香1-8-55	2名
107	田辺中学校	大阪市東住吉区南田辺4-7-24	2名
108	東住吉中学校	大阪市東住吉区桑津5-17-25	2名
109	中野中学校	大阪市東住吉区中野4-4-25	2名
110	矢田中学校	大阪市東住吉区住道矢田9-7-55	2名
111	白鷺中学校	大阪市東住吉区今川1-2-21	2名
112	矢田南中学校	大阪市東住吉区矢田3-4-27	2名
113	矢田西中学校	大阪市東住吉区公園南矢田2-12-47	2名
114	長谷川中学校	柏原市円明町3-15	2名
115	摂陽中学校	大阪市平野区平野西3-4-7	2名
116	平野中学校	大阪市平野区背戸口1-16-26	2名

117	長吉中学校	大阪市平野区長吉長原東1-6-15	2名
118	瓜破中学校	大阪市平野区瓜破2-5-31	2名
119	加美中学校	大阪市平野区加美正覚寺3-13-46	2名
120	長吉西中学校	大阪市平野区長吉長原西3-8-21	2名
121	喜連中学校	大阪市平野区喜連西6-2-11	2名
122	長吉六反中学校	大阪市平野区長吉六反4-9-61	2名
123	瓜破西中学校	大阪市平野区瓜破西2-12-22	2名
124	加美南中学校	大阪市平野区加美南1-10-15	2名
125	平野北中学校	大阪市平野区平野宮町1-8-55	2名
126	天下茶屋中学校	大阪市西成区橘1-8-2	2名
127	今宮中学校	大阪市西成区花園北1-8-32	2名
128	成南中学校	大阪市西成区千本中1-17-10	2名
129	鶴見橋中学校	大阪市西成区長橋3-9-23	2名
130	玉出中学校	大阪市西成区玉出西1-15-37	2名
131	梅南中学校	大阪市西成区梅南3-3-17	2名

大阪市立高校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪市立桜宮高等学校	大阪市都島区毛馬町5-22-28	2名
2	大阪市立東高等学校	大阪市都島区東野田町4-15-14	2名
3	大阪市立南高等学校	大阪市中央区谷町6-17-32	2名
4	大阪市立西高等学校	大阪市西区北堀江4-7-1	2名
5	大阪市立汎愛高等学校	大阪市鶴見区今津中2-1-52	2名
6	大阪市立高等学校	枚方市北中振2-8-1	2名
7	大阪市立淀商業高等学校	大阪市西淀川区野里3-3-15	2名
8	大阪市立鶴見商業高等学校	大阪市鶴見区緑2-10-9	2名
9	大阪市立住吉商業高等学校	大阪市住之江区御崎7-12-55	2名
10	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校	大阪市天王寺区烏ヶ辻2-9-26	2名
11	大阪市立水都国際高等学校	大阪市住之江区南港中3-7-13	2名
12	大阪市立都島工業高等学校	大阪市都島区善源寺町1-5-64	2名
13	大阪市立泉尾工業高等学校	大阪市大正区泉尾5-16-7	2名
14	大阪市立東淀工業高等学校	大阪市淀川区加島1-52-81	2名
15	大阪市立生野工業高等学校	大阪市生野区生野東2-3-66	2名
16	大阪市立工芸高等学校	大阪市阿倍野区文の里1-7-2	2名
17	大阪市立扇町総合高等学校	大阪市北区松ヶ枝町1-38	2名
18	大阪市立咲くやこの花高等学校	大阪市此花区西九条6-1-44	2名
19	大阪市立中央高等学校	大阪市中央区釣鐘町1-1-5	2名

資料3 理学部 新キャンパス整備に伴う校地（教育実施場所）遷移について

学部

2022年度
・新大学開学

		学年			
		1年	2年	3年	4年
新大学	生物化学科以外	杉本			
	生物化学科				
大阪府立大学			中百舌鳥		
大阪市立大学			杉本		



2023年度

		1年	2年	3年	4年
新大学	生物化学科以外	杉本※2			
	生物化学科				
大阪府立大学				中百舌鳥	
大阪市立大学				杉本	



2024年度
・杉本新築学
舎開設

		1年	2年	3年	4年
新大学	生物化学科以外	杉本※2		杉本	
	生物化学科			中百舌鳥	
大阪府立大学					中百舌鳥※1
大阪市立大学					杉本

※1 旧学部学生は入学時のキャンパス（ただし府大理学類分子科学課程の2024年度4年生は杉本）



2025年度
・森之宮キャン
パス開設
・杉本改修学
舎開設(1期)

		1年	2年	3年	4年
新大学	生物化学科以外	森之宮※2		杉本	
	生物化学科			中百舌鳥	

※2 生物化学科のみ、2年後期の一部は中百舌鳥(週2日)



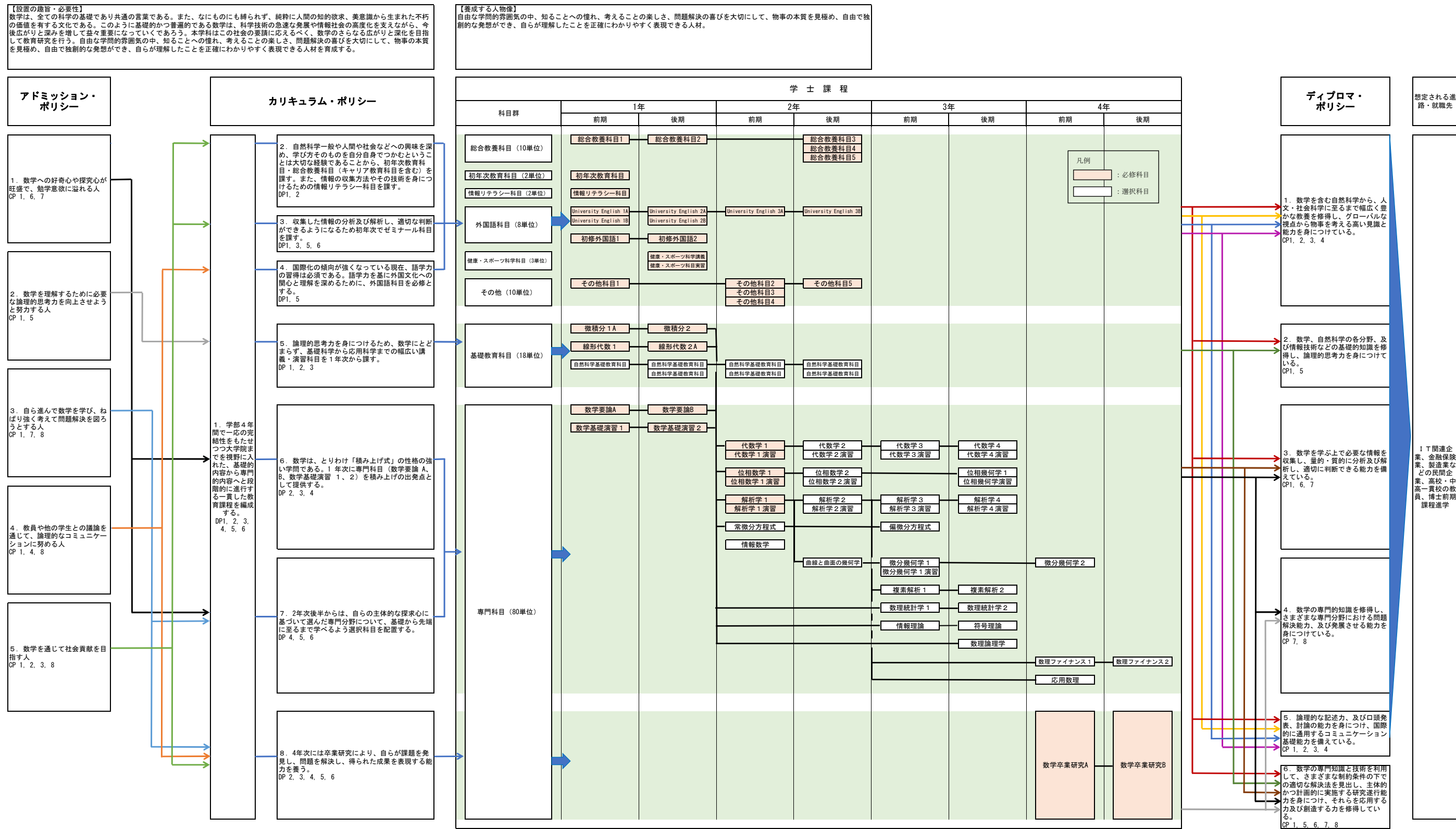
2026年度
・杉本改修学
舎開設(2期)

		1年	2年	3年	4年
新大学	生物化学科以外	森之宮※3		杉本	
	生物化学科			※4	中百舌鳥

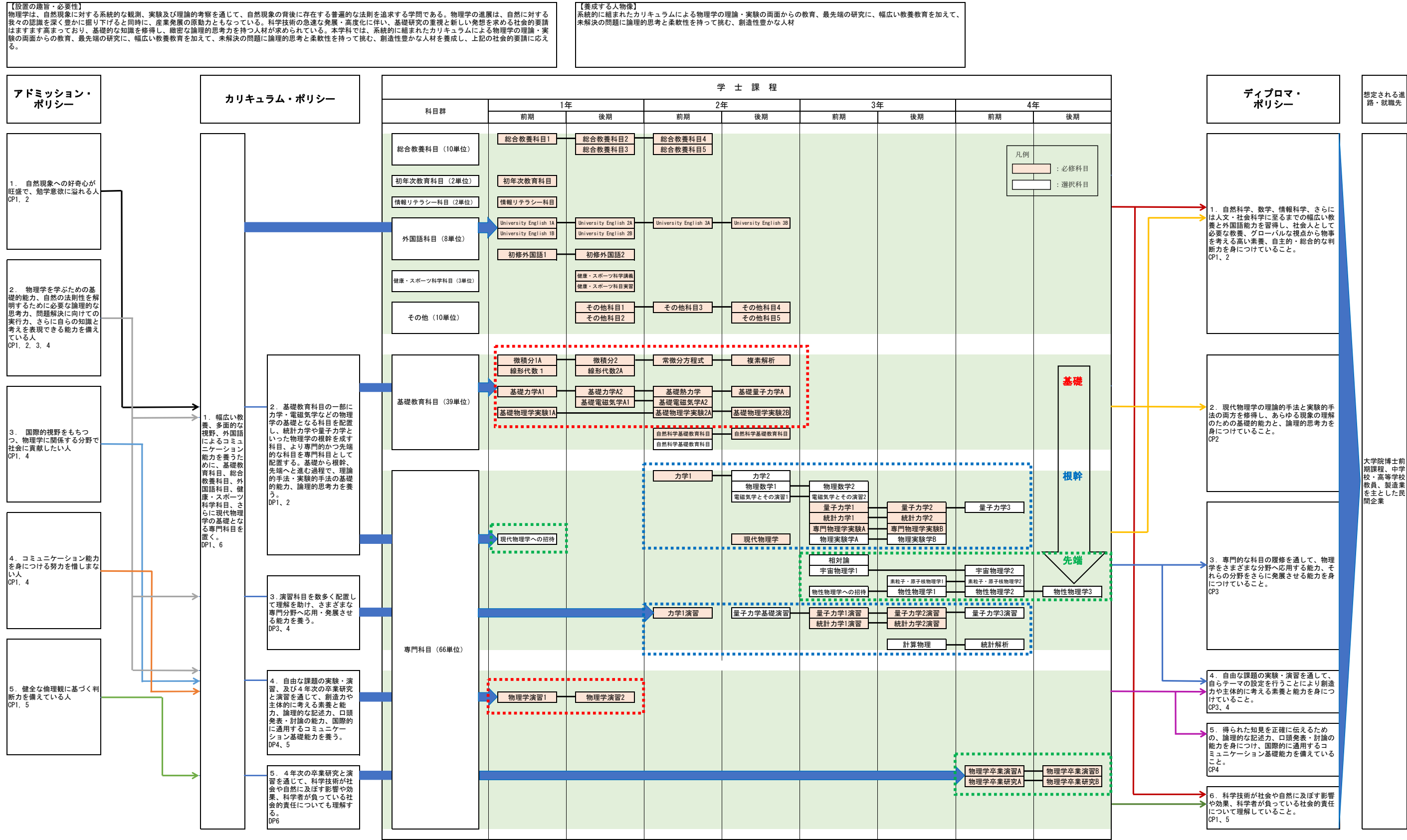
※3 生物化学科のみ、2年後期の一部は杉本(週2日)

※4 改修学舎(2期)に生物化学科の学生実験室を整備

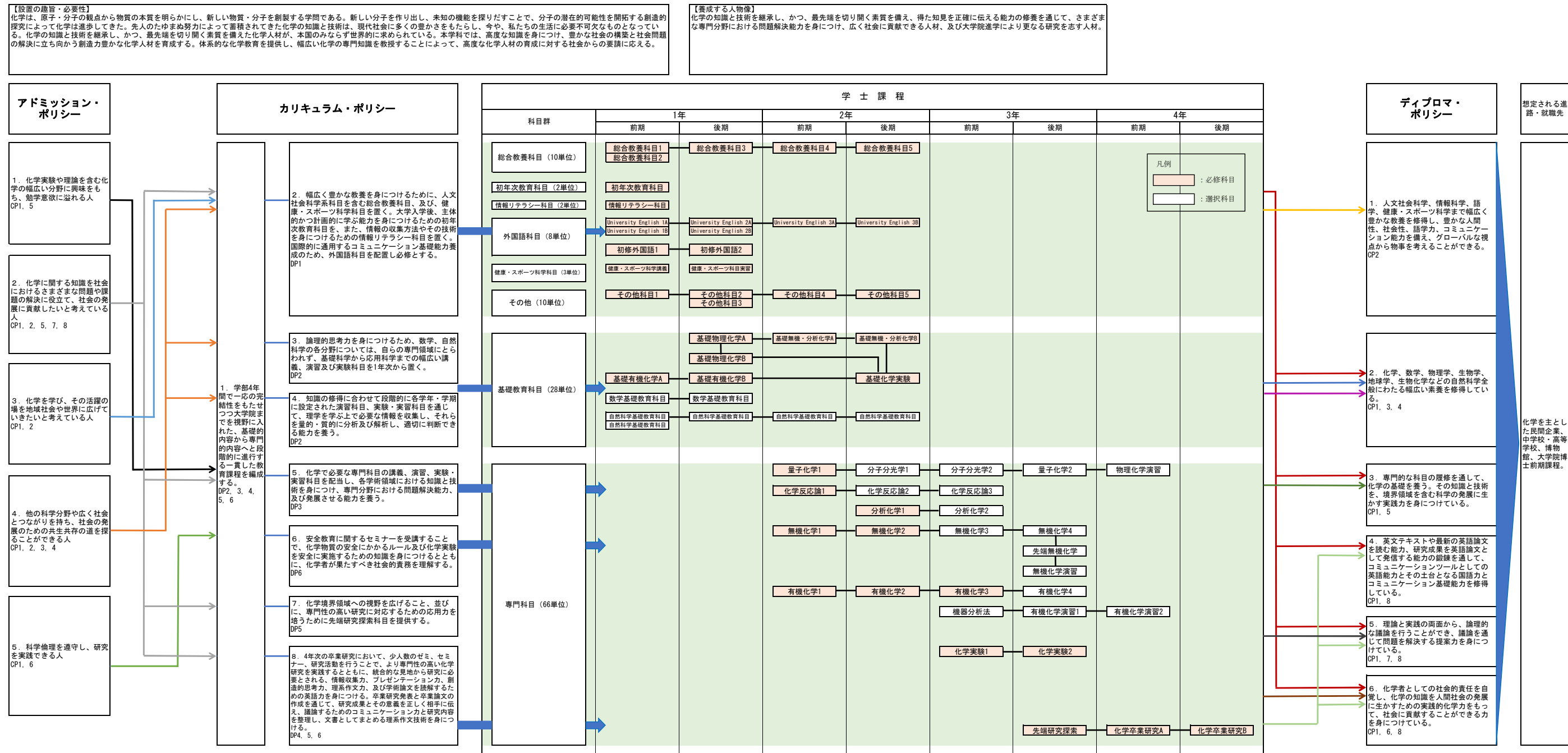
資料4
理学部 数学科 カリキュラムマップ



資料 4
理 学 部 物 理 学 科 カリキュラムマップ



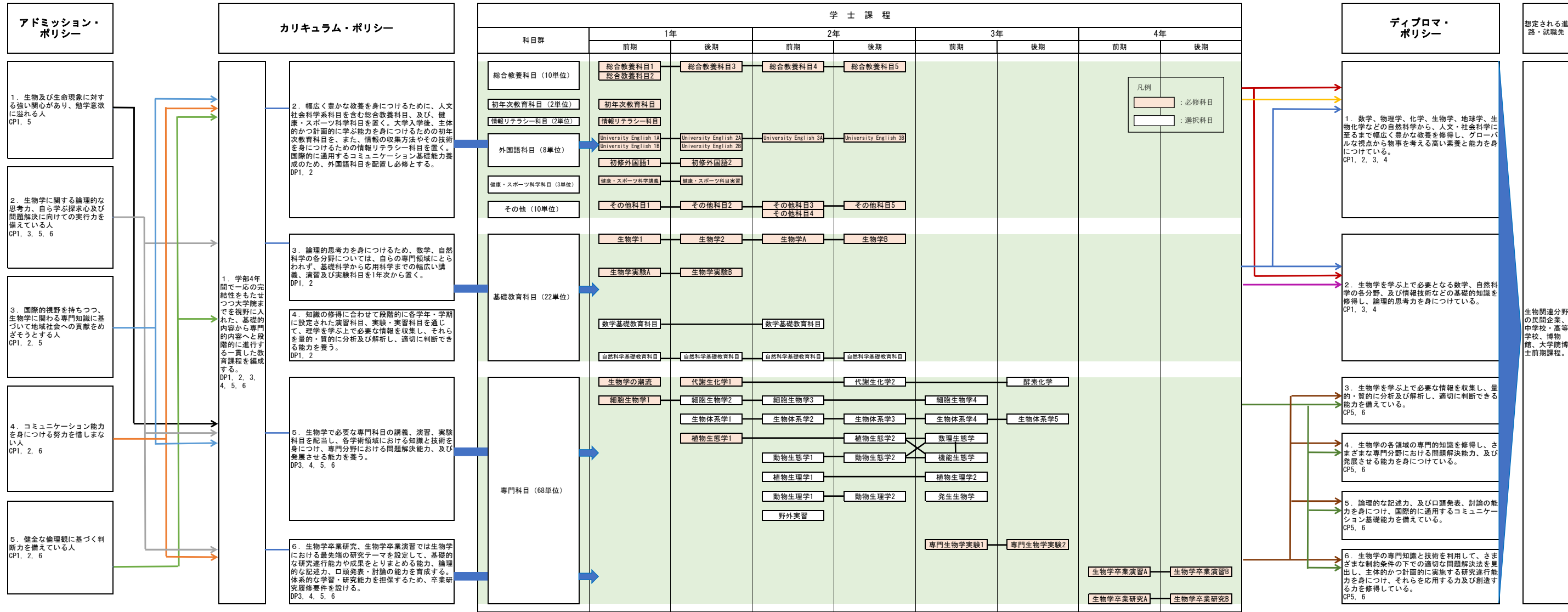
資料4
理化学部 化学科 カリキュラムマップ



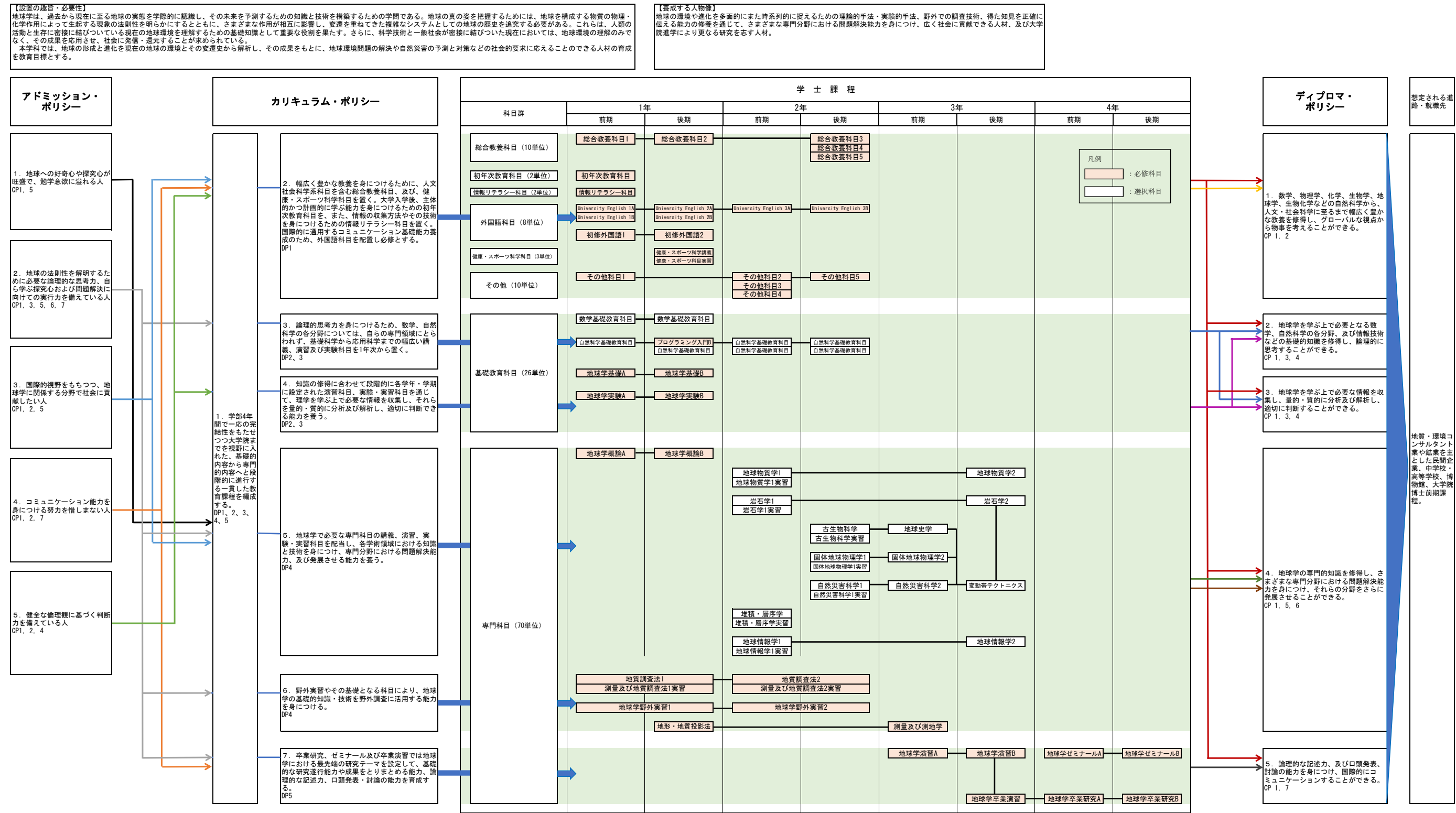
資料 4
理学部 生物学科 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】
地球上の生物はたった一つの祖先を起源とし、進化を繰り返すことで多様化してきた。そして現在、動物、植物、微生物などの多様な生物がお互いに関わり合い、生態系を作り出している。生物学は、これらの生物を分子・細胞から生態系に至る幅広い階層で解析し、生物の進化・多様性の本質及び生命現象の普遍性を探求する学問である。急速に発展する現代社会では、生物にまつわる種々の問題が存在する。それらの問題を正しく理解し、解決できる人材が、今まさに求められている。本学科では、体系的に組まれたカリキュラムにより、生物学に関する幅広い専門知識と柔軟な思考力及び実験技術を修得し、高い創造性を磨き、それによりさまざまな問題を自発的に考えて解決することができる人材の育成を行う。

【養成する人物像】
生物学における専門的知識、生物学に関するさまざまな実験技術、自身が持つ知見を正確に伝える能力の修養を通じて身につけた主体的な探究心と、高い洞察力、論理的思考力と問題解決能力を有し、グローバルな視点から物事を考える高い素養と創造力を身につけた、次世代の社会を担う人材。



資料4
理学部 地球学科 カリキュラムマップ



資料4
理学部 生物化学科 カリキュラムマップ

